NX300h

取扱説明書

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 11
イラスト目次..... 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ..... 35
お子さまの安全のために 43
チャイルドシート..... 44
排気ガスに対する注意 67

1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 68
ハイブリッドシステムの注意 73

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 78
オートアラーム..... 79

2 メーターの見方

2. メーターの見方
警告灯／表示灯..... 86
計器類 90
マルチインフォメーション
ディスプレイ 95
カラーヘッドアップ
ディスプレイ 100
エネルギーモニター／
Harmonious Driving
Navi. 画面／燃費画面..... 106

3 各部の操作

3-1. キーの取り扱い
キー 114

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 119
バックドア..... 125
スマートエントリー＆
スタートシステム 137

3-3. シートの調整
フロントシート 143
リヤシート..... 144
パワーイージー
アクセスシステム／
ポジションメモリー／
メモリーコール機能 152
ヘッドレスト 157

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 159
インナーミラー 161
ドアミラー..... 163

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 166
ムーンルーフ..... 170
電動サンシェード 175

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 178
荷物を積むときの注意..... 187

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 189
EV ドライブモード 195
トランスミッション..... 197
方向指示レバー..... 202
電動パーキングブレーキ..... 203
ブレーキホールド..... 207
ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 209

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 210
オートマチックハイビーム 213
フォグランプスイッチ..... 218
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 220
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 223

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 225

4-5. 運転支援装置について

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）..... 230
クルーズコントロール 243
LDA（ステアリング制御付）.... 247
クリアランスソナー＆バックソナー..... 258
ドライブモードセレクトスイッチ 267
運転を補助する装置 270
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）..... 277
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 283

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 288
寒冷時の運転..... 290

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン..... 294

ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーター..... 304

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 307

・フロントインテリア
ランプ 308

・パーソナルランプ..... 308

・リヤインテリアランプ..... 309

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧 310

・グローブボックス..... 311

・コンソールボックス..... 311

・カップホルダー／
ボトルホルダー 312

・サングラスホルダー..... 313

・カードホルダー 314

ラゲージルーム内装備..... 315

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 321

・サンバイザー 321

・バニティミラー 321

・時計 322

・アクセサリーソケット..... 322

・アクセサリーコンセント
（100W タイプ）..... 323

・アクセサリーコンセント
（1500W タイプ）..... 325

・おくだけ充電
（ ワイヤレス充電器 ）..... 331

・リヤアームレスト..... 337

・アシストグリップ..... 337

・コートフック 338

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 340

内装の手入れ..... 344

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 347

ガレージジャッキ 350

エンジンルームカバー 352

ウォッシャー液の補充 353

タイヤについて 354

タイヤ空気圧について 363

エアコンフィルターの交換 365

電子キーの電池交換 367

ヒューズの点検、交換 369

電球（バルブ）の交換 373

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 388
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 389
発炎筒 390
車両を緊急停止するには..... 392

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 393
警告灯がついたときは..... 401
警告メッセージが表示されたときは 406
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 411
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 423
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 438
シフトレバーがシフトできないときは..... 440
電子キーが正常に働かないときは..... 441
補機バッテリーがあがったときは..... 445
オーバーヒートしたときは 451
スタックしたときは..... 455

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）... 458

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 462

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 472

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 474
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 477
アルファベット順さくいん 479
五十音順さくいん 481

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- ETC システム／ITS スポットサービス（DSRC）
- ハンズフリー
- G-Link

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・電気モーター回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション
・駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データーが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル･アンテナ位置･取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています

本書の見方

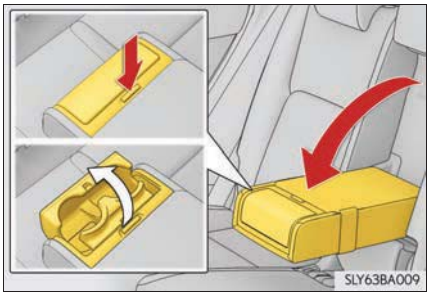
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

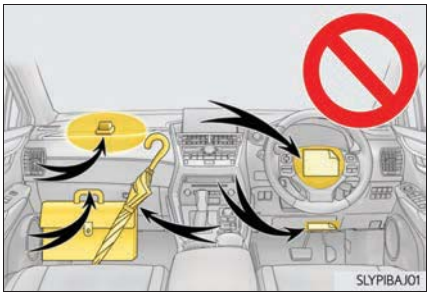
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

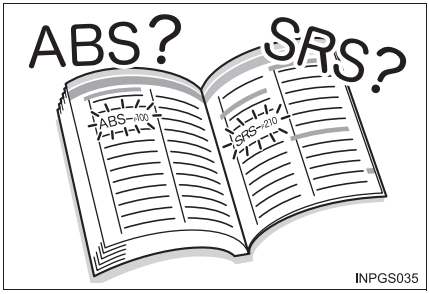


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

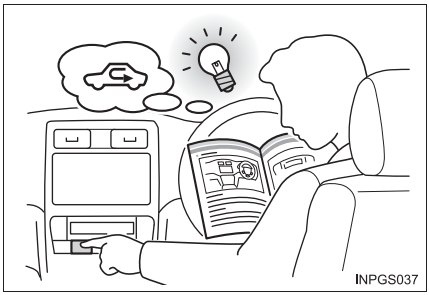
■ **名称から探す**

・五十音順さくいん.....481
・アルファベット順
さくいん 479



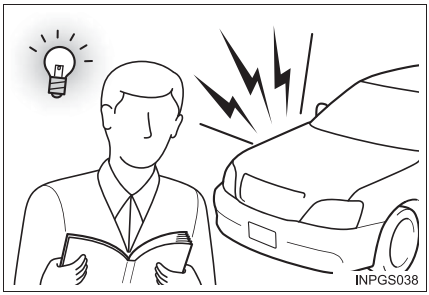
■ **取り付け位置から探す**

・イラスト目次.....12



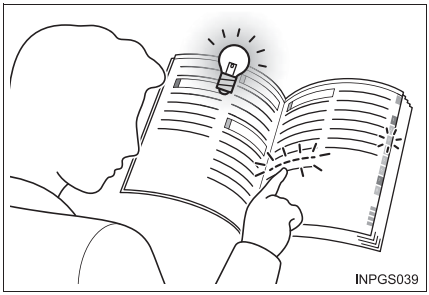
■ **症状や音から探す**

・こんなときは
（症状別さくいん）.....474
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....477



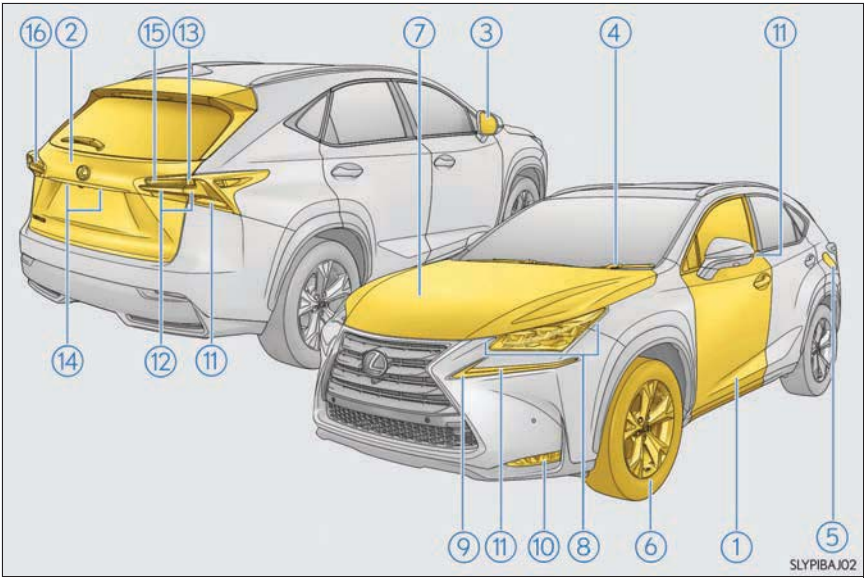
■ **タイトルから探す**

・目次 2



イラスト目次

■外観



① **ドア . . . . . P. 119**

施錠／解錠 . . . . . P. 119, 121

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 166

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 441

警告メッセージ . . . . . P. 406

② **バックドア . . . . . P. 125**

車内から開ける★ . . . . . P. 126

車外から開ける . . . . . P. 126

警告メッセージ . . . . . P. 406

③ **ドアミラー . . . . . P. 163**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 163

ミラーの格納 . . . . . P. 163

調整位置の登録★ . . . . . P. 153

曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . P. 298

④ **ワイパー** . . . . . **P. 220**
冬季の注意 . . . . . P. 290
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ . . . . . P. 298
洗車時の注意 . . . . . P. 342
⑤ **給油口** . . . . . **P. 225**
給油方法 . . . . . P. 225
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 458
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 354**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 461
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 290
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム . . . . . P. 354
パンク時の対処 . . . . . P. 411, 423
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 347**
開け方 . . . . . P. 347
エンジンルームカバー . . . . . P. 352
エンジンオイル . . . . . P. 458
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 451
警告メッセージ . . . . . P. 406

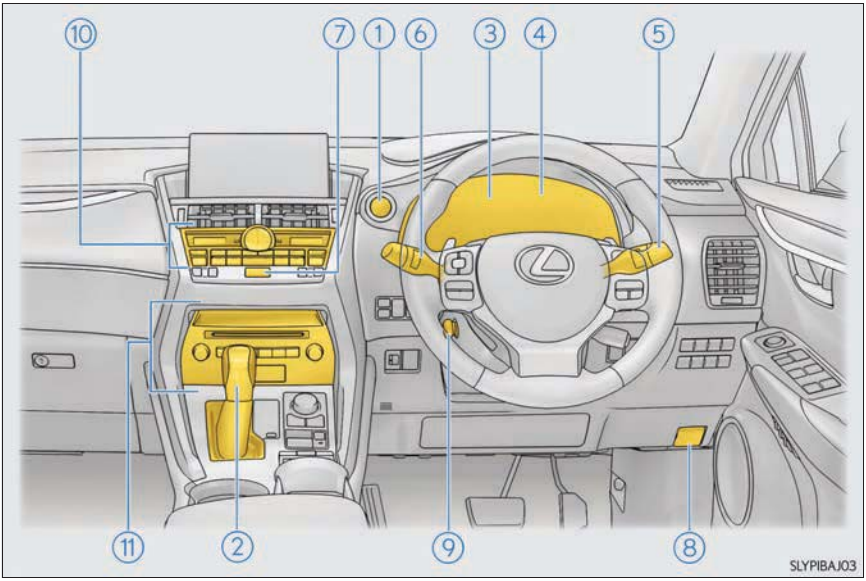
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 373, ワット数：P. 461）

⑧ ヘッドランプ . . . . . .P. 210
⑨ 車幅灯・LED デイライト. . . . . .P. 210
⑩ フロントフォグランプ . . . . . .P. 218
コーナーリングランプ . . . . . .P. 211
⑪ 方向指示灯. . . . . .P. 202
⑫ 尾灯 . . . . . .P. 210
⑬ 制動灯
緊急ブレーキシグナル . . . . . .P. 271
⑭ 番号灯. . . . . .P. 210
⑮ リヤフォグランプ★ . . . . . .P. 218
⑯ 後退灯
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 197

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **パワースイッチ . . . . . .P. 189**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . .P. 189, 190

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . .P. 392

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . .P. 438

警告メッセージ . . . . . .P. 406

② **シフトレバー . . . . . .P. 197**

シフトポジションの切りかえ . . . . . .P. 197

けん引時の注意 . . . . . .P. 393

シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . .P. 440

③ **メーター . . . . . .P. 90**

見方・明るさの調整 . . . . . .P. 90, 92

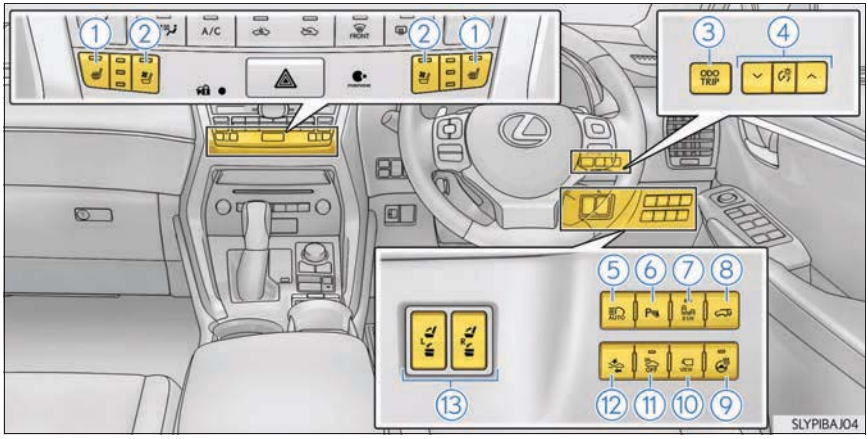
警告灯／表示灯 . . . . . .P. 86

警告灯点灯時の対処 . . . . . .P. 401

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 95**
表示内容 . . . . . .P. 95
エネルギーモニター . . . . . .P. 106
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . .P. 406
⑤ **方向指示レバー . . . . . .P. 202**
ランプスイッチ . . . . . .P. 210
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト . . . . . .P. 210
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ . . . . . .P. 218
⑥ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 220, 223**
使い方. . . . . .P. 220, 223
ウォッシャー液の補充 . . . . . .P. 353
⑦ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 389**
⑧ **ボンネット解除レバー . . . . . .P. 347**
⑨ **ハンドル位置調整スイッチ. . . . . .P. 159**
調整方法 . . . . . .P. 159
調整位置の登録★. . . . . .P. 153
⑩ **オートエアコン . . . . . .P. 294**
操作方法 . . . . . .P. 294
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー). . . . . .P. 298
⑪ **オーディオ※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

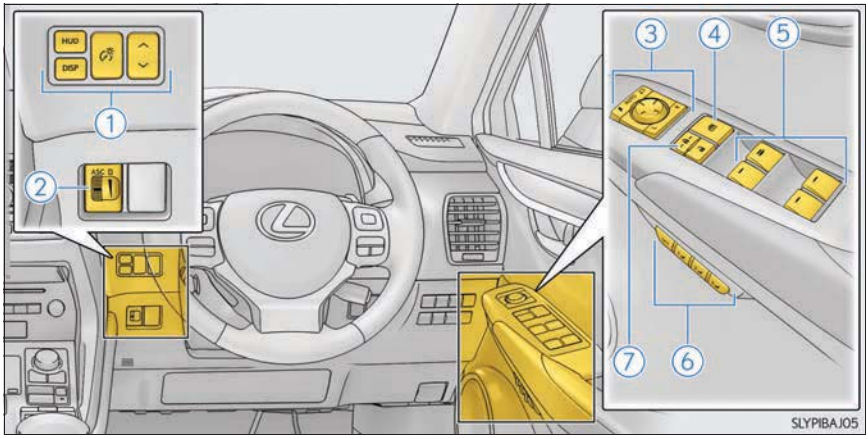
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類

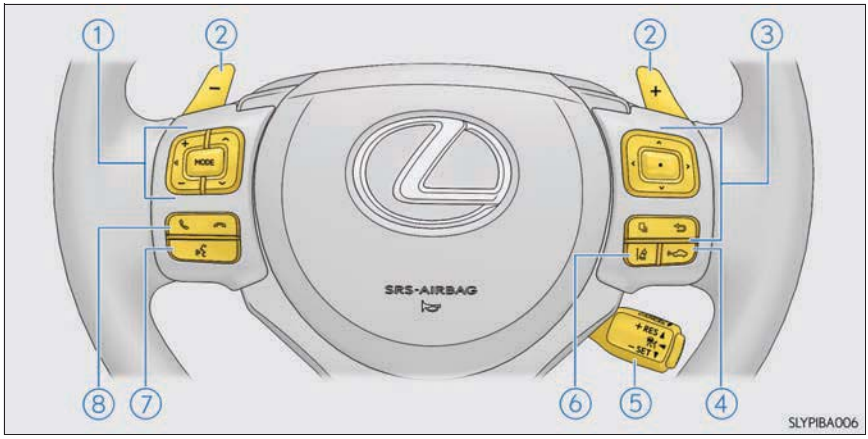


① シートヒータースイッチ★ . . . . . .P. 305
② シートベンチレータースイッチ★ . . . . . .P. 306
③ オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットボタン . . . . . .P. 92
④ インストルメントパネル照度調整スイッチ . . . . . .P. 92
⑤ オートマチックハイビームスイッチ★. . . . . .P. 213
⑥ クリアランスソナースイッチ★ . . . . . .P. 258
⑦ BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ★. . . . . .P. 283
⑧ パワーバックドアスイッチ★ . . . . . .P. 126
⑨ ステアリングヒータースイッチ★ . . . . . .P. 305
⑩ カメラスイッチ※
⑪ 車両接近通報一時停止スイッチ. . . . . .P. 69
⑫ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）スイッチ★ . . . . . .P. 278
⑬ リヤシート操作スイッチ★ . . . . . .P. 144

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

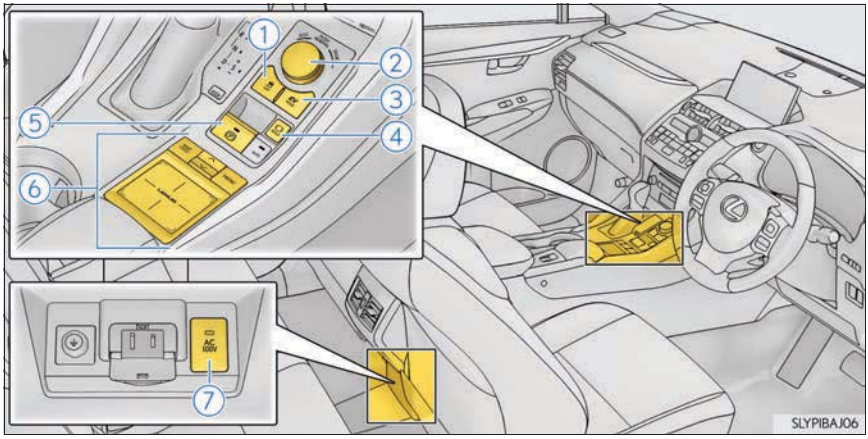


① ヘッドアップディスプレイスイッチ★. . . . . .P. 100
② ASC 音量調整ダイヤル★. . . . . .P. 209
③ ドアミラースイッチ . . . . . .P. 163
④ ウインドウロックスイッチ. . . . . .P. 166
⑤ パワーウインドウスイッチ. . . . . .P. 166
⑥ ドライビングポジションメモリースイッチ★ . . . . . .P. 153
⑦ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 121



① オーディオスイッチ※
② パドルシフトスイッチ . . . . . .P. 198, 199
③ メーター操作スイッチ . . . . . .P. 96
④ 車間距離切りかえスイッチ★ . . . . . .P. 230
⑤ クルーズコントロールスイッチ
クルーズコントロール★ . . . . . .P. 243
レーダークルーズコントロール★ . . . . . .P. 230
⑥ LDA スイッチ★. . . . . .P. 249
⑦ トークスイッチ※
⑧ 電話スイッチ※

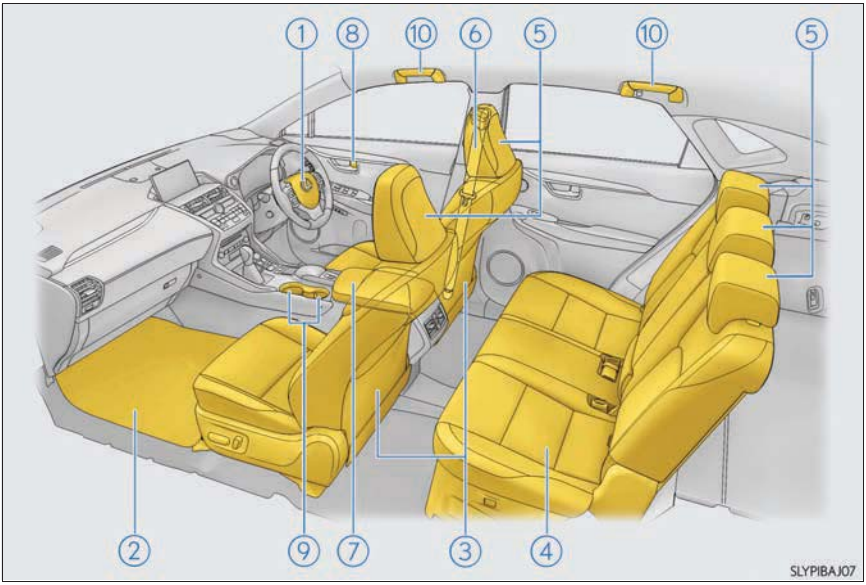
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



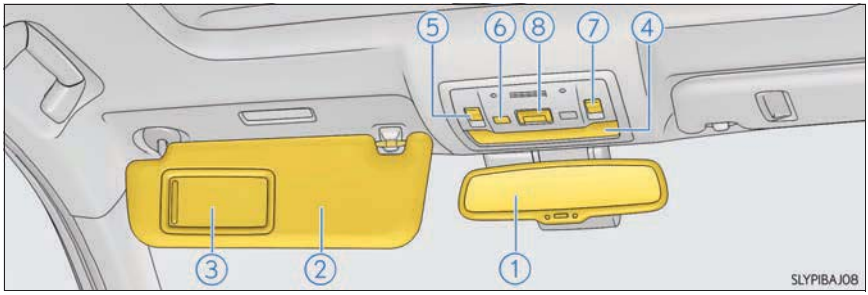
① VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 272
② ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 267
③ EV ドライブモードスイッチ. . . . . .P. 195
④ ブレーキホールドスイッチ. . . . . .P. 207
⑤ パーキングブレーキスイッチ . . . . . .P. 203, 204
かける・解除する . . . . . .P. 203, 204
冬季の注意. . . . . .P. 291
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . .P. 205, 406
⑥ リモートタッチ※
⑦ アクセサリーコンセントメインスイッチ★. . . . . .P. 325

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

室内



① SRS エアバッグ . . . . . .P. 35
② フロアマット . . . . . .P. 24
③ フロントシート . . . . . .P. 143
④ リヤシート . . . . . .P. 144
⑤ ヘッドレスト . . . . . .P. 157
⑥ シートベルト . . . . . .P. 28
⑦ コンソールボックス . . . . . .P. 311
⑧ ロックレバー . . . . . .P. 121
⑨ カップホルダー . . . . . .P. 312
⑩ アシストグリップ . . . . . .P. 337



① インナーミラー . . . . . .P. 161
② サンバイザー※1 . . . . . .P. 321
③ バニティミラー . . . . . .P. 321
④ インテリアランプ※2 . . . . . .P. 308, 309
パーソナルランプ . . . . . .P. 308
⑤ ムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 170
⑥ 侵入センサー OFF スイッチ . . . . . .P. 82
⑦ ムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 170
電動サンシェードスイッチ★ . . . . . .P. 175
⑧ ヘルプネットスイッチパネル※3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 50）

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24
安全なドライブのために.....26
シートベルト 28
SRS エアバッグ.....35
お子さまの安全のために.....43
チャイルドシート 44
排気ガスに対する注意.....67

1-2. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴.....68
ハイブリッドシステムの注意.....73

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム.....78
オートアラーム 79

運転する前に

点検整備

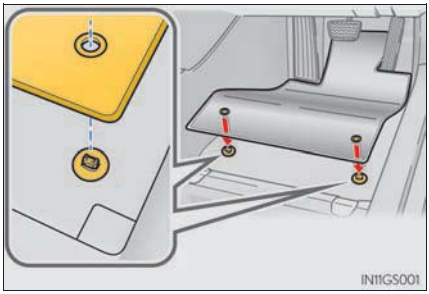
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

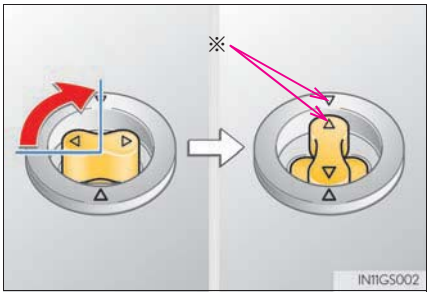
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

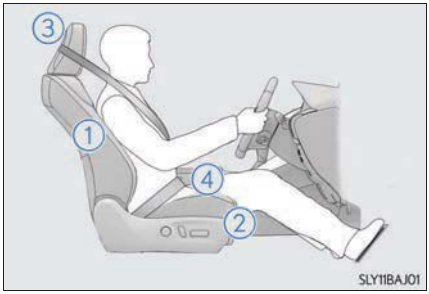
■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 143）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 143, 159）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 157）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 161, 163）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

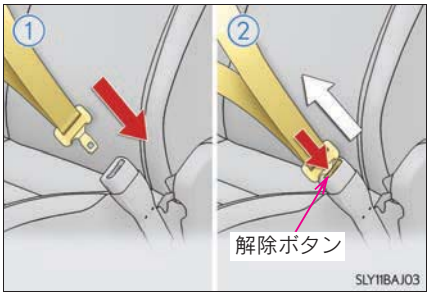
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

着け方、はずし方（フロント席・リヤ外側席）

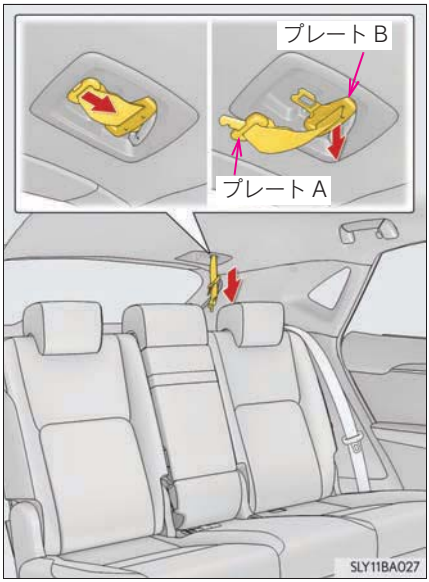
① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



着け方（リヤ中央席）

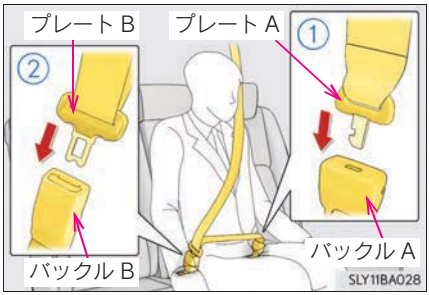
1 プレートを取り出す



2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

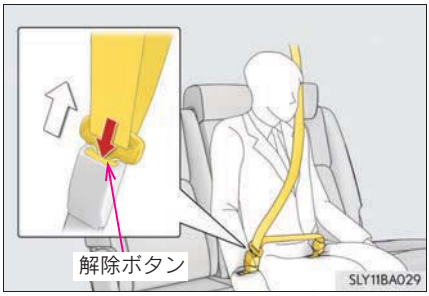
① プレート A、バックル A

② プレート B、バックル B



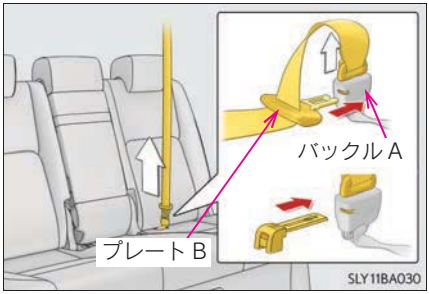
はずし方・格納のしかた（リヤ中央席）

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



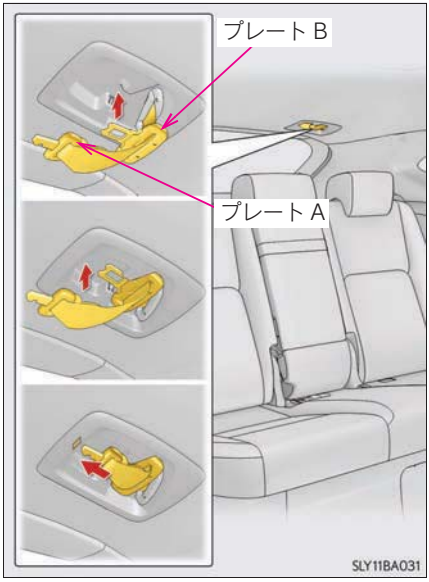
2 メカニカルキー（→ P. 114）、またはプレート B をバックル A の切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

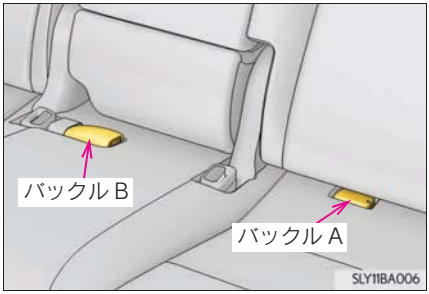


3 プレート B、プレート A の順にホルダーに格納する

確実に固定されるよう、しっかり奥まで挿し込んでください。



4 中央席シートベルトのバックル A、バックル B をポケットに格納する

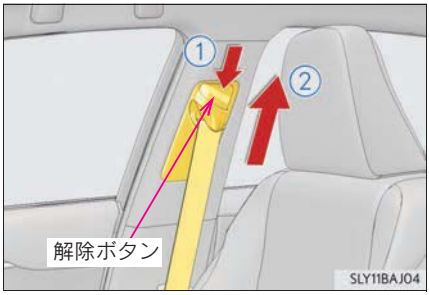


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

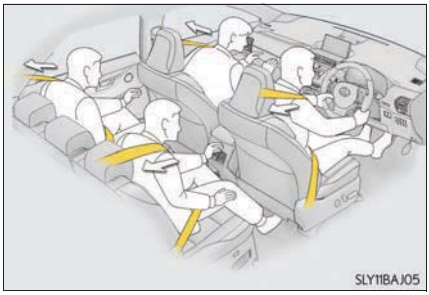
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

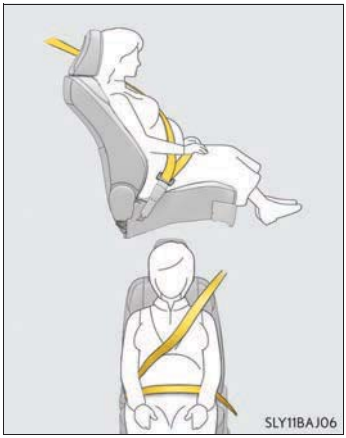
■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

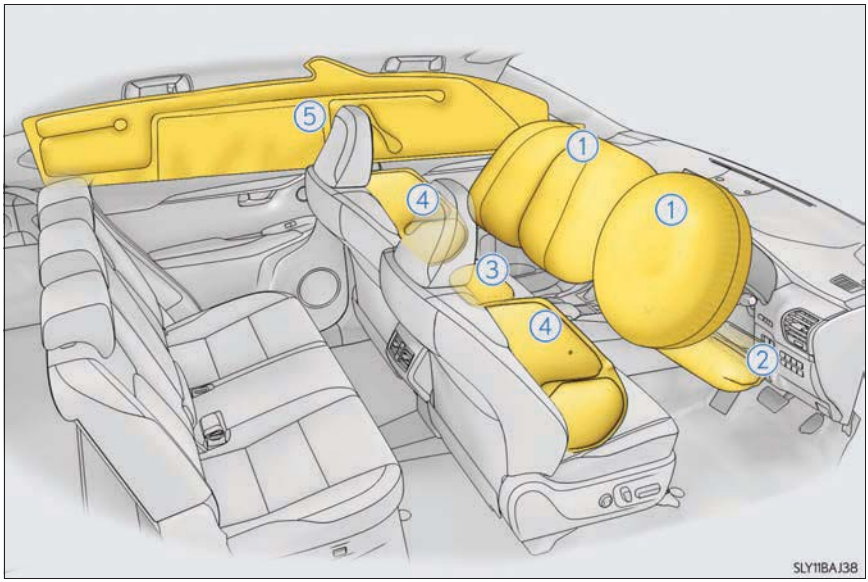
- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■**リヤ中央席シートベルトについて**

リヤ中央席シートベルトを使用するときは、必ずプレート A とプレート B をそれぞれのバックルに結合してください。（→ P. 29）結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

③ SRS シートクッションエアバッグ
（助手席乗員の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

④ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸や腰などへの衝撃を緩和）

⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

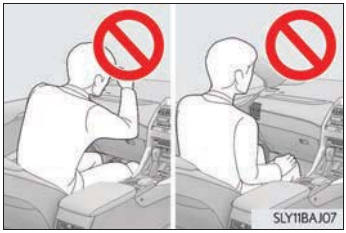
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 44)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

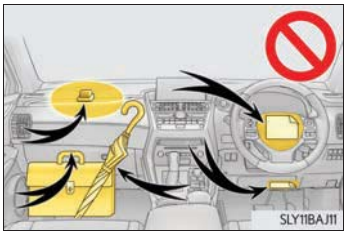
警告

■SRS エアバッグについて

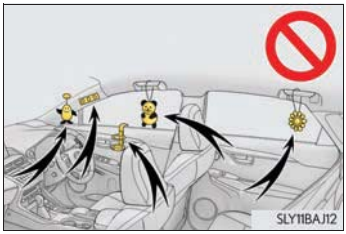
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 430）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグや SRS シートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造

●グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグの作動または後方から強い衝撃を受けた場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

●助手席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

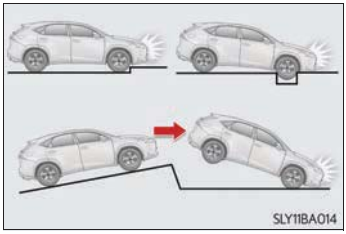
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



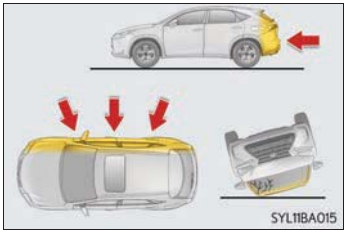
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

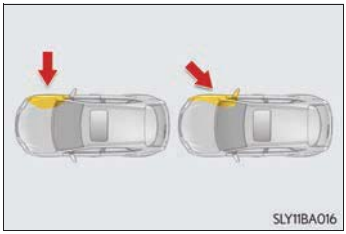


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

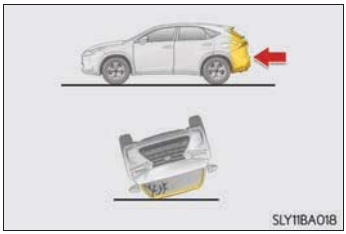
●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

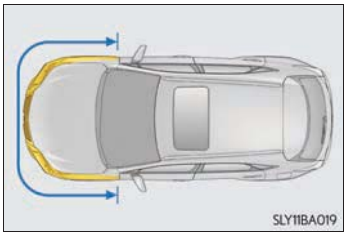


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

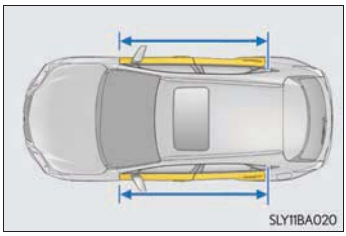
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

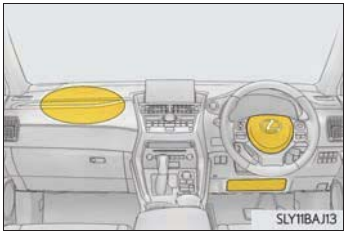
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

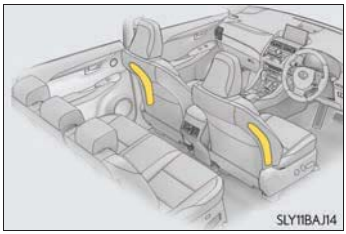


●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近･インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

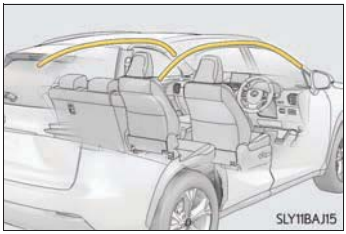


●助手席のシートクッション表面が、傷付いたり､ひび割れたり､その他の損傷を受けたとき

●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 122）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 166）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P. 44 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 44
チャイルドシートについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
チャイルドシートを助手席で使用するときは・・・・・・・・・・・・・・P. 49
チャイルドシートをリヤシートで使用するときは・・・・・・・・・・・P. 51
チャイルドシートの取り付け方法
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 52
・ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する・・・・・・P. 57
・トップテザーアンカーを使用する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 65

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 車の取り付けに合った、ECE R44※またはECE R129※に適合するチャイルドシートを使用してください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合ったチャイルドシートを使用してください。

※ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

警告

■**お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

●チャイルドシートにはお子さまを1人だけ乗せて、チャイルドシートのベルトで体を固定してください。

■**チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。(→ P. 52, 57)本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認のうえ、車に取り付けてください。

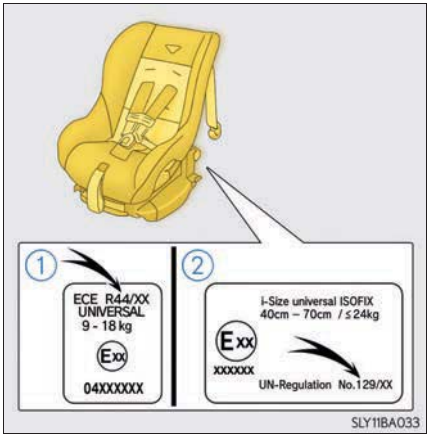
■ チャイルドシートの規格

ECE R44 ※1 または、ECE R129 ※1, 2 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① ECE R44 認可マーク※3
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② ECE R129 認可マーク※3
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 ECE R129 に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※3 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて（ECE R44 のみ）

この質量グループは、「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」を確認する際に必要となります。「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」と合わせてご確認ください。（→ P. 53, 59）

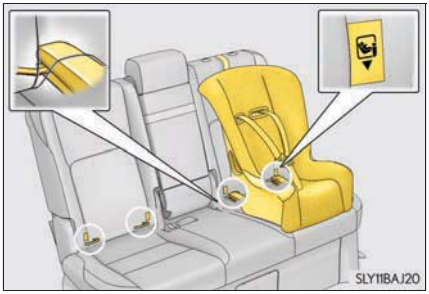
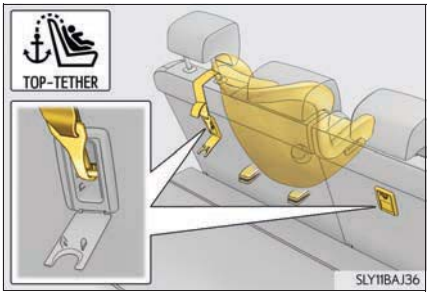
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0 ＋	13kg まで	1 歳半頃まで
グループ I	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループ II	15 ～ 25kg	3 歳頃～ 7 歳頃まで
グループ III	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 52
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 57
テザーベルトを固定する		P. 65

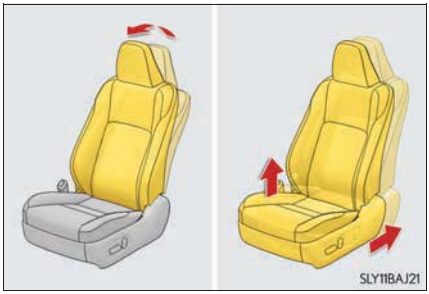
チャイルドシートを助手席で使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす



警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、次のことを必ずお守りください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合には、シートをいちばんうしろに下げ、シートの高さをいちばん高い位置まで上げて取り付けてください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

チャイルドシートをリヤシートで使用するときは

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 53）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。
次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認ください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→ P. 47）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「 I 」になります。

2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→ P. 53）

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	–
0+ （13kg まで）	×	–
Ⅰ （9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”
	前向き UF ※1	
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	UF ※1	“レクサス純正ジュニアシート”

▶ リヤシート

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※3	U ※3	×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※3	U ※3	×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※2, 3	U ※2, 3	×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U ※2, 3	U ※2, 3	×	“レクサス純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

×： チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※3 リヤマニュアルシートを使用する時：
シートバックを直立状態から 3 段目の位置に調整してください。
リヤパワーシートを使用する時：
シートバックとチャイルドシートの間に隙間がある場合は、シートバックと良い接触位置になるまでシートバックを調整してください。

● リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときは、リヤシート中央席に乗車しないでください。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 背もたれを調整する

▶ フロントシート、リヤパワーシートを使用するとき

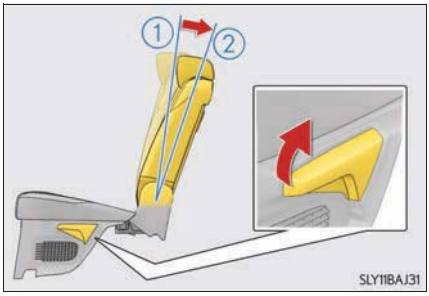
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

▶ リヤマニュアルシートを使用するとき

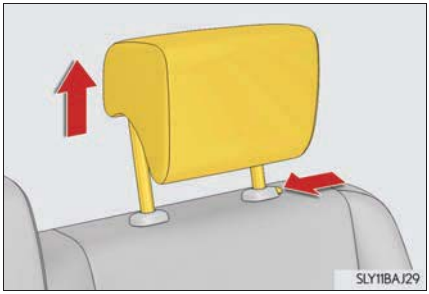
レバーを引き、背もたれをいったん前に倒してから、背もたれを起こします。（直立位置）
背もたれを直立位置から 3 段目の位置に調整してください。

① 直立位置

② 3 段目の固定位置



2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 158）

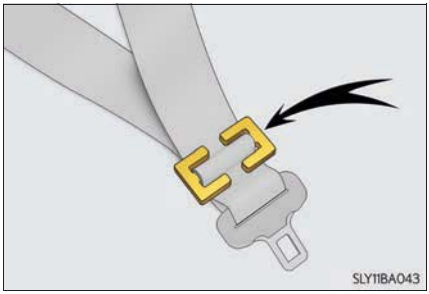


3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



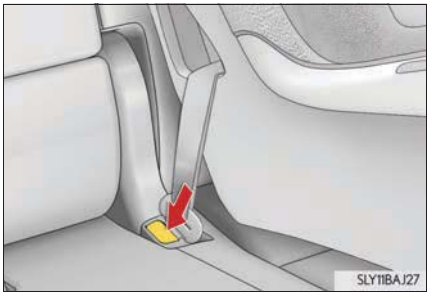
5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

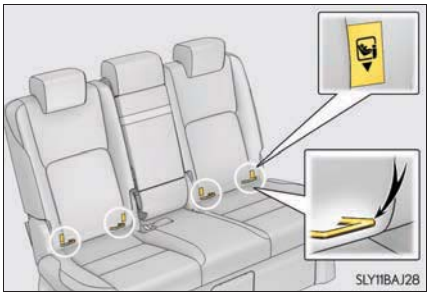
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときはリヤシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できないおそれがあります。

チャイルドシートをISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



■ ISOFIX 対応チャイルドシートについて

ECE R44 ※または、ECE R129 ※に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
(→ P. 46)

※ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 59, 61）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。
次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ ECE R44 チャイルドシートのサイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

サイズ等級	固定具	形状・大きさ	使用の向き	お子さまの大きさ
A	ISO/F3	全高	前向き	幼児
B	ISO/F2	低型	前向き	幼児
B1	ISO/F2X	低型	前向き	幼児
C	ISO/R3	大型	うしろ向き	幼児
D	ISO/R2	小型	うしろ向き	幼児
E	ISO/R1	ー	うしろ向き	乳児
F	ISO/L1	キャリコット※	左向き	乳児
G	ISO/L2	キャリコット※	右向き	乳児

※ キャリコットはお子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることのできる乳児用シートのことです。詳しくはチャイルドシート製造業者または販売業者にお尋ねください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ･サイズ等級の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する (→ P. 47)

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 ＋」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「 I 」になります。

2 サイズ等級を確認する

手順で確認した「質量グループ」を「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。(→ P. 59) ※

（例 1）：質量グループが「0 ＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「 I 」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 59)で指定されている製品を使用してください。

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート]）

▶ リヤシート

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置		推奨チャイルドシート
			右席	左席	
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	–
	G	ISO/L2	×	×	–
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	D	ISO/R2	IL	IL	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	C	ISO/R3	IL	IL	
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	IL	IL	–
	C	ISO/R3	IL	IL	
	B	ISO/F2	IUF ※	IUF ※	–
			IL ※	IL ※	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	ISO/F2X	IUF ※	IUF ※	–
			IL ※	IL ※	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	A	ISO/F3	IUF ※	IUF ※	–
			IL ※	IL ※	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”

表に記入する記号の説明

IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL： ISOFIX チャイルドシートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×： ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

● リヤマニュアルシートを使用する時：
シートバックを直立状態から 3 段目の位置に調整してください。

● リヤパワーシートを使用する時：
シートバックとチャイルドシートの間に隙間がある場合は、シートバックと良い接触位置になるまでシートバックを調整してください。

● リヤシート左席にISOFIXチャイルドシートを取り付けたときは、リヤシート中央席に乗車しないでください。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（ISOFIX での取り付け [ECE R129 適合のチャイルドシート]）

	着席位置			
	フロントシート	リヤシート		
	助手席	右席	左席	中央席
i-Size チャイルドシート	×	i-U	i-U	×

表に記入する文字の説明

i-U： 前向きおよびうしろ向きの i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適しています。

i-UF：前向きの i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートのみに適しています。

×： i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付けることはできません。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
- リヤマニュアルシートを使用する時：
  シートバックを直立状態から 3 段目の位置に調整してください。
- リヤパワーシートを使用する時：
  シートバックとチャイルドシートの間に隙間がある場合は、シートバックと良い接触位置になるまでシートバックを調整してください。
- リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときは、リヤシート中央席に乗車しないでください。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 背もたれを調整する

▶ リヤパワーシートを使用するとき

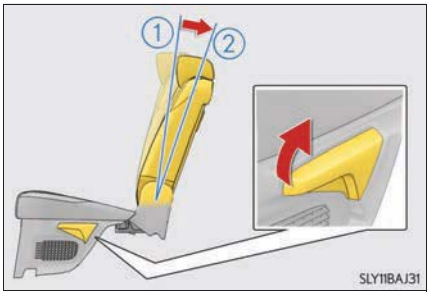
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

▶ リヤマニュアルシートを使用するとき

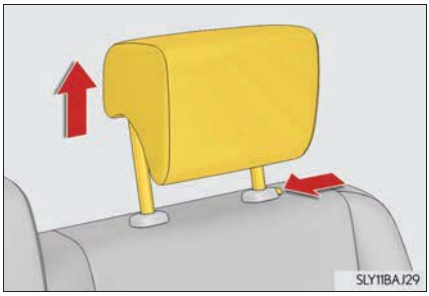
レバーを引き、背もたれをいったん前に倒してから、背もたれを起こします。（直立位置）
背もたれを直立位置から 3 段目の位置に調整してください。

① 直立位置

② 3 段目の固定位置

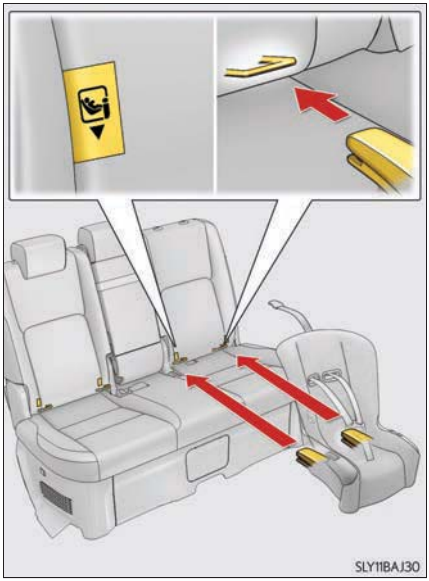


2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。
（→ P. 158）



3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

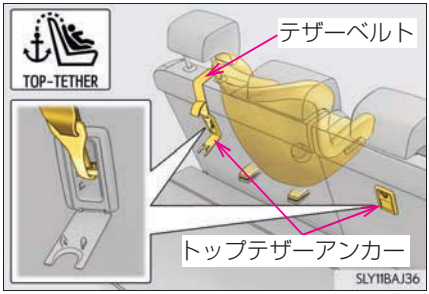
●リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときはリヤシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できないおそれがあります。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

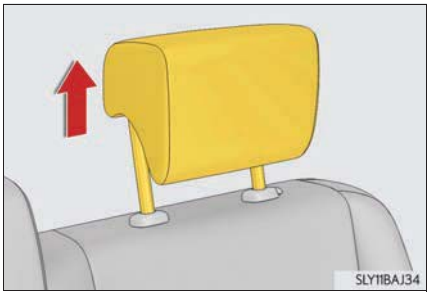


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

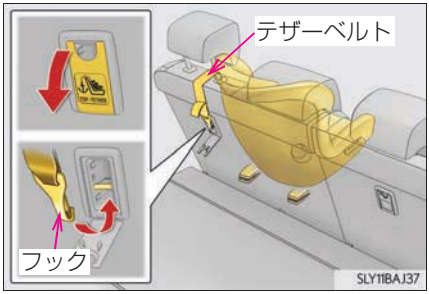
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。
(→ P. 158)



2 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- ●テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- ●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

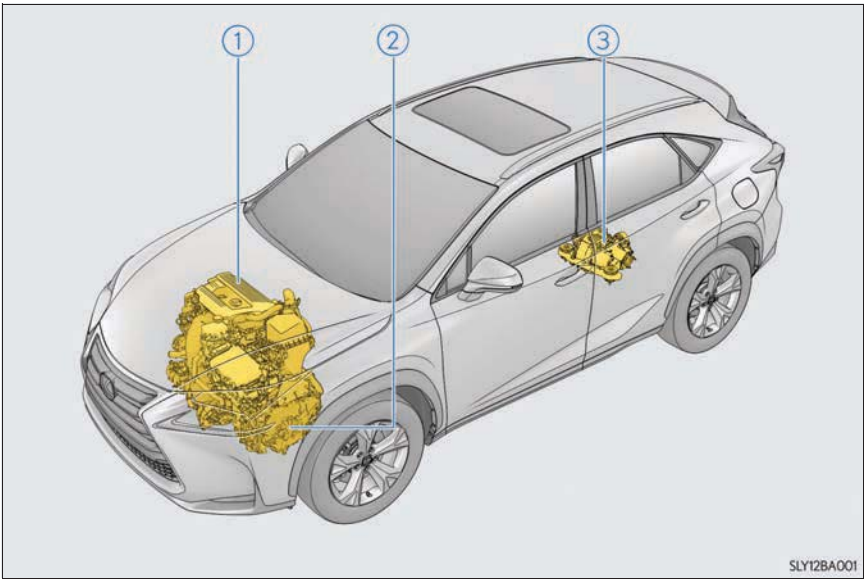
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② フロント電気モーター

③ リヤ電気モーター（AWD 車）

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または S で運転してください。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→ P. 70)

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

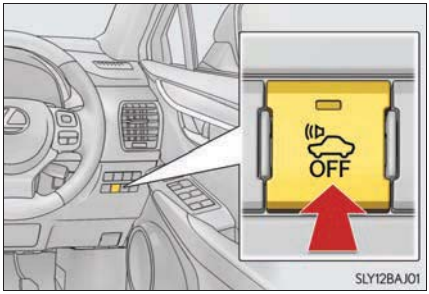
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READY インジケーターが点灯している状態で、スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



知識

■回生ブレーキについて

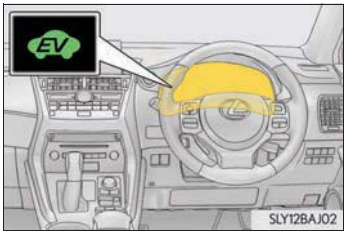
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトレバーがDまたはSで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーがDまたはSで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EVインジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EVインジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 447

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が2～3日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる“コツコツ”“カタカタ”という音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■車両接近通報一時停止スイッチ（→ P. 69）のインジケーターが点滅したときは

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■メンテナンスや修理・廃車について

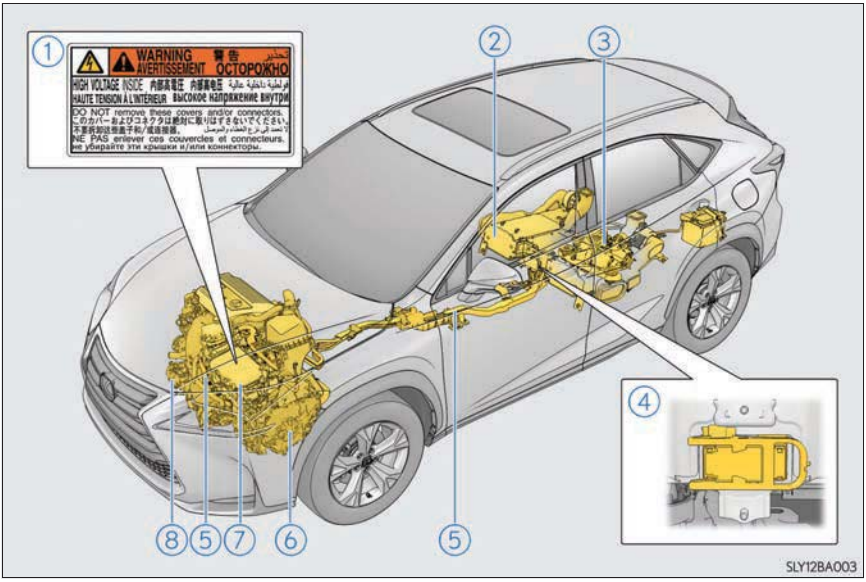
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

車両接近通報装置の音量を大きくすることや、EV インジケーターを点灯しないように変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 462）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。



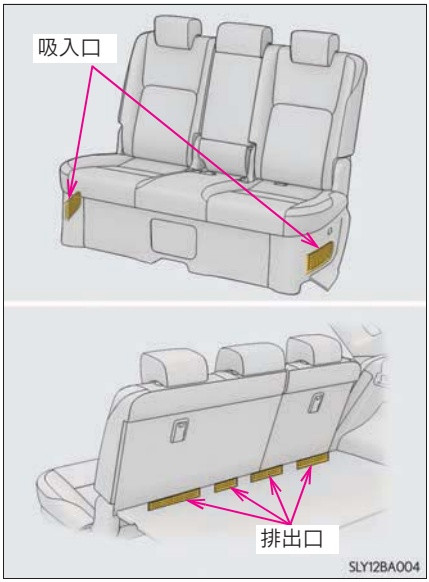
※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② 駆動用電池
③ リヤ電気モーター（AWD 車）
④ サービスプラグ
⑤ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑥ フロント電気モーター
⑦ パワーコントロールユニット
⑧ エアコンコンプレッサー

駆動用電池冷却用吸入口・排出口

リヤシート下部には駆動用電池冷却用の吸入口、リヤシート後部とデッキボードの間には駆動用電池冷却用の排出口が、それぞれあります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の出力低下の原因となります。

排出口上部のリヤシート後部とデッキボードのすきまを荷物などでふさいでも、駆動用電池の出力低下の原因にはなりません。



緊急停止システム

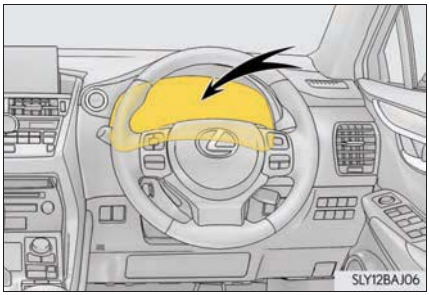
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 403）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 10.1 L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください。）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧、高温について

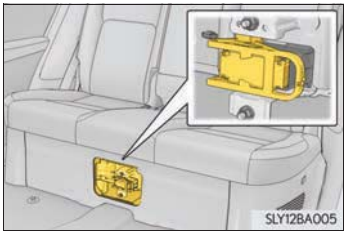
この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

警告

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけて、ハイブリッドシステムを停止する。

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF 車）または４輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 393）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■**駆動用電池について**

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**駆動用電池冷却用の吸入口・排出口について**

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の出力低下や、故障の原因になります。

●吸入口または排出口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口または排出口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

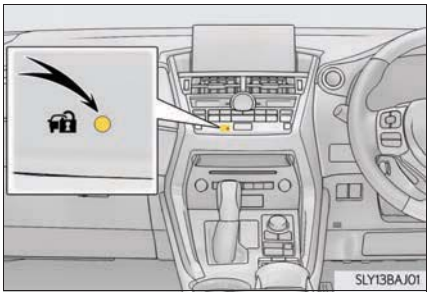
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ **メンテナンスについて**

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **イモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

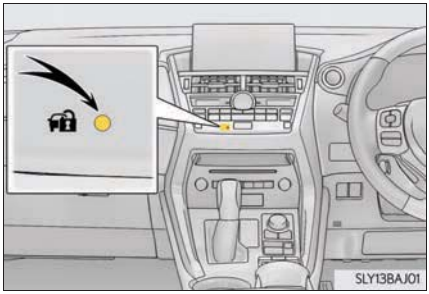
オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。



オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。

侵入センサーを停止してからオートアラームを設定するには（→ P. 82）

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ **メンテナンスについて**

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ **ドアを施錠する前の確認**

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

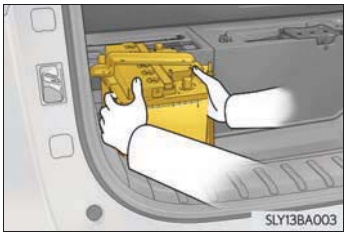
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ **オートアラームの作動について**

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

- 施錠後、補機バッテリーをはずしたとき (→ P. 448)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 468）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサーとは

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 79)

■ 侵入センサーを停止する

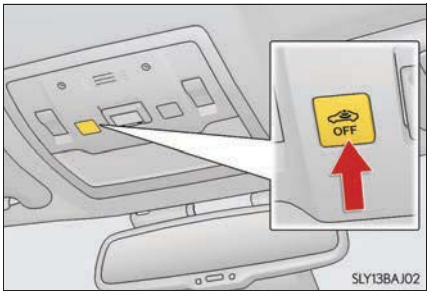
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサーOFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーをOFF/ONにするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■ 侵入センサーの作動・停止について

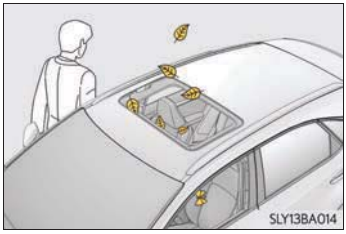
- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

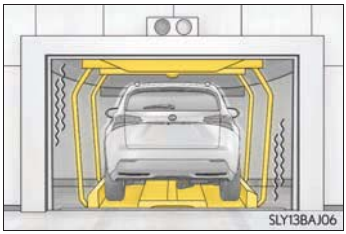
●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き

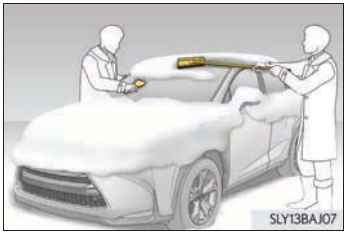


●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

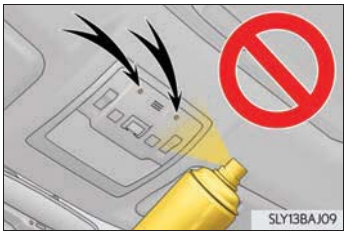
●高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

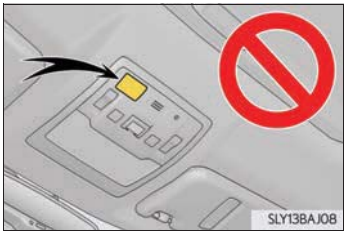
⚠注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



●センサーの穴はふさがないようにしてください。



●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

メーターの見方 2

2. メーターの見方

警告灯／表示灯 86
計器類 90
マルチインフォメーション
ディスプレイ 95
カラーヘッドアップ
ディスプレイ 100
エネルギーモニター／
Harmonious Driving
Navi. 画面／燃費画面 106

警告灯／表示灯

警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※1
ブレーキ警告灯（→ P. 401）

※1
エンジン警告灯（→ P. 401）

※2
充電警告灯（→ P. 401）

※1
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 402）

※2
油圧警告灯（→ P. 401）

※1
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 402）

※2
高水温警告灯（→ P. 401）

※1
パワーステアリング警告灯（→ P. 402）

※1
ブレーキ警告灯（→ P. 401）

※1
パワーステアリング警告灯（→ P. 402）

※1

（点滅）
PCS 警告灯★（→ P. 402）

シートベルト非着用警告灯（→ P. 403）

※1

スリップ表示灯（→ P. 402）

※1

マスターウォーニング（→ P. 403）

※1

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 402）

※1

タイヤ空気圧警告灯（→ P. 403）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→ P. 402）

※2

ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯（→ P. 403）

燃料残量警告灯（→ P. 403）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 202）

フロントフォグランプ表示灯（→ P. 218）

尾灯表示灯（→ P. 210）

リヤフォグランプ表示灯★（→ P. 219）

ハイビーム表示灯（→ P. 210, 213）

READY インジケーター（→ P. 189）

オートマチックハイビーム表示灯★（→ P. 213）

EV インジケーター（→ P. 70）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 7
EV ドライブモード表示灯
（→ P. 195）

※ 7
エコドライブモード表示灯
（→ P. 267, 268）

※ 7
SPORT 表示灯★ （→ P. 267）

※ 7
SPORT S 表示灯★
（→ P. 268）

※ 7
SPORT S + 表示灯★
（→ P. 268）

※ 7
レーダークルーズ
コントロール表示灯★
（→ P. 230）

※ 7
クルーズコントロールセット
表示灯（→ P. 230, 243）

※ 7
クルーズコントロール表示灯★
（→ P. 230, 243）

※ 7
LDA 表示灯★ （→ P. 247）

※ 7
ステアリング制御表示灯★
（→ P. 247）

クリアランスソナー表示灯★
（→ P. 258）

※ 1
スリップ表示灯（→ P. 271）
（点滅）

※ 1
VSC OFF 表示灯
（→ P. 272）

※ 1, 2
PCS 警告灯★
（→ P. 278）

パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 203, 204）

※ 1
ブレーキホールドスタンバイ
表示灯（→ P. 207）

※ 1
ブレーキホールド作動表示灯
（→ P. 207）

※ 3, 7
低温表示灯（→ P. 90）

※ 4, 5
BSM ドアミラー
インジケーター★ （→ P. 283）

※ 6
セキュリティ表示灯
（→ P. 78, 79）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※4 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
- BSM メインスイッチが ON の状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき
- パワースイッチが ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※5 ドアミラーに表示されます。

※6 インストルメントパネルに表示されます。

※7 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

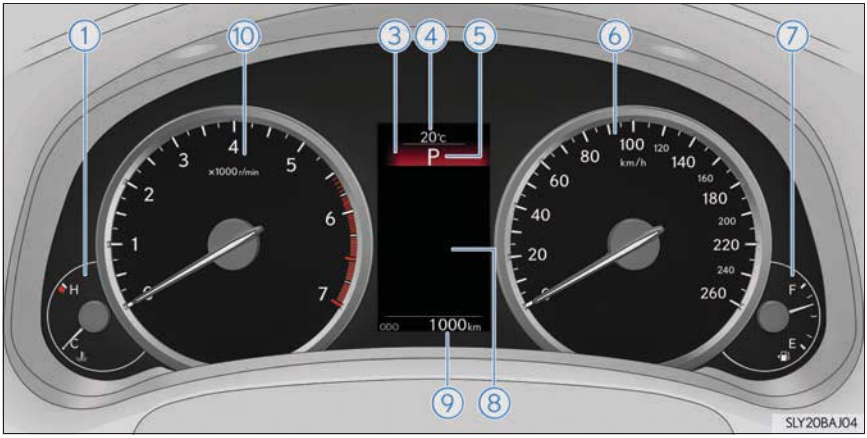
■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類

▶ ドライブモードがスポーツモード（→ P. 267）以外のとき

▶ ドライブモードがスポーツモード（→ P. 267）のとき



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→ P. 93）

③ ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。（→ P. 267）

・ スポーツモード：赤色
・ エコドライブモード：青色

ノーマルモードのときは、背景色が黒色になります。

④ 外気温

外気温度を－40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯が点灯します。

⑤ シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。（→ P. 197）

⑥ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑦ 燃料計

燃料残量を示します。

⑧ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。（→ P. 95）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 406）

⑨ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

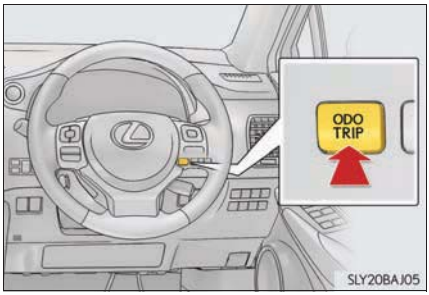
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑩ タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

オドメーター／トリップメーター表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

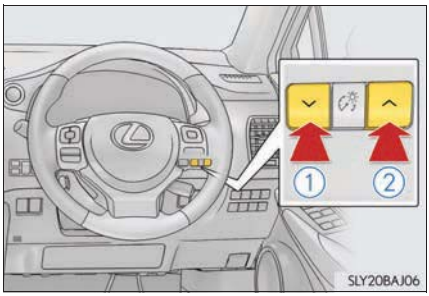


インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

① 暗くする

② 明るくする



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

① パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

② エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

③ ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

④ チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

●ハイブリッドシステムインジケータは、ドライブモードがノーマルモードまたはエコドライブモードのときに表示されます。（→ P. 267）

●インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■タコメーターについて

ドライブモードがスポーツモードのとき、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。マルチインフォメーションディスプレイで表示方法を変更することができます。（→ P. 467）

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温度表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車している時や、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

●“--”または“E”が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

■割り込み表示について

マルチインフォメーションディスプレイやオドメーター／トリップメーター表示部には、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。割り込み表示・非表示を切りかえることができます。（→ P. 467）

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 467）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」または「ハイブリッドシステム高温」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンやハイブリッドシステムを確認してください。
（→ P. 451）

マルチインフォメーションディスプレイ

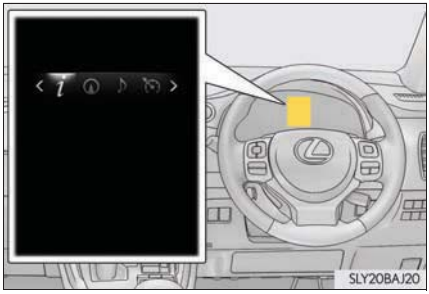
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 96)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 97)

ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。
・ 目的地案内
・ コンパス（ノースアップ／ヘッディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★／クルーズコントロール表示★

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）／クルーズコントロール使用時に表示されます。(→ P. 230, 243)

アイコン表示は機能により切りかわります。

LDA （ステアリング制御付）★の作動状況も表示します。
(→ P. 247)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 406）

設定

メーターの表示設定などを切りかえることができます。（→ P. 467）

● エネルギーモニター

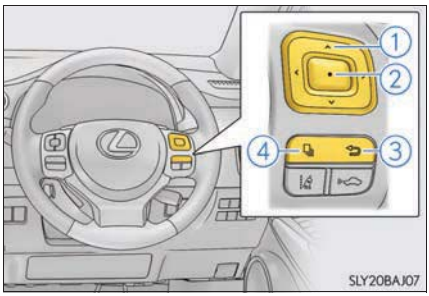
ハイブリッドシステムの状態を表示します。（→ P. 106）

● クリアランスソナー表示★

クリアランスソナー使用時に自動で表示されます。（→ P. 258）

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



① 選択／ページ送り

② 決定／設定

③ ひとつ前の画面にもどる

④ 短押し：
スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：
表示中の画面をスイッチに登録する（→ P. 467）

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライブインフォメーション

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの < または > を押して i を選択し、∧ または ∨ を押します。

■ 瞬間燃費※1

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費（リセット間※2・始動後・給油後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後、給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均車速（リセット間※2・始動後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示します。

■ 走行時間（リセット間※2・始動後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。

■ 距離（航続可能・始動後走行）※1

燃料残量による走行可能な距離、ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。

・表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
・燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はパワースイッチを OFF にしてください。万一、パワースイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ エネルギーモニター

→ P. 106

■ G センサー★

車両にかかる前後左右の加速度を表示します。また、ハンドルの切れ角、ブレーキ油圧、アクセル開度も表示します。

・表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。
表示画面は、参考として利用してください。
・バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

■ タイヤ空気圧★

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

応急用タイヤ装着車：応急用タイヤの空気圧は表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示 OFF

OFF 画面を表示します。

※1 「設定」のドライブインフォ1／ドライブインフォ2で選択した項目が表示されます。（→ P. 467）

※2 リセットするには、項目表示中にメーター操作スイッチの スイッチを 1 秒以上押します。
リセット可能項目が複数表示されている場合は、リセット項目の選択画面が表示されます。

知識

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■ タイヤ空気圧表示ついて

- パワースイッチを ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションのデータはリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

→ P. 94

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

カラーヘッドアップディスプレイ★

機能概要

カラーヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウに現在の車速やナビゲーションシステムのルート案内表示などの情報を表示することができます。

① HUD（ヘッドアップディスプレイ）メインスイッチ

② 表示輝度調整スイッチ

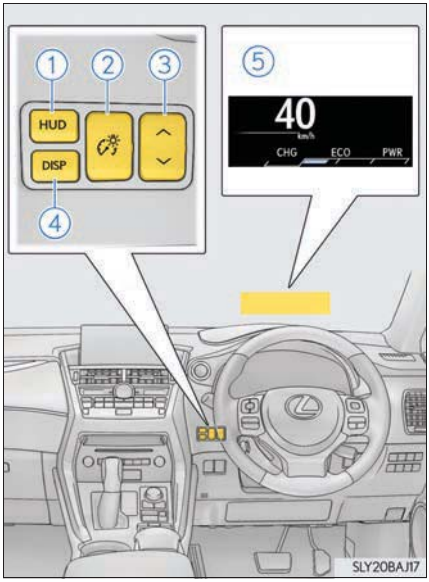
表示輝度はお好みの明るさに調節することができます。

③ 表示位置調整スイッチ

④ DISP スイッチ

⑤ ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイの表示内容

- 車速表示
- ハイブリッドシステムインジケーター (→ P. 103)
- タコメーター
- シフトポジション・シフトレンジ表示 (→ P. 197)

  選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。
- レーン表示 (→ P. 104)

  交差点にさしかかったとき、自動で車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。
- ルート案内表示 (→ P. 104)

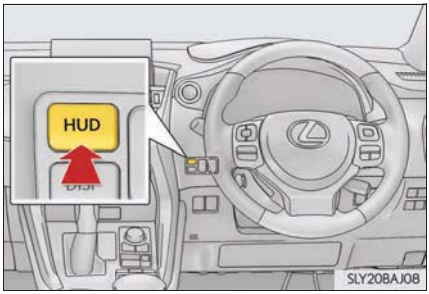
  ナビゲーションシステムで、ルート案内を実行しているときに使用できます。

  交差点に近付いたとき、ヘッドアップディスプレイにルート案内（進行方向の矢印）が表示されます。
- 車線逸脱警報表示
  （LDA [ステアリング制御付]）★ (→ P. 248)
- 接近警報表示（レーダークルーズコントロール）★ (→ P. 235)
- 衝突警告表示（プリクラッシュセーフティシステム）★ (→ P. 277)

ヘッドアップディスプレイ表示の切りかえ

■ HUD メインスイッチ

ヘッドアップディスプレイのON／OFF を切りかえる



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

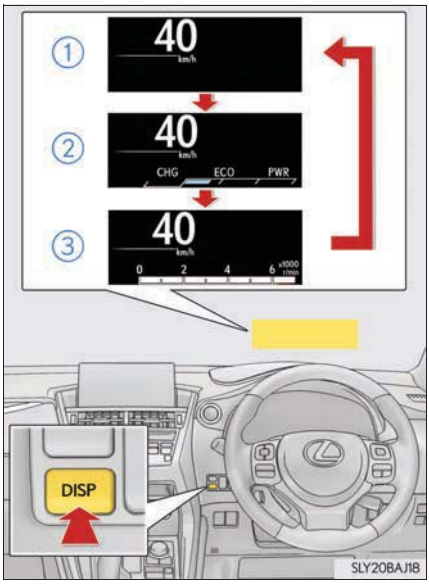
■ DISP スイッチ

押すたびに車速以外の表示が次のように切りかわります。

① 非表示

② ハイブリッドシステムインジケーター

③ タコメーター

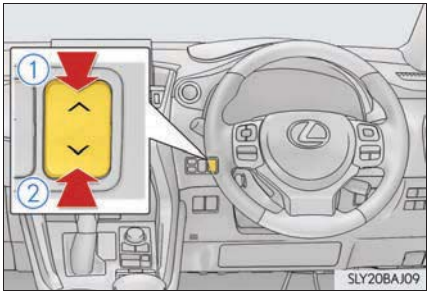


見やすく調整する

■ 表示位置の調整

① 表示位置を上げる

② 表示位置を下げる

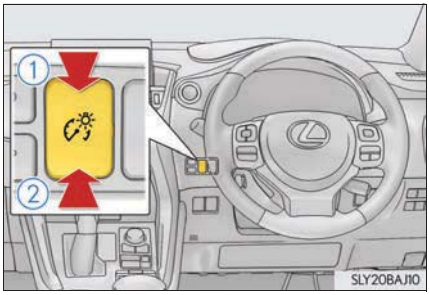


■ **表示輝度の調整**

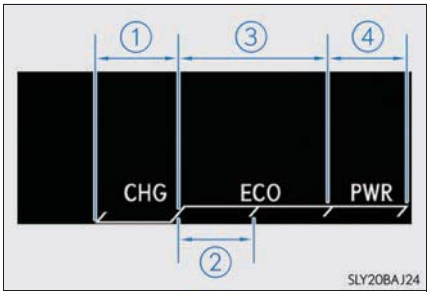
表示輝度は 9 段階あり、周囲の明るさに応じて自動で調整されますが、手動で調整することもできます。

① 明るくする

② 暗くする



ハイブリッドシステムインジケーター



① チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

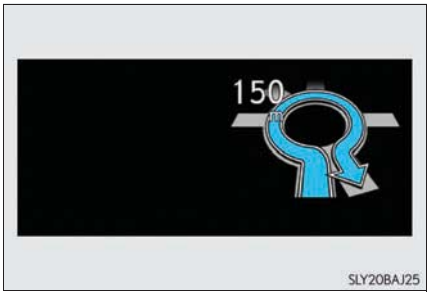
ルート案内表示

交差点に接近すると、進路方向を矢印で指示します。

交差点から約 150 メートル※1 まで接近すると、案内表示が開始され、交差点までの残距離※2 が表示されます。

※1 レーン表示機能が OFF のときは、約 300 メートル手前から、案内表示が開始されます。

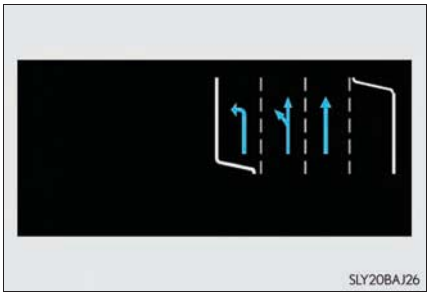
※2 交差点を通過すると表示が消えます。



レーン表示

交差点の約 300 メートル手前から表示がはじまり、交差点を通過するとレーン表示が消え、もとの表示にもどります。

必要に応じて、レーン表示の表示／非表示を切りかえることができます。



表示のカスタマイズ

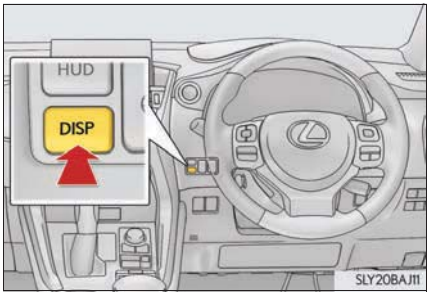
レーン表示画面の表示／非表示を切りかえることができます。
安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

1 レーン表示設定画面が表示されるまで、DISP スイッチを押し続ける

ヘッドアップディスプレイが ON のときに操作ができます。

2 DISP スイッチを押して ON／OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに ON／OFF が切りかわります。



スイッチを操作しないまましばらく放置した場合は、自動で設定が終了します。

知識

■ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ヘッドアップディスプレイの表示について

ヘッドアップディスプレイ表示を OFF にしたときは、再び ON にするまでヘッドアップディスプレイは表示されません。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

ヘッドアップディスプレイのカスタマイズ設定がリセットされます。

■レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

警告

■ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やそのほかの液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。
- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

エネルギーモニター／ Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。

① ナビゲーション画面

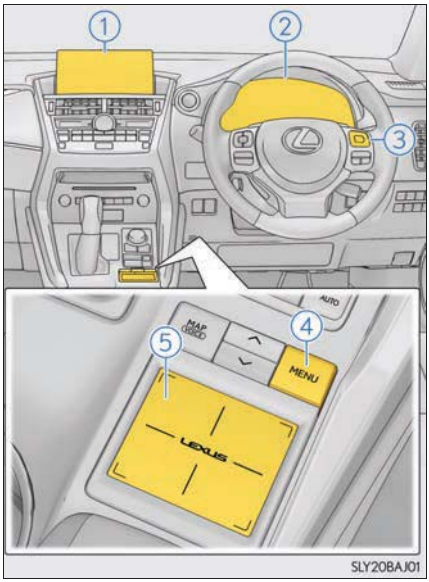
② マルチインフォメーションディスプレイ

③ DISP スイッチ／メーター操作スイッチ

④ MENU ボタン

⑤ タッチパッド※

※ リモートタッチの操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



エネルギーモニターの見方

▶ ナビゲーション画面

1 リモートタッチの MENU ボタンを押しメニュー画面を表示させる

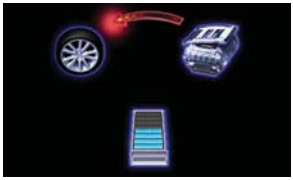
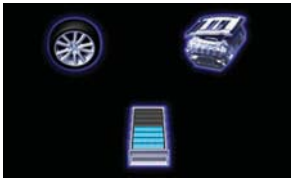
2 「情報・G」を選択する

3 「エネルギー」を選択する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの❮または❯を押して *i* を選択し、∧または∨を押してエネルギーモニターを表示させる

	ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		

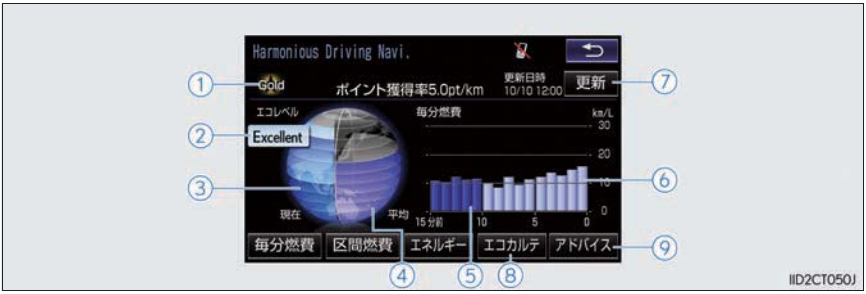
	ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき		
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	少ない ↔ 多い	少ない ↔ 多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

Harmonious Driving Navi. 画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、「情報・G」を選択する

2 情報画面の「Driving Navi」を選択する



① ステータス／ポイント獲得率表示※

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイント獲得率を表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

③ エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

⑤ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイントが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

燃費画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、「情報・G」を選択する

2 情報画面の「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。

① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 瞬間燃費

③ 履歴消去

④ 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑥ ハイブリッドシステム始動後走行時間

⑦ 航続可能距離（→ P. 111）

平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。

① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■ G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■ Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

各部の操作 3

3-1. キーの取り扱い

キー.....114

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア.....119

バックドア.....125

スマートエントリー＆
スタートシステム.....137

3-3. シートの調整

フロントシート.....143

リヤシート.....144

パワーイージー
アクセスシステム／
ポジションメモリー／
メモリーコール機能.....152

ヘッドレスト.....157

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....159

インナーミラー.....161

ドアミラー.....163

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....166

ムーンルーフ.....170

電動サンシェード.....175

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

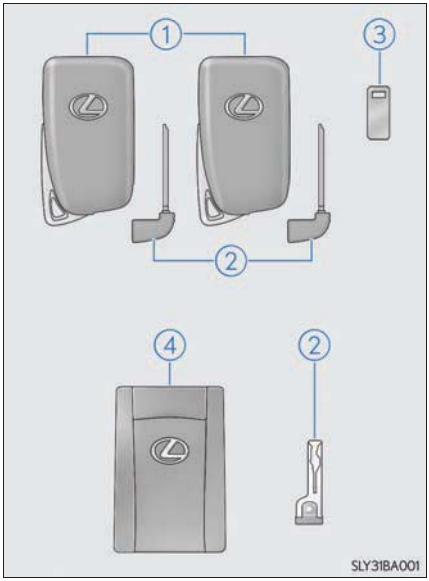
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 137）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー（電子キー）

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 137）



ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する（→ P. 119）

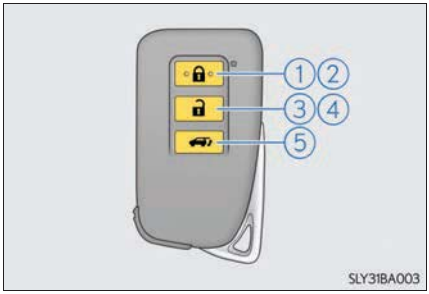
② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→ P. 119）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 119）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→ P. 119）

⑤ パワーバックドア★を開閉する（→ P. 125）

※ レクサス販売店での設定が必要です。



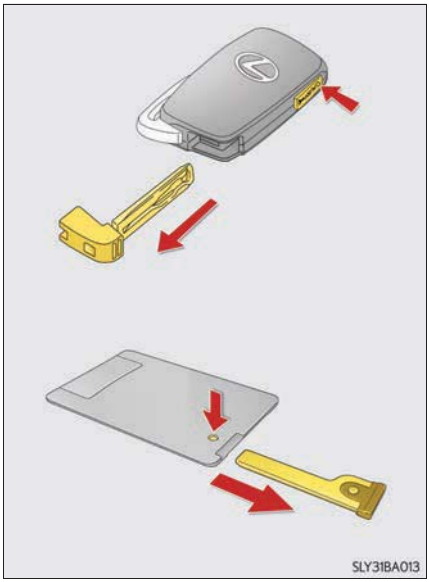
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

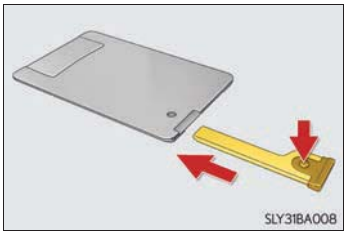
使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 441）



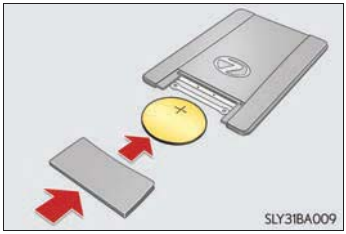
知識

■カードキーについて

- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



●カードキーは非防水です。

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→ P. 311）します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は１～２年です。（カードキーの電池は１年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の１m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 367

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
  分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

注意

■電子キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

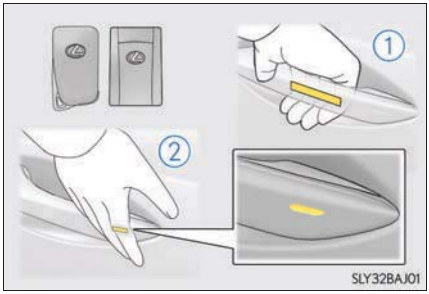
●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① ハンドルを握って解錠する

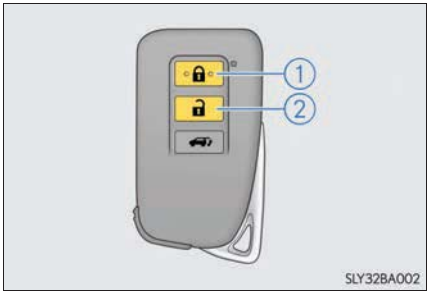
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ レクサス販売店での設定が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

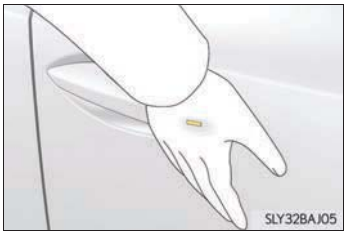
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 79）

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

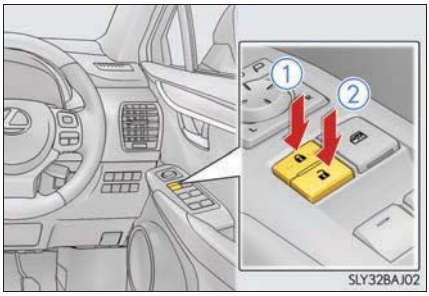
- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 441）
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 367）

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

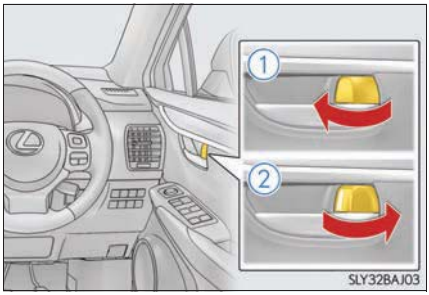


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からドアを施錠するときは

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

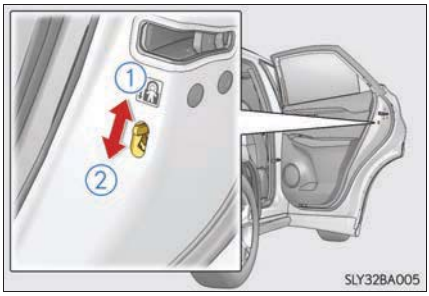
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 463 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約20km/h以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーをP以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPにしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチをOFFにしてから10秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 82）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、 または のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 79）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 441）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 464）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

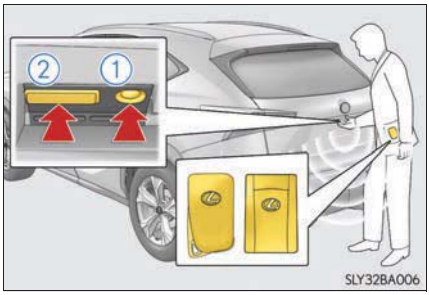
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 114

◆ ドアロックスイッチ

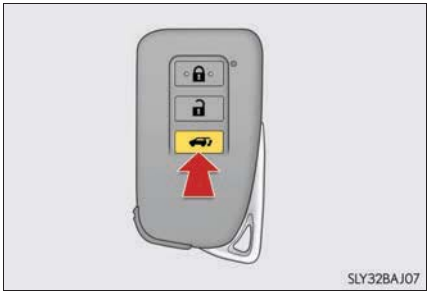
→ P. 121

ワイヤレスリモコンでのバックドアの開閉★

スイッチを約 1 秒長押しする

バックドア解錠時※に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。(→ P. 465)



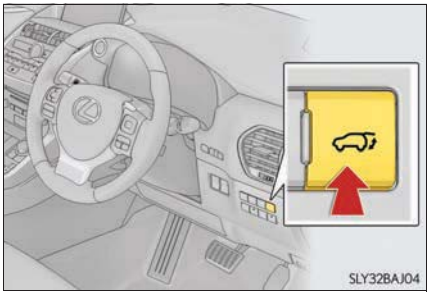
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からバックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。
作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、バックドアは反転作動します。



車外からバックドアを開けるには

■ バックドアオープンスイッチ

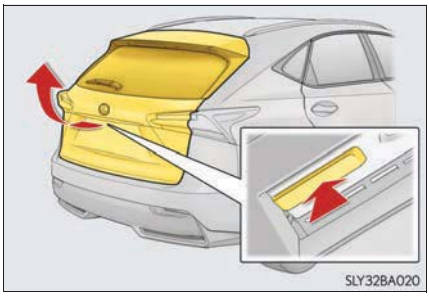
▶ パワーバックドア非装着車

バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

▶ パワーバックドア装着車

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押す



ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

■ ワイヤレスリモコン（パワーバックドア装着車）

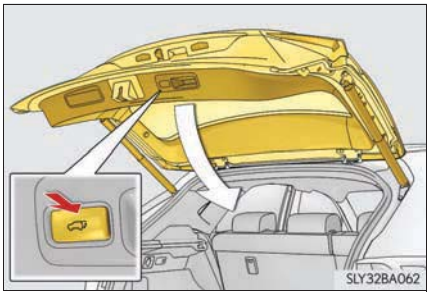
→ P. 125

車外からバックドアを閉じるには（パワーバックドア装着車）

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

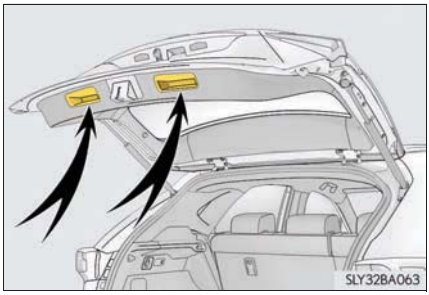
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。
再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



バックドアを閉めるときは

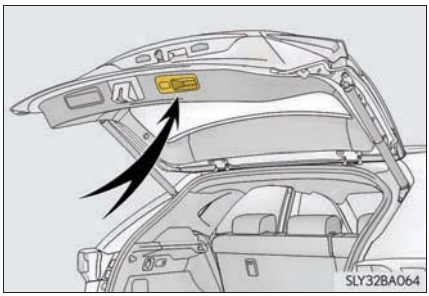
▶ パワーバックドア非装着車

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



▶ パワーバックドア装着車

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



パワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」（→ P. 95）で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。

1 メーター操作スイッチ（→ P. 96）の ∧ または、∨ を押して「 」を選択する

2 メーター操作スイッチの を押すごとに ON・OFF が切りかわる

OFF を選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「 」を ON にし、システム作動状態にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

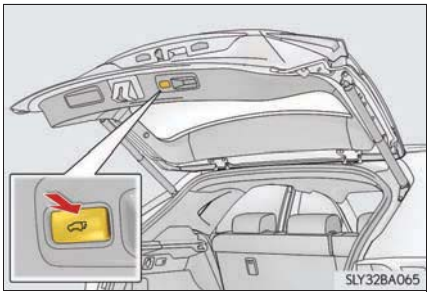
バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

▶ スイッチで設定するとき

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→ P. 126,127）

2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける
- 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。
- 次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。



▶ ナビゲーションシステムで設定するとき

ナビゲーションシステムで開度を設定できます。（→ P. 464）

スイッチまたはナビゲーションシステムのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

調整した位置を初期状態の位置にもどすには（→ P. 131）

知識

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの作動が ON で、次のときに自動で開閉できます。

●バックドアが解錠されているとき、ただし次のときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。
・電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
・ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき（→ P. 465）

● パワースイッチが ON モードのとき開作動するには、上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。
・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーが P の位置にある

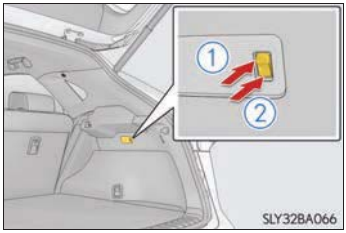
■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

① OFF

② ON

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。

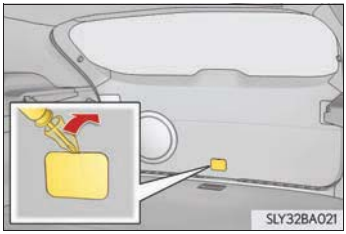


■バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

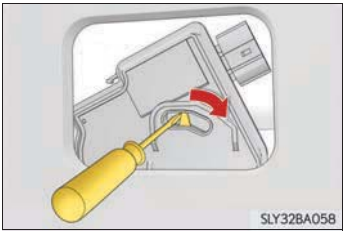
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

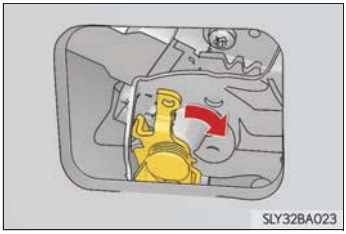


2 レバーを押す

▶パワーバックドア非装着車



▶パワーバックドア装着車



■バックドアイージークローザー（パワーバックドア装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。
パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアを自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■バックドア予約ロック機能（パワーバックドア装着車）

バックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。
次の操作をすると、バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアが閉まると同時にバックドアも施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる。

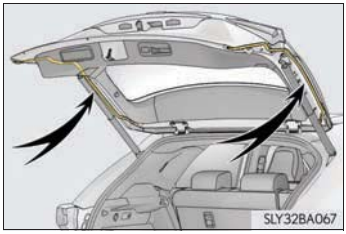
2 バックドアの自動閉作動中にワイヤレスの施錠ボタンを押す。

■補機バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

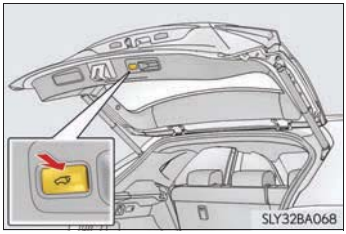
パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには（パワーバックドア装着車）

バックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの自動開停止位置の変更などができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 464）

警告

■走行しているとき

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルーム内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

警告

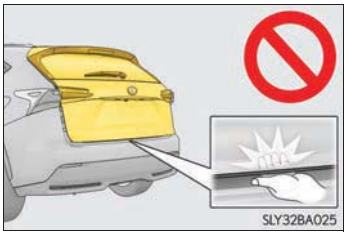
- パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
- パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→ P. 136）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→ P. 136）を持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

警告

■**バックドアイージークローザーについて（パワーバックドア装着車）**

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFFのときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■**パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動をOFFにすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件（→P. 129）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
・自動作動中、障害物に干渉したとき
・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

警告

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアには、レクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けないでください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■ダンパーステーについて（パワーバックドア非装着車）

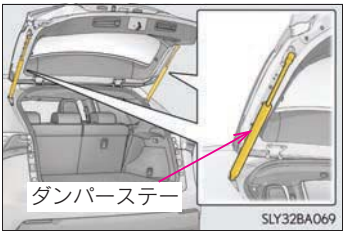
バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



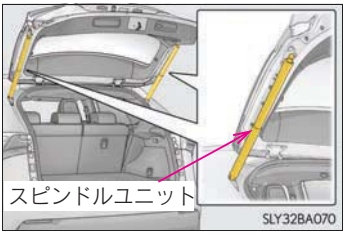
■スピンドルユニットについて（パワーバックドア装着車）

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P. 131）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

スマートエントリー＆スタートシステム

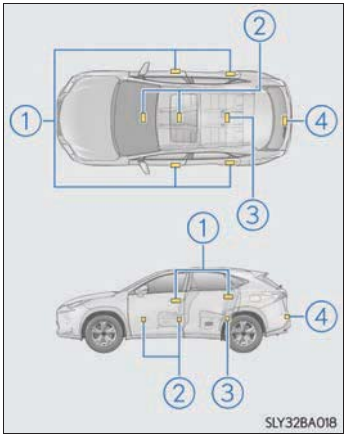
電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→ P. 119）
- バックドアを施錠・解錠する（→ P. 125）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 189）

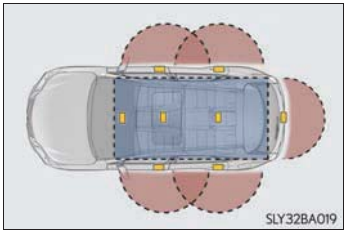
知識

■ **アンテナの位置**

① 車外アンテナ
② 車内アンテナ
③ ラゲージルーム内アンテナ
④ ラゲージルーム外アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）



：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

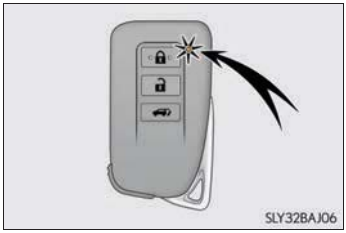
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが４回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー& スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 441）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 139）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 464）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 441

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 443

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 464）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 119, 441）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 443

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 190

警告

■**電波がおよぼす影響について**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 137）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

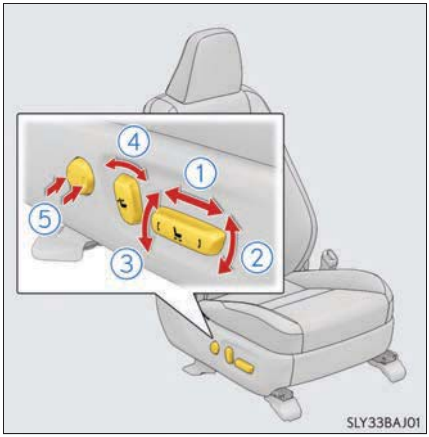
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整
② クッション前端の上下調整
③ シート全体の上下調整
④ リクライニング調整
⑤ 腰部硬さ調整（運転席のみ）



知識

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ･運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→ P. 152）

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

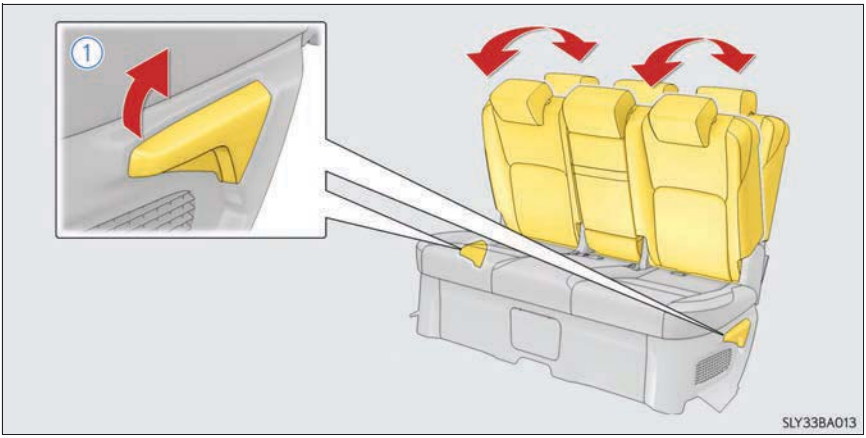
■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

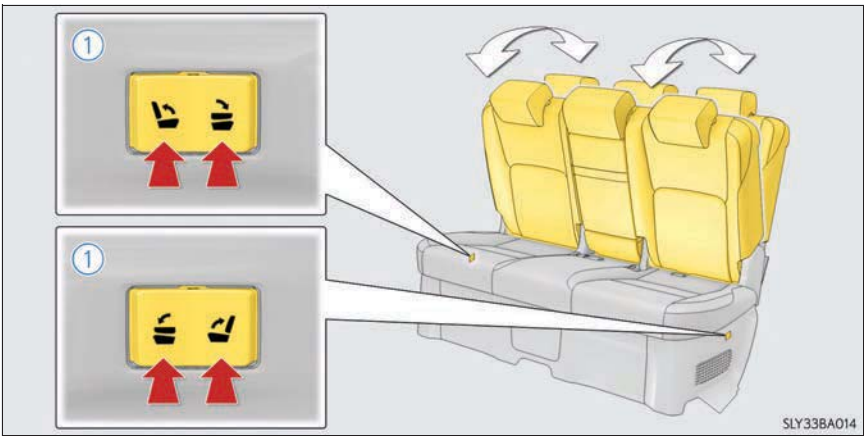
調整のしかた

▶ マニュアルシート装着車



① リクライニング調整

▶ パワーシート装着車



① リクライニング調整（リヤ席スイッチのみ）

背もたれを倒す

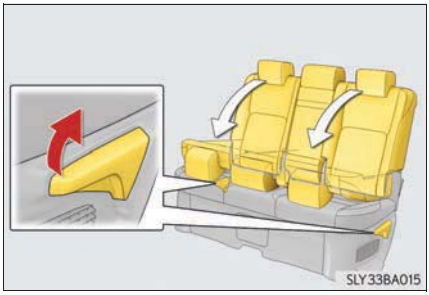
■ 操作する前に

1 リヤ中央席のシートベルトとバックルを格納する（→ P. 29）

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 157）

■ 前に倒すときは（マニュアルシート装着車）

レバーを引いて背もたれを倒す



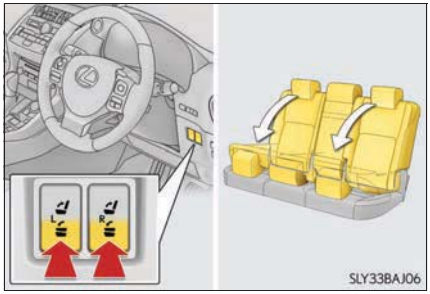
■ 前に倒すときは（パワーシート装着車）

スイッチを長押しして背もたれを倒す

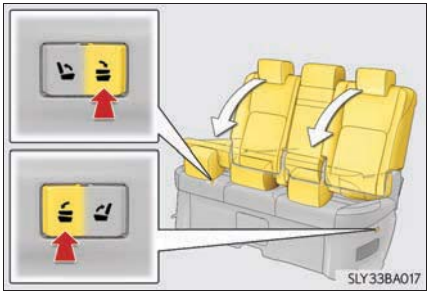
ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。（止める位置によっては、ブザーが鳴ります）

▶ インストルメントパネルスイッチ

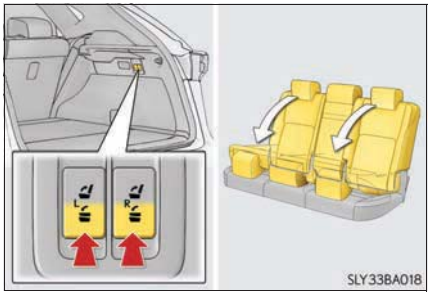


▶ リヤ席スイッチ



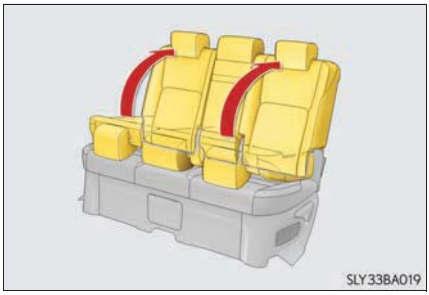
背もたれがうしろに倒れている場合は、背もたれを直立位置にし、再度スイッチを押してください。

▶ ラゲージルーム内スイッチ

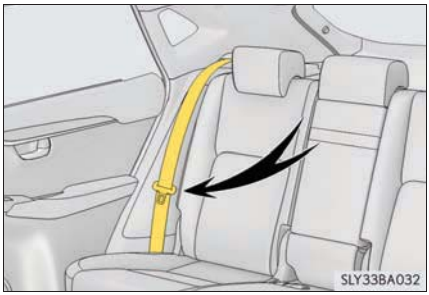


■ **背もたれをもとにもどすときは（マニュアルシート装着車）**

1 背もたれを起こし、固定する



2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認する



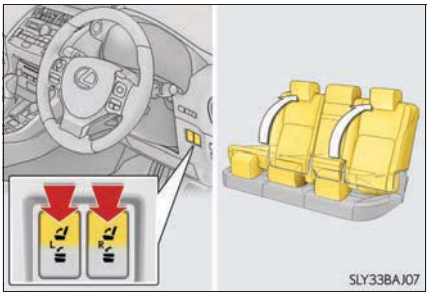
■ 背もたれをもとにもどすときは（パワーシート装着車）

1 スイッチを長押しして背もたれをもとにもどす

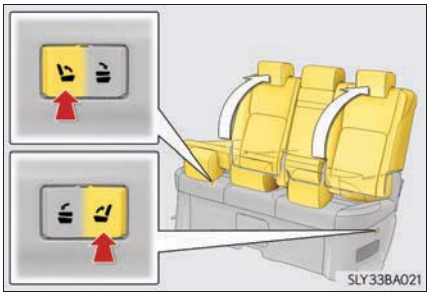
ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。（止める位置によっては、ブザーが鳴ります）

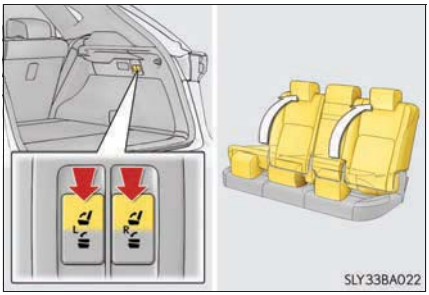
▶ インストルメントパネルスイッチ



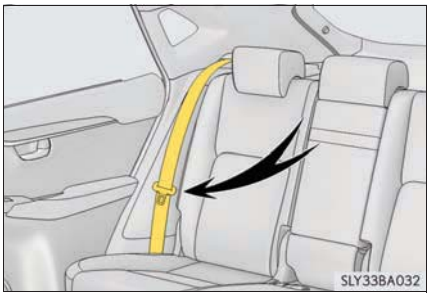
▶ リヤ席スイッチ



▶ ラゲージルーム内スイッチ



2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認する



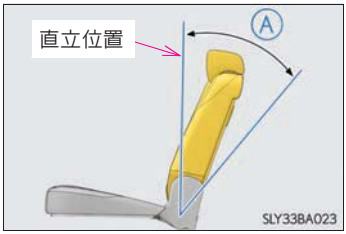
知識

■リクライニング調整の作動条件（パワーシート装着車）

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

●背もたれの位置が図の A の範囲のとき

●操作するシート側の操作スイッチが、どこも押されていないとき



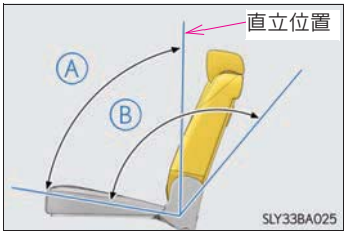
■背もたれを前に倒すときの作動条件（パワーシート装着車）

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

●リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が図の A の範囲のとき

●インストルメントパネルスイッチ、ラゲージルーム内スイッチ操作時：背もたれの位置が図の B の範囲のとき

●リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき



●ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき

●操作するシート側の操作スイッチが、どこも押されていないとき

パワースイッチが ON モードのときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

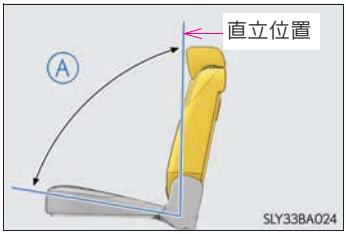
●パーキングブレーキがかかっている

●ブレーキペダルを踏んでいる

●シフトレバーが P の位置にある

■背もたれをもとにもどすときの作動条件（パワーシート装着車）

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。



●リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が図のAの範囲のとき

●リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき

●ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき

●操作するシート側の操作スイッチが、どこも押されていないとき

パワースイッチがONモードのときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

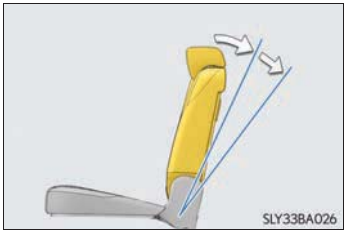
●パーキングブレーキがかかっている

●ブレーキペダルを踏んでいる

●シフトレバーがPの位置にある

■リクライニング調整について（パワーシート装着車）

背もたれは途中で止まります。いちばんうしろまで倒すには、再度スイッチを押してください。



■パワーシートの作動について★

シートにカバーや座布団を装着すると、正常に作動しない場合があります。また、前倒しするときは、リヤシートの上に作動のさまたげになるものがないことを確認してください。

■背もたれの挟み込み防止機能（パワーシート装着車）

背もたれを前に倒すときに、背もたれとシートクッションの間に異物を感知すると、背もたれが反転作動し、作動が停止します。
反転作動中は断続的にブザーが鳴り、作動が停止すると連続的にブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●同乗者がシートにあたらないようにしてください。

●シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。

●パワーシート装着車：お子さまには背もたれの操作をさせないでください。同乗者がシートに挟まれるおそれがあります。

●パワーシート装着車：前倒しするシートに同乗者が座っていないことを確認してください。また、前倒し中に同乗者が座らないようにしてください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

警告

■**挟み込み防止機能（パワーシート装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、シートが完全に倒れる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■**背もたれを前倒しするときは**

背もたれを倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。（→ P. 29）

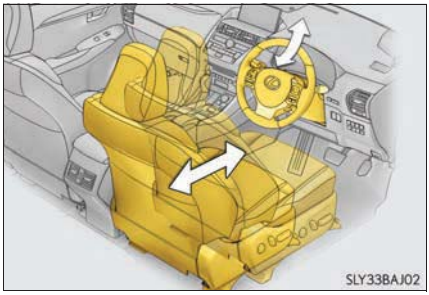
パワーイージーアクセスシステム★／ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。
・シフトレバーを P に入れる
・パワースイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。
・パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする
・シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 465）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

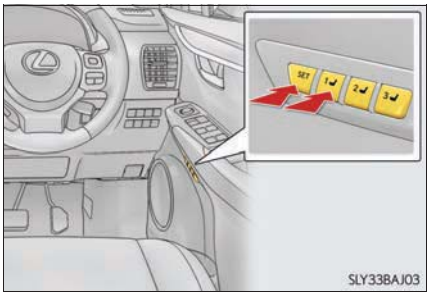
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

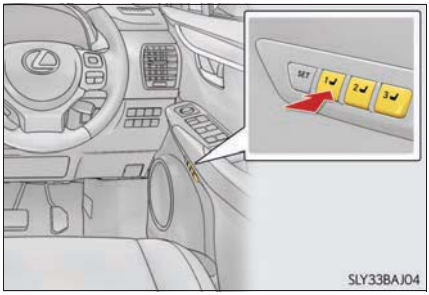


■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 ～ 3 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 143）

腰部硬さ調整以外の位置が登録できます。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションを電子キー（カードキーを含む）に登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

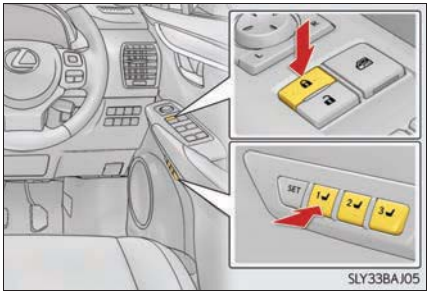
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ **解除方法**

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ **メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ **カスタマイズ機能**

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 465）

警告

■ **シートを調整するとき**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

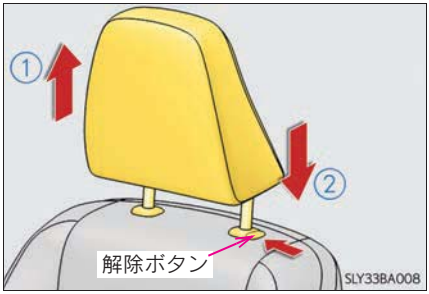
フロント席

▶ 上下調整

① 上げる

② 下げる

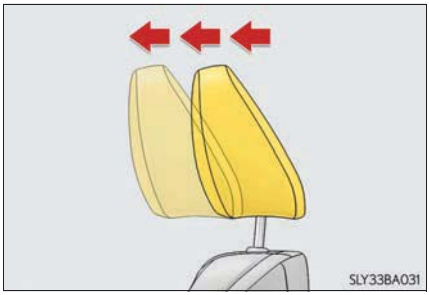
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



▶ 前後調整★

ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

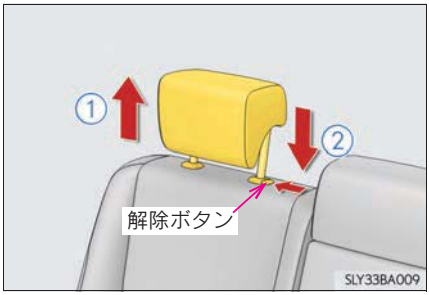


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

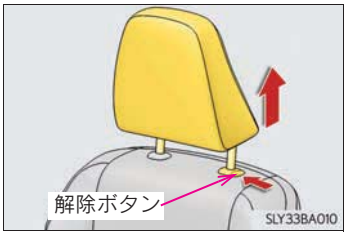


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

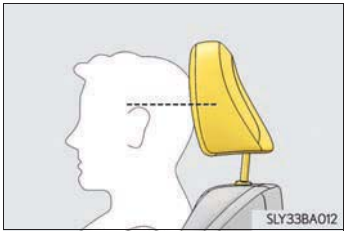
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→ P. 143,144）



■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

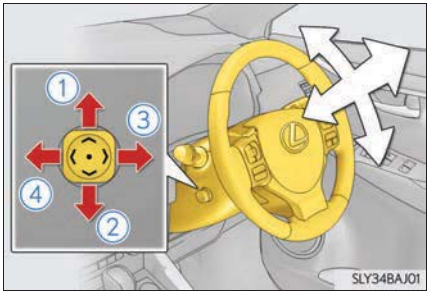
- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

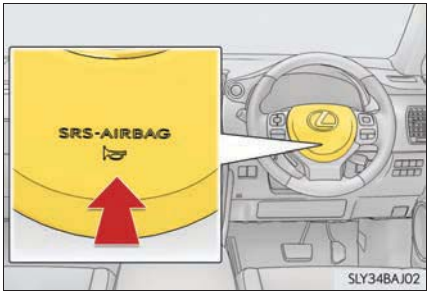
スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモード、または ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整★

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 152）

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→ P. 152）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

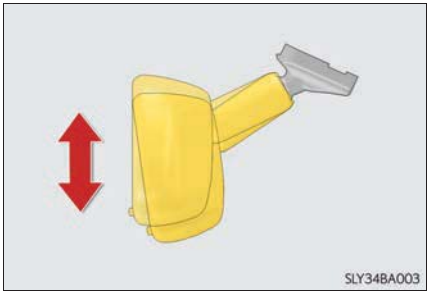
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



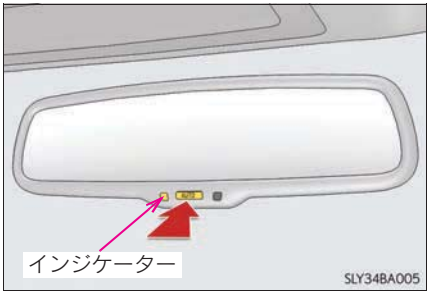
防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

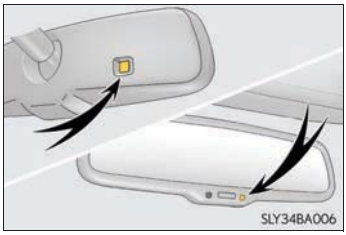
ON のときはインジケーターが点灯します。
パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

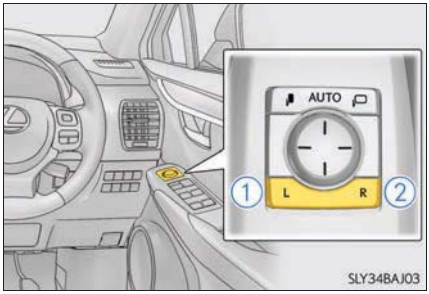
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶ

① 左

② 右



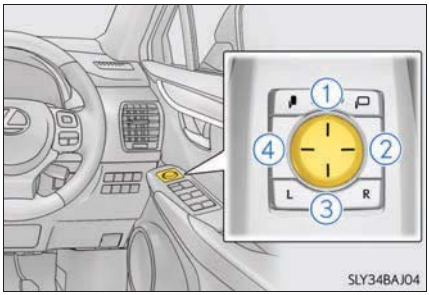
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左

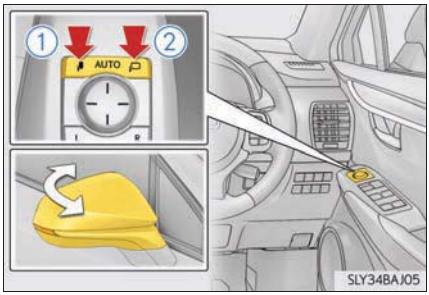


ドアミラーを格納する

① ミラーを格納する

② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“ AUTO ”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 298）

■ ミラー角度の自動調整（運転席ポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 152）

■ 自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→ P. 161）

■ 寒冷時に使用するとき

- 寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。
- 寒冷時に「リバース連動」を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 469）

警告

■ **走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ **ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ **ミラーヒーターが作動しているとき**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

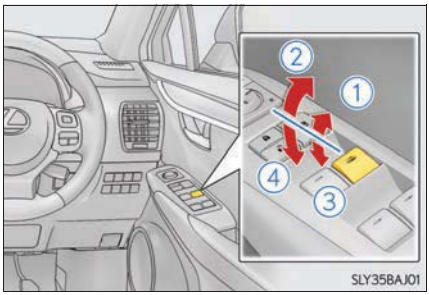
① 閉める

② 自動全開※

③ 開ける

④ 自動全開※

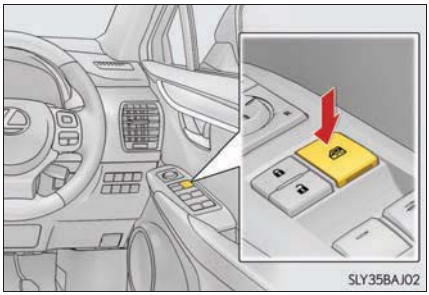
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドア内に巻き込まれると作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約４秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約４秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **ドアロック連動ドアガラス開閉機能**

● メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 442）

● ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 119）

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■ **オートアラーム**

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 79）

■ **窓開警告ブザー**

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ **カスタマイズ機能**

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 469）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 166)

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンができます。

開閉

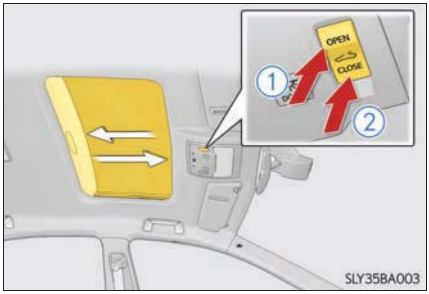
① ムーンルーフを開く

スイッチを長押しすると、チルトアップしてから自動で全開します。※

② ムーンルーフを閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



チルトアップ／ダウン

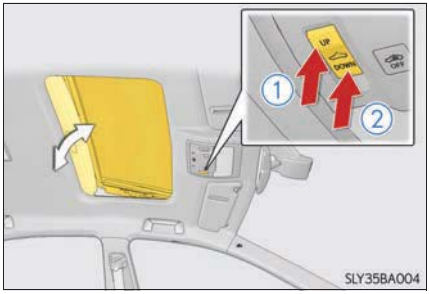
① チルトアップ

スイッチを長押しすると、チルトアップ停止位置まで自動で開きます。※

② チルトダウン

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **挟み込み防止機能**

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ **サンシェード**

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ **ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能**

● メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 442）

● ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 119）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 469）

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“ CLOSE ”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2
その後再び閉じ、チルトダウンし、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“ DOWN ”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、チルトアップ位置で 10 秒間停止します。※2
その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

※1 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は P. 173 の「チルトアップ／ダウンやムーンルーフの開閉はできるが、自動で全開・全閉ができない場合」を参照し、ムーンルーフの初期化を行ってください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に働かないときは

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に働かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 ムーンルーフを操作する
操作できる内容によって、初期化方法が異なります。

●ムーンルーフが閉じている状態で、チルトアップ作動のみできる場合

3 スイッチの“ DOWN ”または“ CLOSE ”側を押し続ける
チルトアップ停止位置まで開く。その後ムーンルーフが開き、全閉します。
その後再び、チルトアップし、全閉位置で停止します。

4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

●ムーンルーフが途中まで開いている状態で、ムーンルーフが閉じる作動のみできる場合

3 スイッチの“ DOWN ”または“ CLOSE ”側を押し続ける
ムーンルーフが全閉し、チルトアップしたあと、全開付近の位置まで開きます。
その後、全閉しチルトアップしたあとに、全閉位置で停止します。

4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトアップ／ダウンやムーンルーフの開閉はできるが、自動で全開・全閉ができない場合

3 スイッチの“ OPEN ”側を押して全開にする

4 スイッチの“ CLOSE ”側を押して全閉にする

5 スイッチの“ UP ”側を押してチルトアップ停止位置までチルトアップする

6 スイッチの“ DOWN ”側を押してチルトダウンする

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 469）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているときは

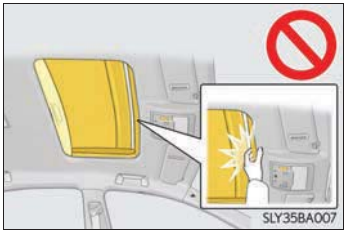
●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

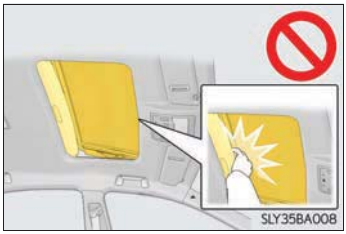
■ムーンルーフを開閉するときは

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



●車から離れる時はパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

電動サンシェード★

頭上のスイッチで電動サンシェードを開閉できます。

開閉

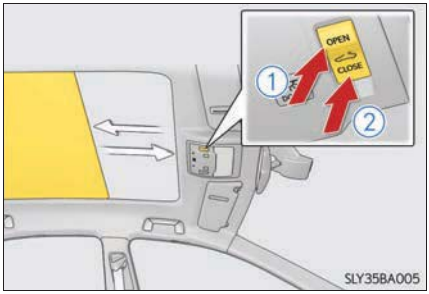
① 開ける

スイッチを長押しすると、自動で全開します。※

② 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■挟み込み防止機能

- 電動サンシェードを閉めるときに、電動サンシェードが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。
- 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの“CLOSE”側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。
- 電動サンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■自動全開／自動全閉機能が働かないとき

次の手順で初期化を行ってください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 スイッチの“ CLOSE ”側を押し続ける
全閉付近の位置まで閉じ、停止します。その後、開く方向に作動してから全閉位置で停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するときは

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 178

荷物を積むときの注意..... 187

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 189

EV ドライブモード 195

トランスミッション..... 197

方向指示レバー..... 202

電動パーキングブレーキ..... 203

ブレーキホールド..... 207

ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 209

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 210

オートマチックハイビーム..... 213

フォグランプスイッチ..... 218

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 220

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 223

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 225

4-5. 運転支援装置について

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）.....230

クルーズコントロール.....243

LDA（ステアリング制御付）....247

クリアランスソナー＆バックソナー 258

ドライブモードセレクトスイッチ 267

運転を補助する装置.....270

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....277

BSM（ブラインドスポットモニター）.....283

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 288

寒冷時の運転 290

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 189

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 197）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 204）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 203）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→ P. 204）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 197）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 シフトレバーを P にする（→ P. 197）

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 204）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P にしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。（→ P. 203）

4 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 197）

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 204）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 270）

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 288）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 272）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

→ P. 93

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 392 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 197）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●AWD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N に入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずシフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけて、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 411, 423 をご覧ください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン･ハイブリッド用トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノボード
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ルーフレールを使用するときは★**

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

●ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

●80kg 以上の荷物を積まないでください。

注意

■**荷物を積むとき**

ムーンルーフ★やパノラマルーフ★に荷物が触れないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。
表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを押す

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P にする（→ P. 197）

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 203）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P にしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。（→ P. 203）

4 パワースイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を　Off　してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を　Off　してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 71

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 116

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■ご留意いただきたいこと

→ P. 140

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 78）
レクサス販売店へご連絡ください。

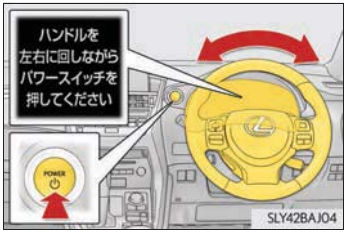
●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れて下さい」が表示されます。

■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 74

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 367

■パワースイッチの操作について

●パワースイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 443

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中は

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 392）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッションON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチがOFFになっていません。パワースイッチをOFFにしてから車両を離れてください。

●シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

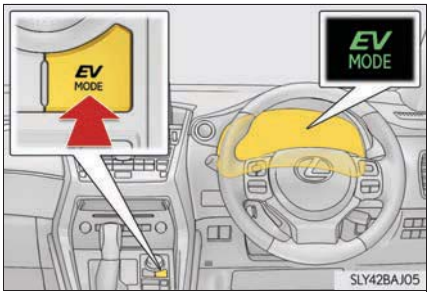
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。**（→ P. 69）**

EV ドライブモードの ON・OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 107）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 107）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

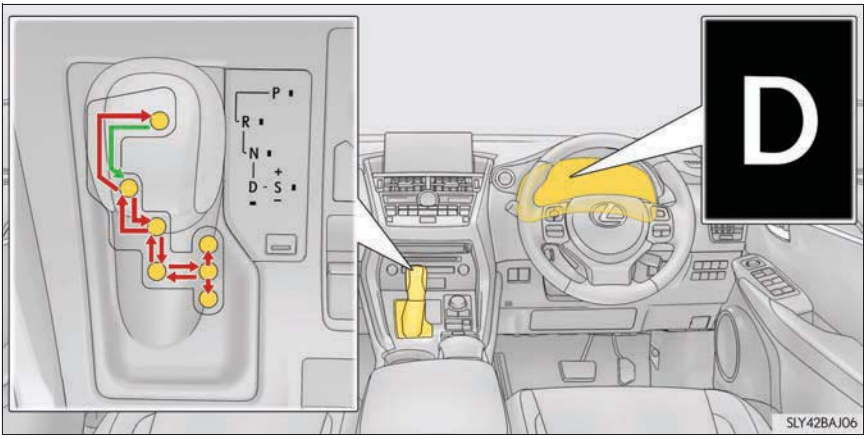
⚠警告

■走行中は

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	S モード走行※2（→ P. 199）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

走行モードの選択

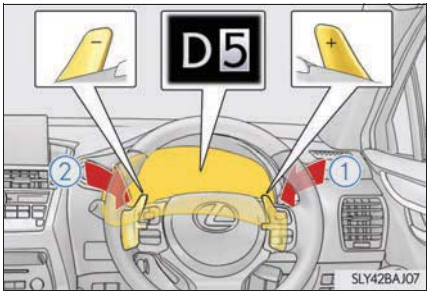
→ P. 267

D ポジションでのシフトレンジ選択

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの“－”側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン



1 から 6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、4 レンジに設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“＋”側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

S モードでのシフトレンジ選択

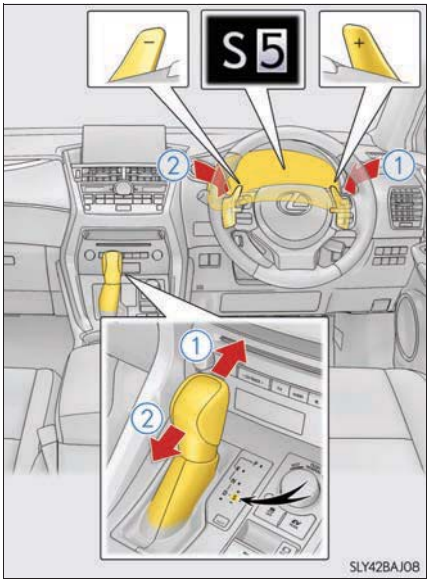
シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

1 から 6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、4 レンジに設定されます。



■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■D ポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトレバーを D 以外にしたとき

■S モードについて

●S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを“＋”側へ保持すると 6 レンジに設定されます。

●エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■クルーズコントロール★またはレーダークルーズコントロール★を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●D ポジションまたは S モードで走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしたとき（→ P. 230, 243）

●D ポジションで走行中にドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしたとき（→ P. 267）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、HV システム出力を抑制する場合があります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→ P. 440

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

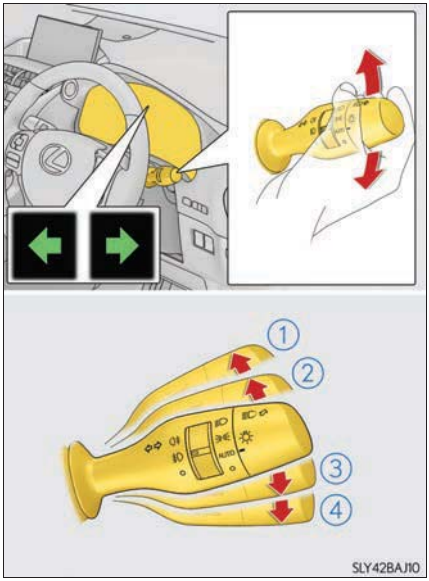
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **表示灯の点滅が異常に速くなったときは**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

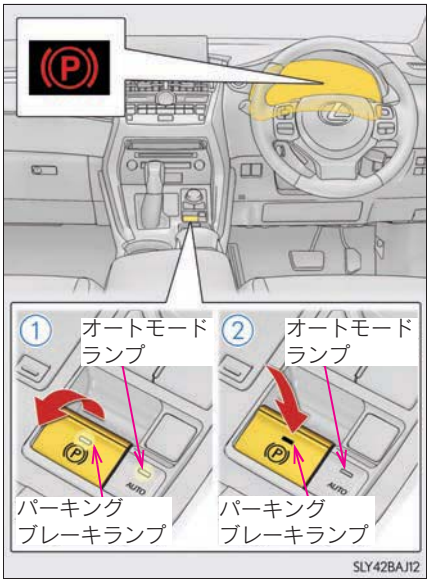
オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。
オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。（→ P. 204）

① オートモードを ON にする（停車中にオートモードランプが点灯するまでスイッチを引き続ける）

P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。
P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

② オートモードを OFF にする（停車中にオートモードランプが消灯するまでスイッチを押し続ける）



マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

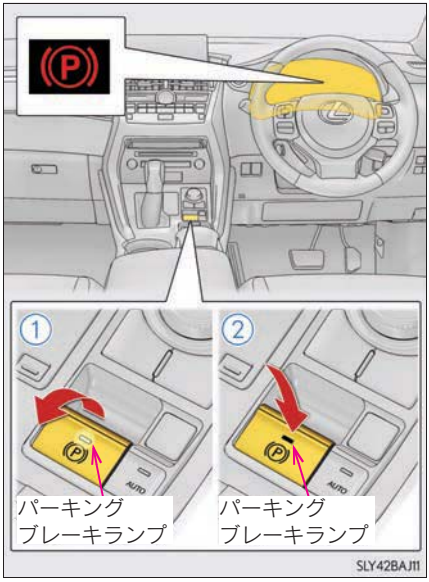
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→ P. 402）



知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチがONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチがONモード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキ高温 現在使用できません」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1分程度でもとの状態にもどります。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■モードの切りかえについて

オートモードのON/OFFを切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 401

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 291

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

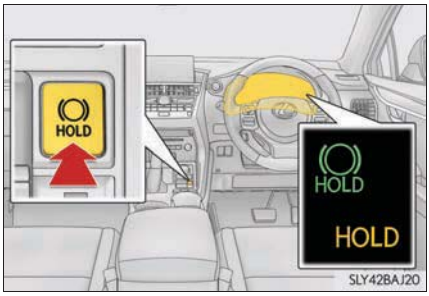
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

シフトレバーがD・SまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■ **システムの作動条件**

次のときはシステムをONできません。

●バックドアまたはボンネットが閉まっていない

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムがONのときにいずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ **ブレーキ保持について**

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合は、運転者はブレーキをかける必要があるときもあります。このときは警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動では解除されません。ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作してパーキングブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→ P. 203)

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作業表示灯が点滅したときは

→ P. 402

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ASC（アクティブサウンドコントロール）★

ASC は、インストルメントパネル内部のスピーカーからエンジン音を発生させて、車の加速や減速といった走行状態を、運転者に電子音で伝えるシステムです。
運転者のアクセル操作やシフト操作に対する車の反応が電子音で伝えられます。
スポーツモードが選択されているときは、電子音の音色がかわり音量がより大きくなります。

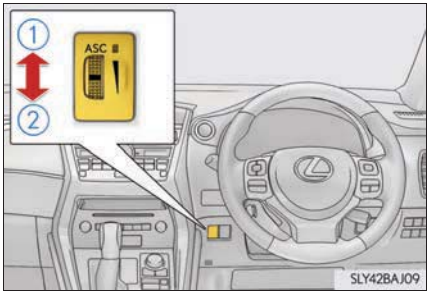
音量調整

① 大きくなる

② 小さくなる

ASC が ON のとき、スイッチ上のランプが点灯します。

ダイヤルを音量が最小になるまでまわすと、ASC は OFF になります。



知識

■ **作動条件**

ドライブモードセレクトスイッチが、ノーマルモードまたはスポーツモードのとき。

■ **機能の一時解除**

ASC システムは、例えば急加速によってタイヤがスリップするようなときなど、走行状態によって一時的に解除される場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

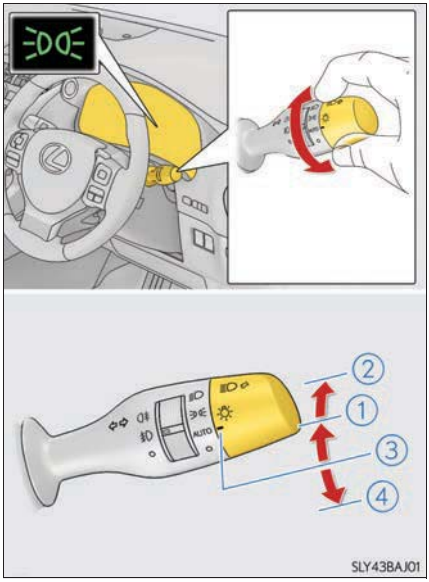
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

① 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプ・スイッチ照明を点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ・LED デイライト（→ P. 211）・車幅灯などを自動点灯・消灯（パワースイッチがONモードのとき）

④ ○ 消灯



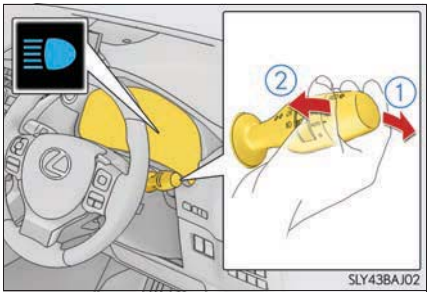
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



コーナーリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次の条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナーリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションが R のとき

ただし、車速が 40km/h 以上の場合は、コーナーリングランプは点灯しません。
コーナーリングランプは点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

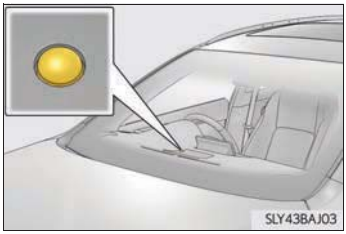
知識

■LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたはOFFにしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にもどし、再度 または の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。
次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 465）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

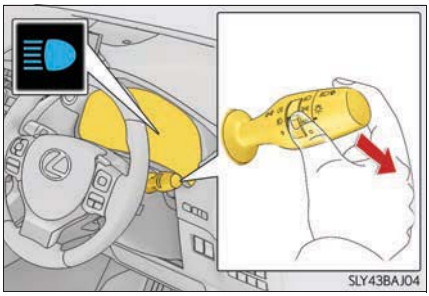
ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

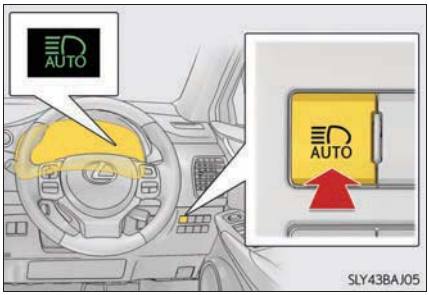
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチをAUTOまたは にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

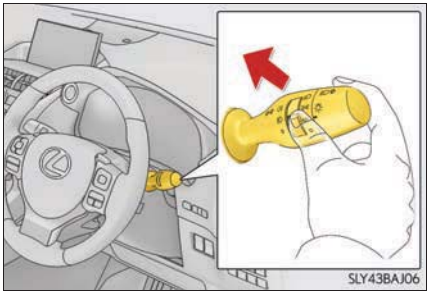
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

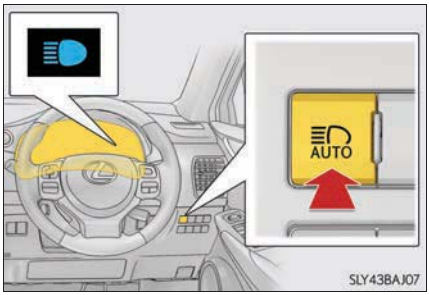


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

警告

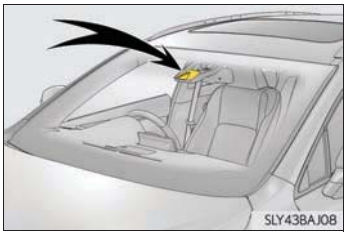
■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- カメラセンサーのレンズにふれない
- カメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- カメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- レクサス純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

フォグランプスイッチ

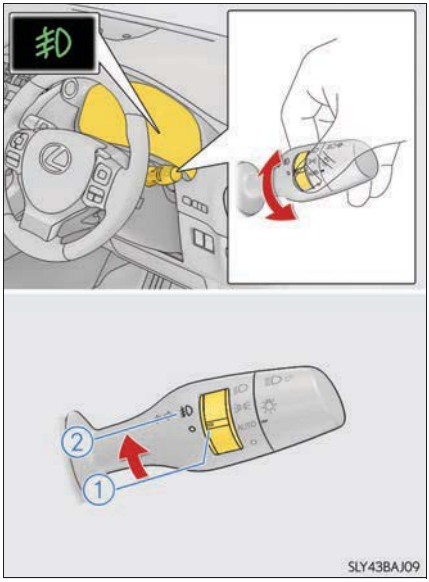
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

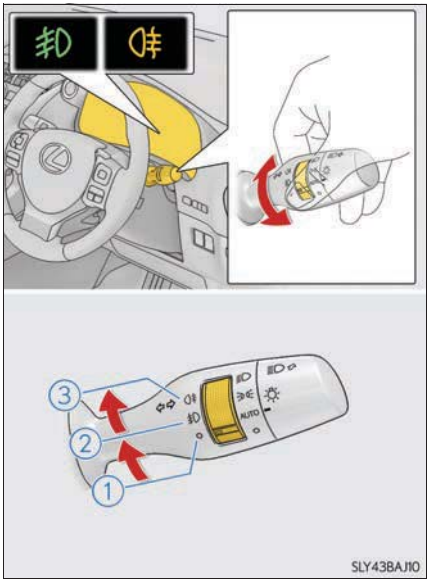
① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■ **点灯条件**

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ★：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■ **リヤフォグランプ★について**

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止

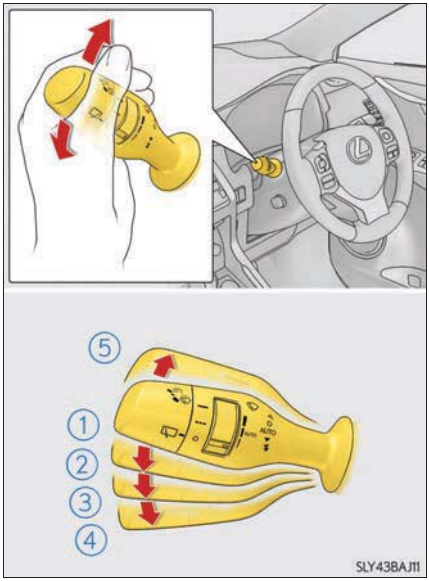
② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

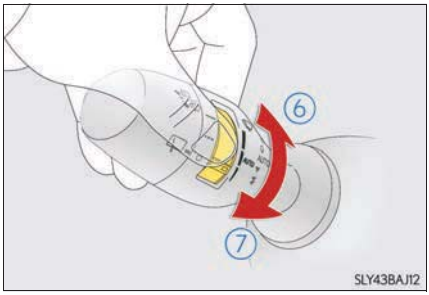
“ AUTO ” を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



“ AUTO ” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

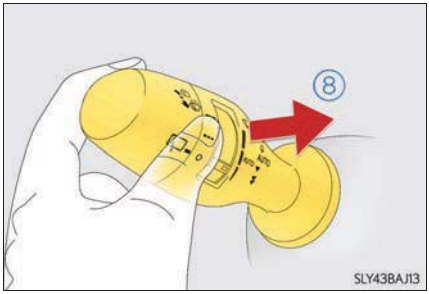
⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときに 5 回連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。



知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **液だれ防止作動**

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ **車速による作動への影響**

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ **雨滴感知センサー**

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

●パワースイッチが ON モードのときにワイパースイッチを “ AUTO ” にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャーを使用するとき**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

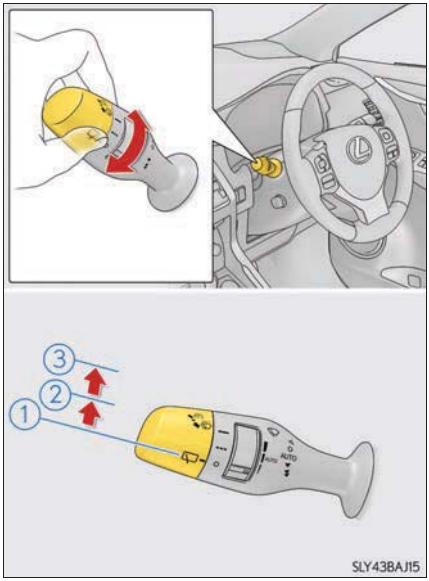
操作のしかた

次のようにレバーをまわしてワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止

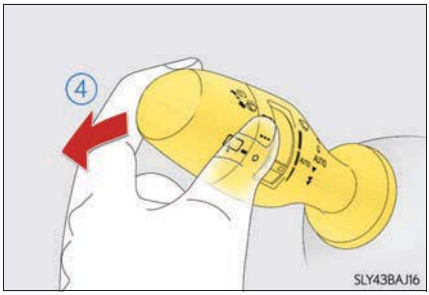
② - - - 間欠作動

③ ── 通常作動



④ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■ **リヤウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

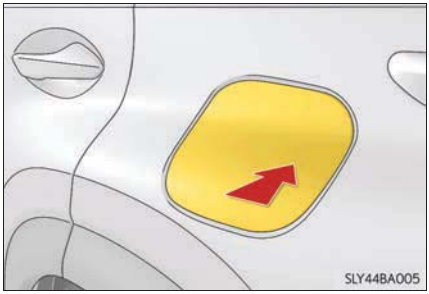
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

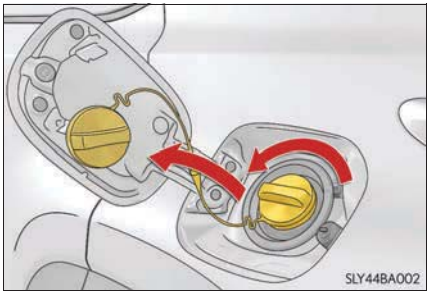
給油口の開け方

1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

奥まで押し込み、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



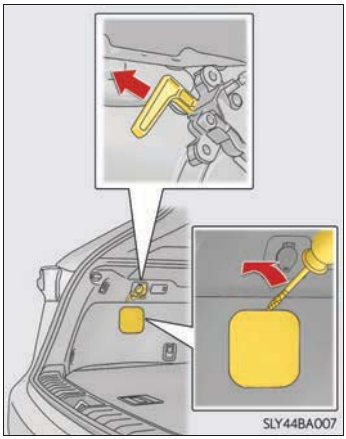
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

■給油扉が開かないとき

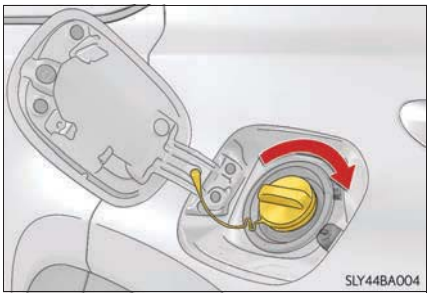
ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずしてください。取りはずしたあとにレバーを引くことで、給油扉のロックが解除され、給油扉を開けることができるようになります。
カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



給油口の閉め方

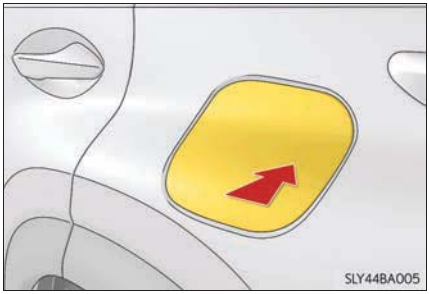
1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



知識

■給油口の施錠について

次の場合、ドアが施錠されていても給油口は施錠されません。

●室内のドアロックスイッチで施錠したとき

●シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき（→ P. 122）

●ドアを施錠したあとに給油口を閉めたとき

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★

機能概要

アクセルペダル操作をしなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 231）
- 定速制御モード（→ P. 236）

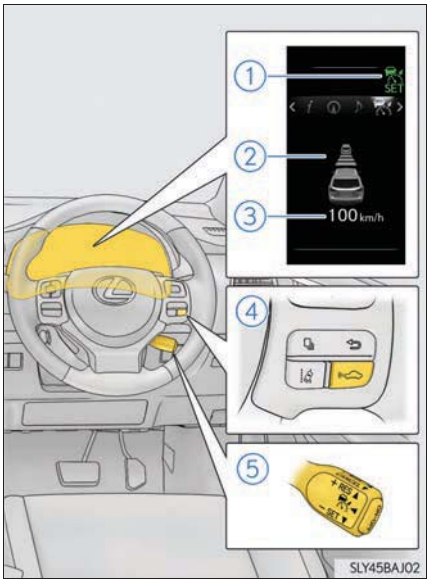
① 表示灯

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 設定速度

④ 車間距離切りかえスイッチ

⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ

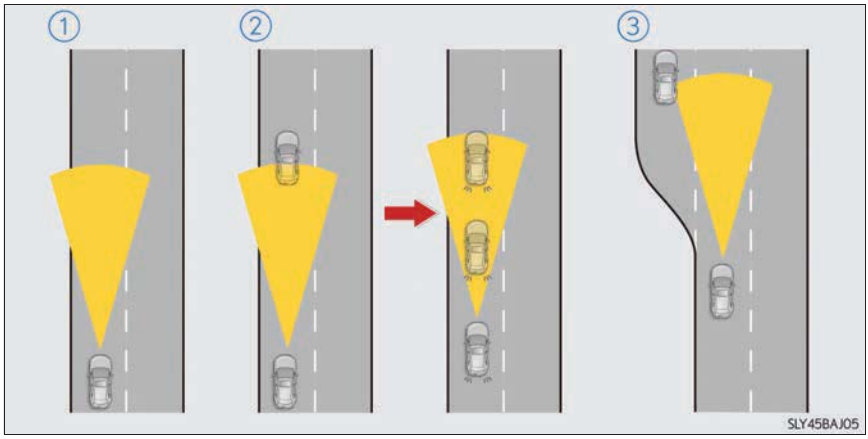


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行ー追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。
先行車が停止したときは、続いて停止します (制御停車)。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります。

③ 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

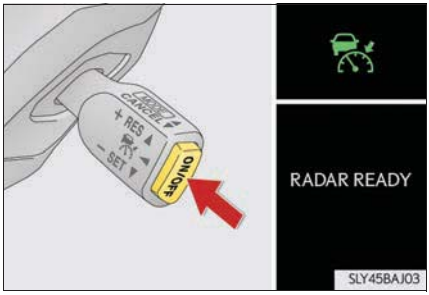
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

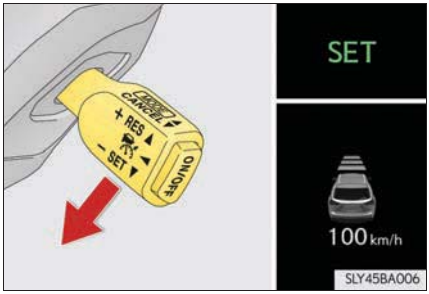
OFF にするには再度スイッチを押します。



2 希望の車速（約 50 ～約 100km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



車速が約 50km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を 50km/h として先行車に追従走行をします。

設定速度をかえる

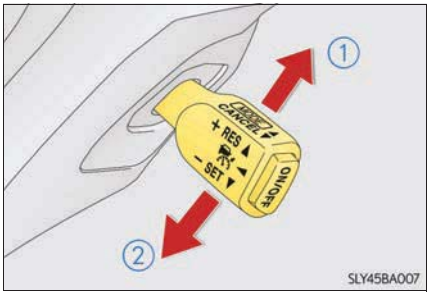
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる
（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：希望の速度になるまでレバーを保持する



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1km/h

大幅調整：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード（→ P. 236）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6km/h

大幅調整：レバーを保持するあいだ

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

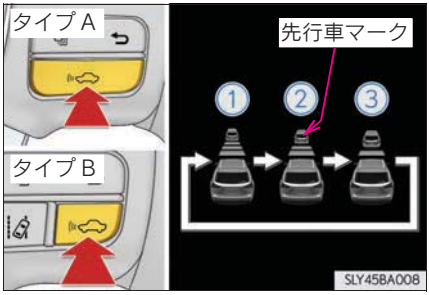
① 長い

② 中間

③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

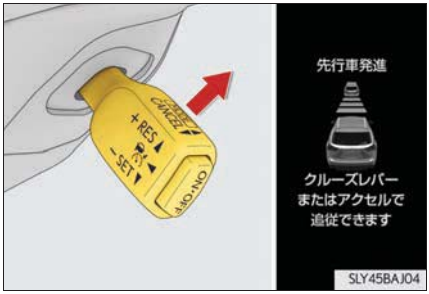
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定にかかわらず約 3 ～ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

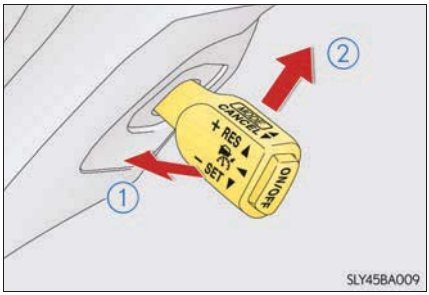


制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

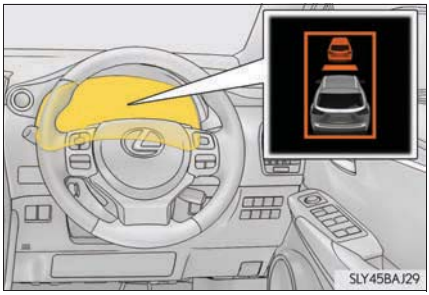
② 制御を復帰させるには、レバーを上げる



ただし、車間制御モードは、先行車がいないときに車速が約 40km/h 以下になると復帰しません。また、定速制御モードは、車速が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



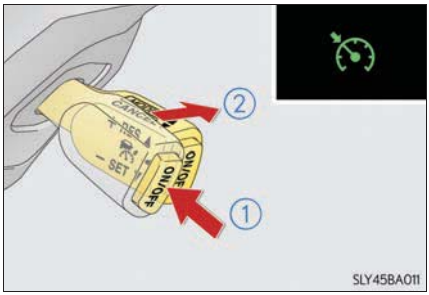
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。



① ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度スイッチを押します。

② 定速制御モードに切りかえ
（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。
定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。
パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえる
→ P. 233

制御を解除する・復帰させる
→ P. 234

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●パドルシフトスイッチで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。

●車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できない

●パーキングブレーキが作動した

●急坂路で制御停車した

●プリクラッシュブレーキが作動した

●制御停車中に次を検出した
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・バックドアまたはボンネットが開いた

また次のときは、自動的に車間制御モードが解除され、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されます。

●先行車がいないときに車速が約 40km/h 以下になった

●車速が約40km/h以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかった

●ワイパーが高速で作動した（ワイパーの設定を雨滴感知オート作動または高速作動にしたとき）

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

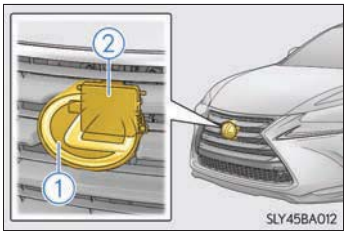
●プリクラッシュブレーキが作動した

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御モードを正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

①グリルカバー

②レーダーセンサー



■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

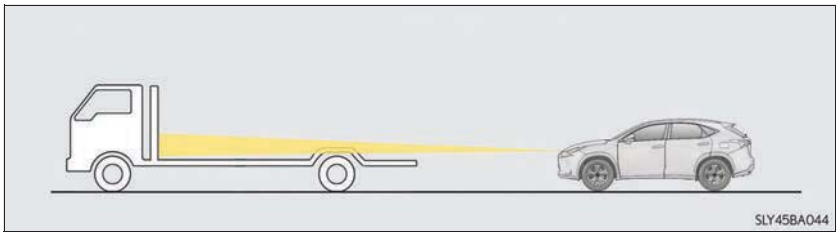
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な上り坂や下り坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 上り坂と下り坂が連続した道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■**センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

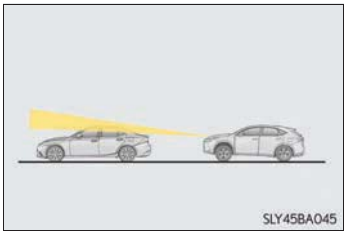
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 235）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



警告

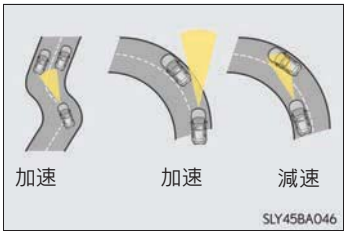
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



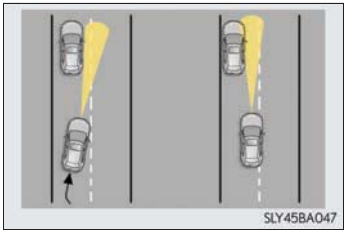
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。
お守りいただかないと、センサーが正しく検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

●センサーの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

クルーズコントロール★

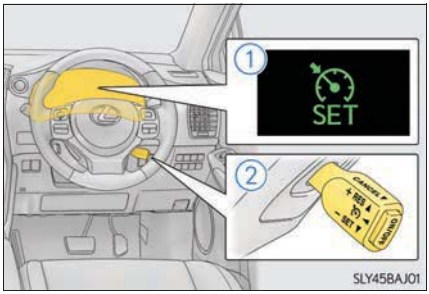
機能概要

アクセルペダル操作をしなくても一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

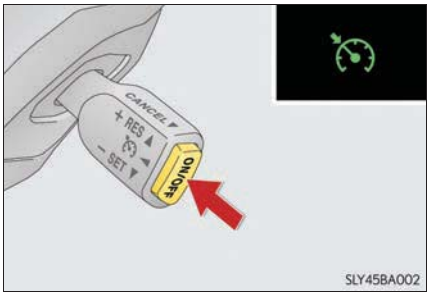


速度を設定する

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯します。

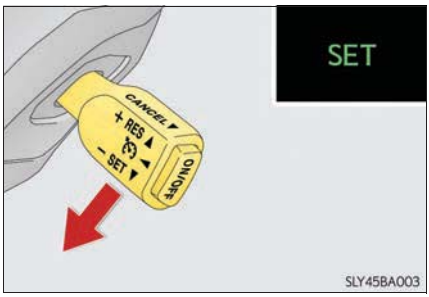
OFF にするには再度スイッチを押します。



2 希望の車速（約 40 ～約 100km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

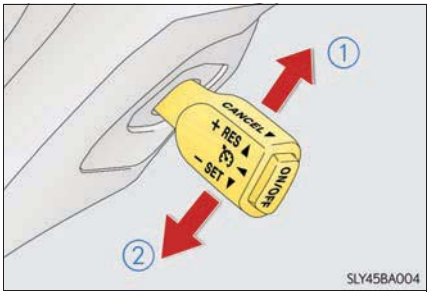
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：希望の速度になるまでレバーを保持する



設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h

大幅調整：レバーを保持するあいだ

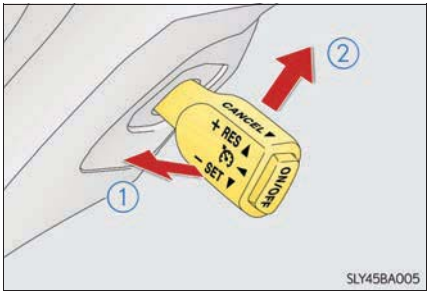
定速走行を解除する・復帰させる

① 定速走行を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●パドルシフトスイッチで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。

●車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■速度設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の車速まで加速して、レバーを下げることにより設定速度を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール故障販売店で点検してください」が表示されたとき

ON/OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

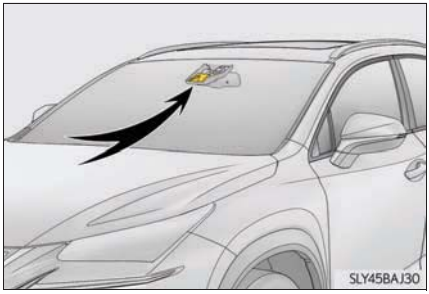
- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な上り坂や下り坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

LDA※（ステアリング制御付）★

機能概要

白（黄）線の整備されたカーブの少ない高速道路や自動車専用道路を走行中に、フロントウインドウガラス上部の白線認識用カメラを利用して白（黄）線を認識し、走行中の車線を逸脱するとシステムが判断した場合に、ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に警告するとともに、車線の逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

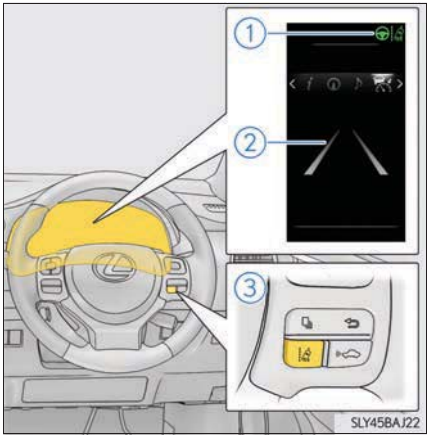
白線認識用カメラ



① 表示灯

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ LDA スイッチ

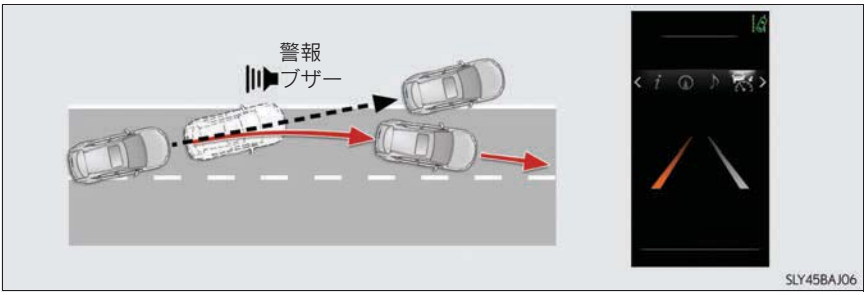


※：Lane Departure Alert の略で「車線逸脱警報」の意味。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LDA（ステアリング制御付）に含まれる機能

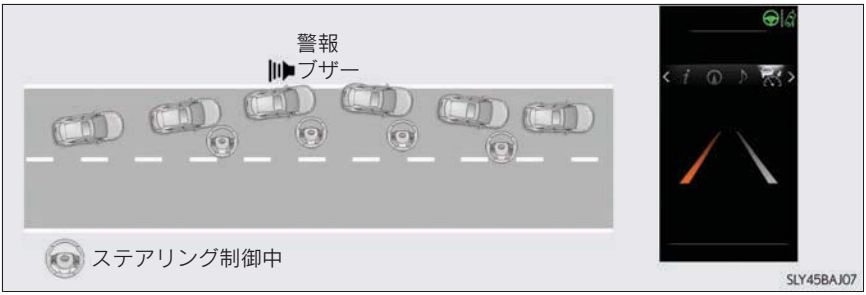
◆ 車線逸脱警報機能



車両が車線から逸脱するとシステムが判断した場合に、警報ブザーが「ピピピピ」と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認して、安全なハンドル操作で白（黄）線内の中央付近にもどってください。

◆ ステアリング制御機能



車両が車線から逸脱するとシステムが判断した場合に、マルチインフォメーションディスプレイ表示および、ステアリング制御によりハンドルに操舵力を与え、車線逸脱の回避に必要なハンドル操作の一部を支援します。

システムへの過信を防ぐため、ハンドルを操作しなかったり、ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。

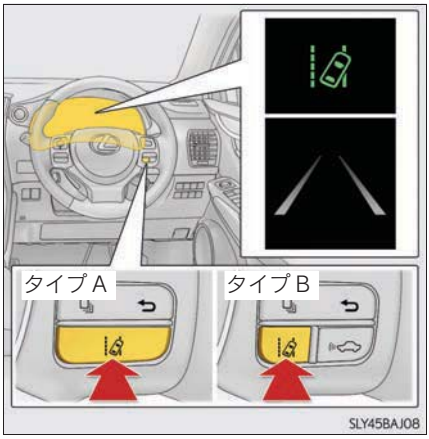
設定のしかた

LDA スイッチを押して LDA（ステアリング制御付）を ON にする

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに白線表示が表示されます。

OFF するには再度スイッチを押します。

パワースイッチを OFF にすると、LDA（ステアリング制御付）は OFF にもどります。



作動条件

■ 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

車線逸脱警報機能が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（→ P. 252）が表示されます。

- LDA（ステアリング制御付）を ON にしているとき（→ P. 249）
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 2.5m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 非常点滅灯を作動させていないとき
- 直線路またはゆるいカーブ（半径約 100m 以上）を走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 253）

■ ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 254）
- 一定以上の減速をしていないとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ABS・VSC・TRC・PCS★が作動していないとき
- 加速を意図としたアクセル操作をしていないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能の一時解除

■ 車線逸脱警報機能

次のいずれかの場合、車線逸脱警報機能が一時的に解除されます。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 作動条件以外の車速になったとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- 非常点滅灯を作動させたとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき
- システム異常時
- 車線逸脱警報作動直後

  車線逸脱警報が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。
- 車体のおよそ半分以上がレーンをまたいだとき

■ ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能が一時的に解除される条件に加えて、次のいずれかの場合、ステアリング制御機能が一時的に解除されます。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 一定以上の減速をしたとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- ABS・VSC・TRC・PCS★が作動しているとき
- 加速を意図としたアクセル操作をしたとき
- システムが手放し運転をしていると判断したとき
- VSC・TRC の作動を停止したとき（→ P. 272）

ステアリング制御機能が解除されたとき

ステアリング制御機能に関するシステムが、異常を判断した場合、ステアリング制御機能が解除され、マルチインフォメーションディスプレイに「LDA 操舵支援停止中のため警報のみ有効です」が表示されますが、車線逸脱警報機能は作動可能です。
ステアリング制御機能が解除された場合は、再度マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から「操舵支援」を「有」にする、もしくは LDA スイッチを再度 ON にしないと復帰しません。（→ P. 254）

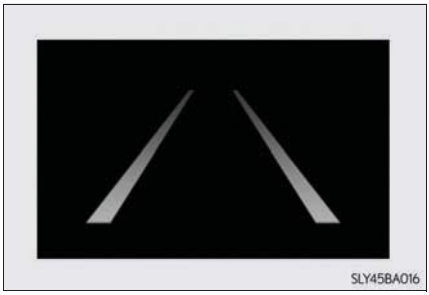
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

両側の白線表示が白いとき：

左右の白（黄）線が認識されていることを示しています。

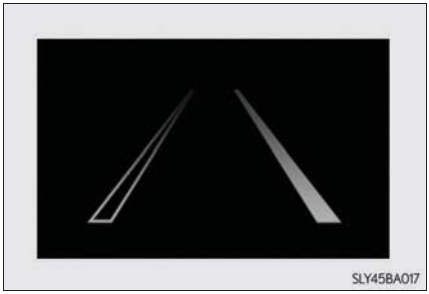
車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。（→ P. 248）



片側の白線表示が白いとき：

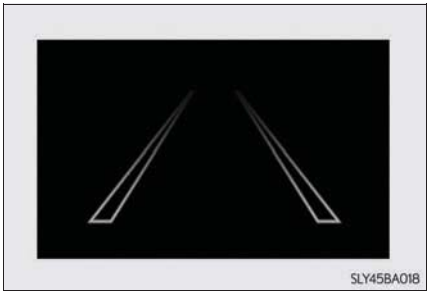
左右いずれか一方の白（黄）線が認識されていることを示しています。

認識されている側の白（黄）線から車両が逸脱すると、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。（→ P. 248）



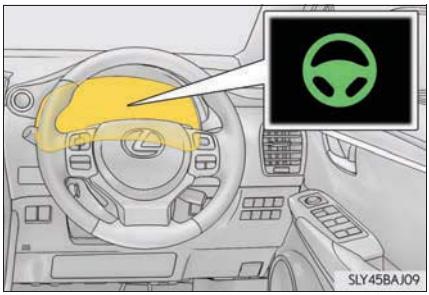
両側の白線表示内側が黒いとき：

白（黄）線が認識されていない。または、LDA（ステアリング制御付）が一時的に解除されていることを示しています。



ステアリング制御中の表示

ステアリング制御中は、ステアリング制御表示灯が点灯します。



知識

■マルチインフォメーションディスプレイに「LDA 故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

LDA スイッチを押しても LDA 表示灯が点灯しないときはシステム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御によるハンドルの操舵力を感じにくい場合があります。

■車線逸脱警報の警報ブザーについて

オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、警報ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA（ステアリング制御付）は作動せず、警告メッセージが表示されることがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→ P. 247）が適温になると作動するので、しばらくしてから LDA スイッチを再度 ON にしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、白線認識用カメラが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがありますが、故障ではありません。

●白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行するとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき

●分岐・合流路などを走行するとき

●坂道を走行するとき

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき

■タイヤを交換したとき

冬用タイヤなど、タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LDA（ステアリング制御付）の警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
また、警告メッセージが表示されても通常の走行に支障はありません。

■ステアリング制御機能を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの 「設定」（→ P. 96）から、ステアリング制御機能を ON ／ OFF にできます。

1. メーター操作スイッチ（→ P. 96）の ∧ または、∨ を押して 操舵支援 を選択する
2. メーター操作スイッチの を押すごとに制御の「有（ON）」・「無（OFF）」が切りかわる

■車線逸脱警報ブザーの感度調整について

マルチインフォメーションディスプレイの 「設定」（→ P. 96）から、車線逸脱時の警報ブザーが吹鳴する感度を調整できます。

1. メーター操作スイッチ（→ P. 96）の ∧ または、∨ を押して 警報感度 を選択する
2. メーター操作スイッチの を押すごとに警報感度の「高」・「普通」が切りかわる

警告

■**LDA（ステアリング制御付）をお使いになる前に**

LDA（ステアリング制御付）を過信しないでください。LDA（ステアリング制御付）は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は休憩をとるなどしてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**手放し運転はしないでください**

ステアリング制御機能中に、システムが手放し運転をしていると判断したとき、ステアリング制御機能が一時的に解除され、同時に警告メッセージが表示されます。（→ P. 248）
適切なハンドル操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中は、ハンドルをしっかりと持ち、安全運転を心がけてください。

■**誤操作を防ぐために**

LDA（ステアリング制御付）を使用しないときは、LDA スイッチ（→ P. 249）でシステムを OFF にしてください。

■**LDA（ステアリング制御付）を使用してはいけない状況**

次の状況では、LDA（ステアリング制御付）を OFF にしてください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- サスペンションを改造しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポール）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行するとき
- 雪や雨などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路や自動車専用道以外の車線を走行するとき
- 工事区間を走行するとき

注意

■LDA（ステアリング制御付）の故障や誤作動を防ぐために

LDA（ステアリング制御付）の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造したり、純正品以外の部品に交換したりしないでください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 荷物を積みすぎないでください。

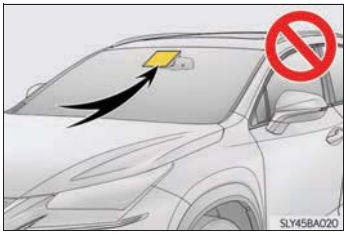
注意

■白線認識用カメラ

LDA（ステアリング制御付）の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

●フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりすると、性能が低下することがあります。

●カメラのレンズ付近のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない



●カメラに液体をかけない

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●カメラのレンズ前にアンテナを取り付けない

●フロントウインドウガラスが曇った場合は、カメラのレンズ前の曇りを取る
（→ P. 297）
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えることがあります。

●カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
カメラのレンズのお手入れは、レクサス販売店にご相談ください。

●カメラの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

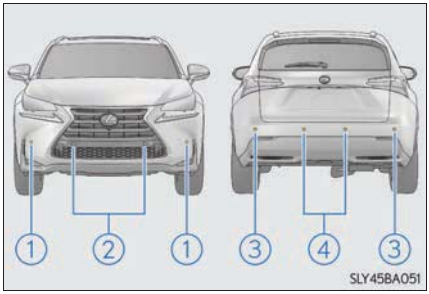
●フロントウインドウガラスを純正品以外のものに交換しないでください。
交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

クリアランスソナー＆バックソナー★

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

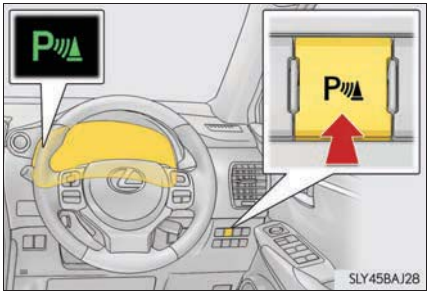
① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー



クリアランスソナースイッチ

クリアランスソナースイッチを押す

クリアランスソナーが ON になり、表示灯が点灯します。
OFF にするには再びスイッチを押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

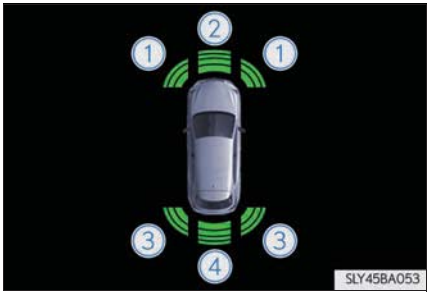
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントコーナーセンサー作動表示

② フロントセンサー作動表示

③ リヤコーナーセンサー作動表示

④ バックセンサー作動表示



■ ナビゲーション画面の表示

障害物を感知すると自動的に表示されます。

① クリアランスソナー表示

バックガイドモニター★・サイドモニター★・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★非表示時

表示されないように設定することができます。（→ P. 263）

：ブザー音ミュート（消音）スイッチ

ブザー音を一時的に消すことができます。

② 割り込み表示

バックガイドモニター★・サイドモニター★・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★表示時

画面上に簡略表示されます。（右の画面はバックガイドモニターの場合です。サイドモニター・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）表示時の割り込み表示については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

障害物を感知すると、作動表示が点灯または点滅します。

通常表示※1	割り込み表示		障害物までのおおよその距離	
	バックガイドモニター・サイドモニター	パノラミックビューモニター	フロント＆バックセンサー	フロント＆リヤコーナーセンサー
（点灯）	（遅い点滅）	（遅い点滅）	フロントセンサー：100cm ～ 60cm バックセンサー：150cm ～ 60cm	—
（点灯）	（点滅）	（遅い点滅）	60cm ～ 45cm	60cm ～ 45cm
（点灯）	（速い点滅）	（速い点滅）	フロントセンサー：45cm ～ 30cm バックセンサー：45cm ～ 35cm	45cm ～ 30cm
（点滅※2 または 点灯※3）	（点灯）	（点灯）	フロントセンサー：30cm 以下 バックセンサー：35cm 以下	30cm 以下

※1 イラストは説明のための例であり、表示により異なります。（→ P. 259）

※2 マルチインフォメーションディスプレイ

※3 ナビゲーション画面

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- ・フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
- ・フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
- ・リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
- ・バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→ P. 263）

障害物を感知できる範囲

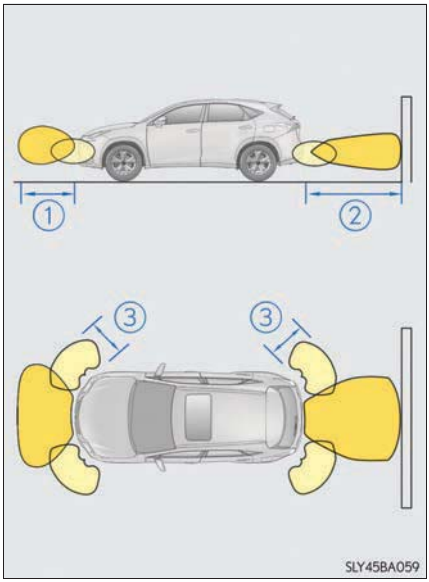
① 約 100cm

② 約 150cm

③ 約 60cm

感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



ナビゲーション画面表示・ブザーの設定

パワースイッチが ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 リモートタッチ“MENU”ボタンを押し、メニュー画面を表示させる

2 「設定・編集」を選択する

3 「運転支援」を選択する

4 「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF（ソナー表示）

画面内の「ソナー表示なし」を選択する

- 選択するごとに、「表示される」と「表示されない」が切りかわります。
- 「表示されない」にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の「切換え」を選択する

- フロントセンサー：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。
- バックセンサー：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。

フロントセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：
・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき（シフトレバーが R にあるときは除く）

●フロントセンサー：
・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P または R 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近づきすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■**クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。

●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

■**センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●標識などのものによっては感知距離が短くなります。

●バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●センサーに障害物が近付きすぎたとき

●バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

警告

- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■正確に感知できないことがある障害物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■クリアランスソナーを使用するとき

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- 障害物を感知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき（ミュート選択時は除く）

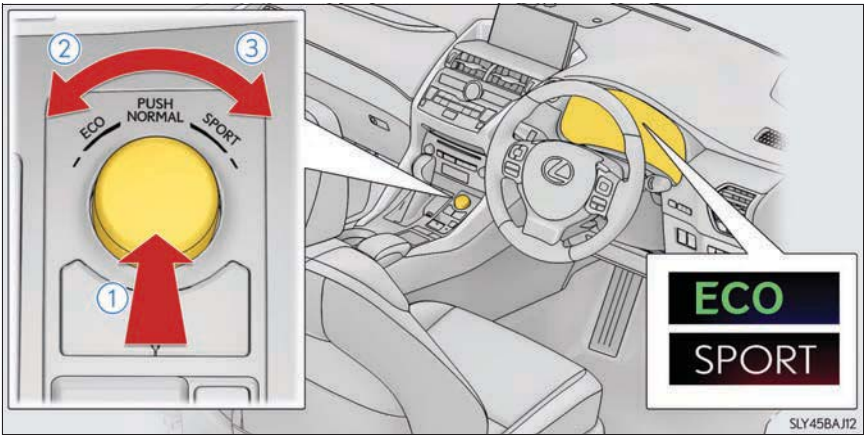
■洗車するとき

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

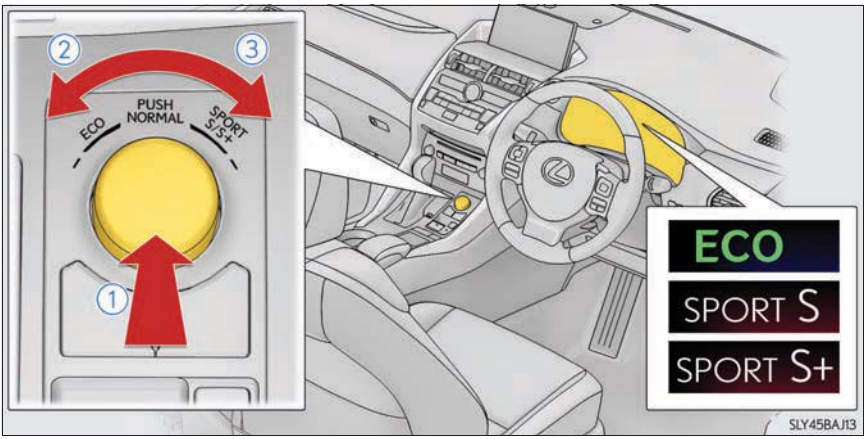
エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

ステアリングのフィーリング・およびハイブリッドシステムの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。
山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに SPORT 表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。
（→ P. 90）

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

・スポーツ S モード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに SPORT S 表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。
(→ P. 90)

・スポーツ S ＋モード

ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに SPORT S ＋表示灯が点灯します。

知識

■ **エコドライブモード時のエアコン作動について**

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■ **スポーツモードの自動解除**

スポーツモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ E-Four（電気式 4WD システム）★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から AWD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

◆ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた操縦安定性の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。（→ P. 268）

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 277

◆ 緊急ブレーキシグナル

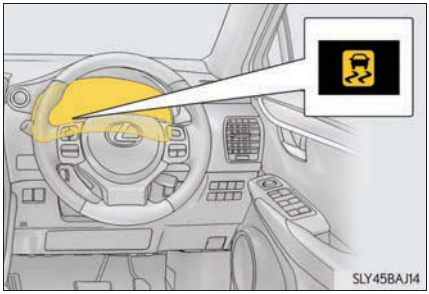
急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ BSM（ブラインドスポットモニター）★

→ P. 283

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 280）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●車体やハンドルに振動を感じる

●車両停止後もモーター音が聞こえる

●ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く

●ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●ハイブリッドシステム停止後１～２分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPSの効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■NAVI・AI-AVS★の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめショックアブソーバーの減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**ABS の効果を発揮できないとき**

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■**ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■**ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**スリップ表示灯が点滅しているときは**

TRC・VSC または ABS が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC ・ VSC を作動停止状態にしないでください。
TRC・VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■**タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 461）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

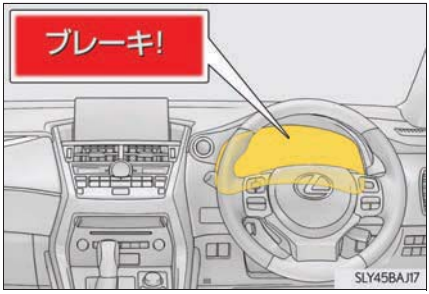
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にブレーキを作動させ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、スイッチ操作でプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングの変更や ON/OFF を切りかえることができます。（→ P. 278）

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物との衝突の可能性が高いときに衝突警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。

◆ サスペンションコントロール（NAVI・AI-AVS 装着車）

衝突の可能性が高いと判断したとき、NAVI・AI-AVS（→ P. 271）の働きを利用して、ショックアブソーバーの減衰力を最適に制御します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

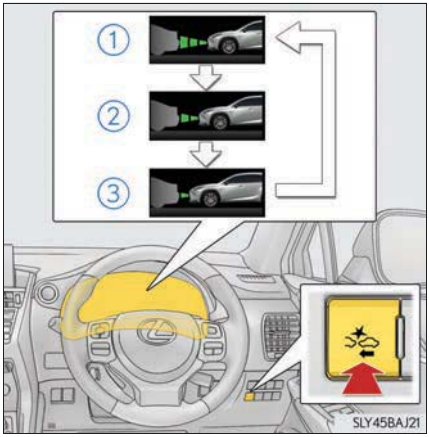
PCS スイッチを押すごとに次のように距離に応じて変更できます。

① 遠い

② 中間※

③ 近い

※ 初期設定



■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

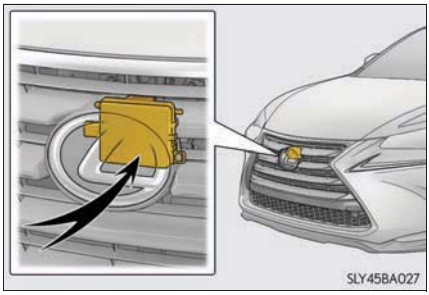
PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

ON するには、再度 PCS スイッチを押します。
パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。

レーダーセンサー

走行中に進路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON（→ P. 278）で、次の状態のとき、作動します。

●衝突警告表示の作動条件
- 車速が約 15km/h 以上
- 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件
- VSC が OFF でないとき
- 車速が約 30 km/h 以上
- 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30km/h 以上
- ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件
- VSC が OFF でないとき
- 自車速度が約 15km/h 以上
- 自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 10km/h 以上

●サスペンションコントロールの作動条件（NAVI・AI-AVS 装着車）
- 車速が約 5km/h 以上
- 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき

●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき

●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき

●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき

●凹凸のある路面を走行するとき

●路面上に金属物、段差または突起物があるとき

●車高が極端に変化しているとき

●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

●自車の車両姿勢が前上がりになる場合（重い荷物を積んだときなど）

また、このとき、ブレーキをかけると通常よりブレーキが強くかかる場合があります。

■**センサーが検知しない場合**

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■**システムの作動しない環境**

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●VSC が作動していないとき、車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

●大きくハンドルをきるなどにより、障害物が前方に突然出現したとき

■**システムの自動解除**

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■**システムに異常がある、またはシステムが一時的に使用できないとき**

PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■**TRC と VSC を停止したとき**

●TRC と VSC の作動を停止 (→ P. 272) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、警報機能は作動します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」と表示されます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 279）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■**レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに誤動作または異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- センサーの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

警告

■ **システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

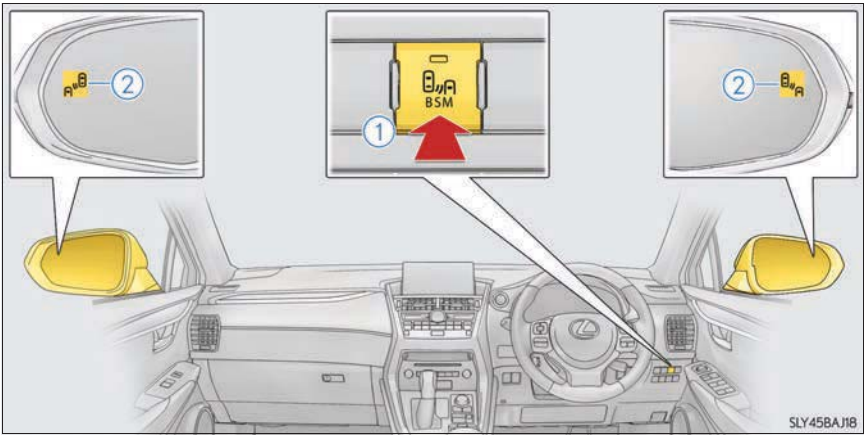
● 運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

レーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を知らせます。



① BSM メインスイッチ

押すごとに ON ／ OFF が切りかわり、ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

② BSM ドアミラーインジケーター

死角領域に車両を検知したときは、検知した側の BSM ドアミラーインジケーターが点灯します。

また、方向指示レバーを操作した際に死角領域に車両がいたときは、BSM ドアミラーインジケーターが点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

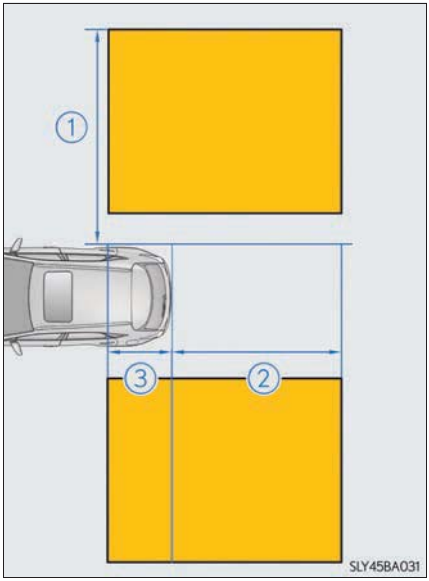
死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。

① 車両側面から外側に約 3.5m

車両側面から外側に約 0.5m は検知しません

② 車両後端から後方に約 3m

③ 車両後端から前方に約 1m



知識

■ ブラインドスポットモニターの作動条件

BSM メインスイッチが ON の状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●同じ車線を走行する後続車※

●2 つ隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

●次のような状況では有効に検知しないおそれがあります。
・ 大雨・霧・雪などの悪天候時
・ 氷雪・泥等がリヤバンパーに付着したとき
・ 水たまりなど濡れた路面を走行するとき
・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道を走行しているとき
・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・ 車線の幅が広く、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・ 自車線と隣車線の高さに差があるとき
・ BSM メインスイッチを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・ ガードレールや壁等との距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・ 後続車との車間距離が短いとき
・ 車線の幅が狭く、2 つ隣の車線を走行する他車が検知範囲に入ったとき
・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

■BSM ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、BSM ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→ P. 287）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障」が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。レクサス販売店にて点検を受けてください。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

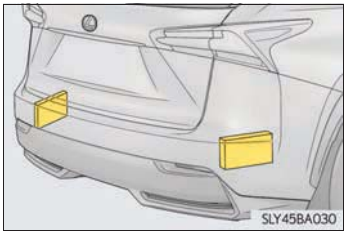
ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく



●センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない

●センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない

●センサーやセンサー周辺のバンパーを塗装しない

●センサーの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください

●本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 204-350006

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。(→ P. 267)

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 93)

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・エンジンオイル
・冷却水
・ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）※を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 461）

※ 225/60R18 タイヤには、タイヤチェーンを取り付けないでください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。
  パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→ P. 203)
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

警告

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車するとき

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明はP. 354を参照してください）

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■フロントウインドウガラス・パノラマルーフガラス★に付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 294

ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーター.....304

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 307

・フロント
インテリアランプ 308

・パーソナルランプ 308

・リヤインテリアランプ.....309

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧 310

・グローブボックス 311

・コンソールボックス 311

・カップホルダー／
ボトルホルダー 312

・サングラスホルダー 313

・カードホルダー 314

ラゲージルーム内装備.....315

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 321

・サンバイザー 321

・バニティミラー 321

・時計.....322

・アクセサリーソケット.....322

・アクセサリーコンセント
（100W タイプ）.....323

・アクセサリーコンセント
（1500W タイプ）.....325

・おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）.....331

・リヤアームレスト 337

・アシストグリップ 337

・コートフック 338

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの“MENU”ボタンを押して、“エアコン”を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

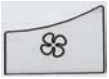
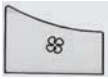
リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

エアコン操作スイッチについて

■ **温度を調整する**

設定温度を上げるときは を、下げるときは を押す

■ **風量を切りかえる**

風量を増やすときは  を、減らすときは  を押す

OFF スイッチを押すと、ファンがとまります。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ S-FLOW モード

フロント席への送風を優先させ、リヤ席への送風および空調の効きを抑えます。

を押す

S-FLOW モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度 を押すと、前のモードにもどります。

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 297）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る （→ P. 297）
- リヤウインドウの曇りやミラーの霜をとる（→ P. 298）

エアコン操作画面について

① 助手席側の温度を調整する

② 風量を切りかえる

③ 吹き出し口を切りかえる

④ 運転席側の温度を調整する

⑤ オプション操作画面を表示する（→ P. 296）

⑥ ファンを停止する

⑦ 吹き出し口と風量が自動的に調整される

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択し、タッチパッドを押すまたは、ダブルタップ（軽く２回たたく）で決定します。

■ オプション操作画面

エアコン操作画面で ••• を選択する。各機能の ON/OFF を切りかえることができます。

① 冷房・除湿する

② 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→ P. 297）

③ フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ★（→ P. 298）

④ 花粉を除去する（→ P. 298）

⑤「ナノイー」を作動する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す、またはエアコン操作画面で“AUTO”を選択する

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す、またはエアコン操作画面で“OFF”を選択する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの DUAL スイッチを押す
- オプション操作画面で“DUAL”を選択する
- 助手席側の温度調整スイッチで設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFF になります。

■ 花粉除去機能を使用するには

オプション操作画面で、 を選択する。

花粉除去モードが ON のとき、エアコン操作画面の が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

オプション操作画面で、 を選択する。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、エアコン操作画面の が点灯します。

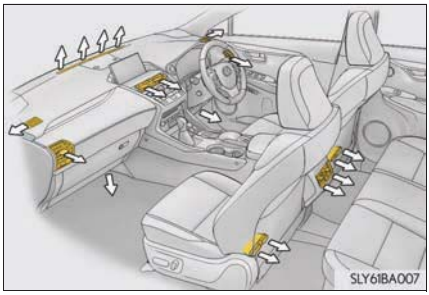
フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

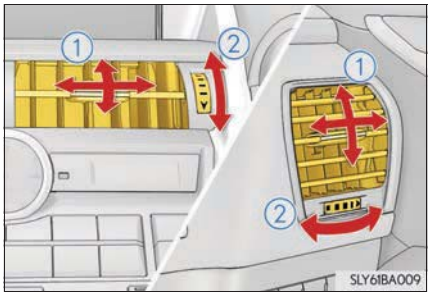
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

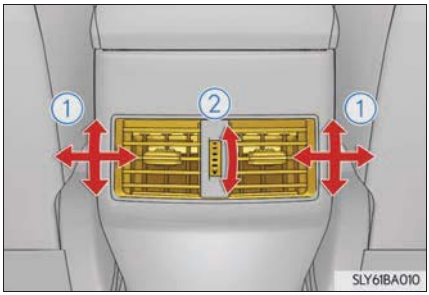


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



▶ リヤ



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■電子キーによるエアコン設定の記憶について（ドライビングポジションメモリー装着車）

●電子キーでドアを解錠してパワースイッチをONモードにすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。

●パワースイッチをOFFにすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。

●複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ ドライビングポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTOスイッチ（“AUTO”）をONにした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチ（“A/C”）をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●A/Cスイッチ（“A/C”）をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する。
・エコドライブモードを解除する。

■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は助手席左側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します※3。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹き出し口が 、 または のとき
・助手席左側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※3「ナノイー」が ON のとき。(→ P. 296)

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 365

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 468）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー★が作動しているとき

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントワイパーデアイサー装着車：フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

助手席左側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★ / シートベンチレーター★

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
・長時間連続使用しない
・毛布・クッションなどを使用しない

注意

●シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

●補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。

知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モード

■ **タイマー制御**

約 30 分後に自動で OFF になります。

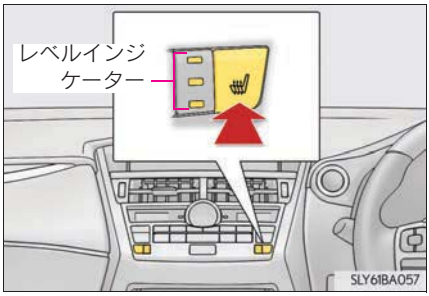
シートヒーター

▶ シートベンチレーター非装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄）が点灯します。

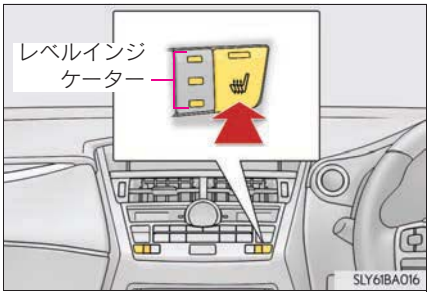


▶ シートベンチレーター装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーター（黄）と、レベルインジケーター（緑）が点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モード

シートベンチレーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

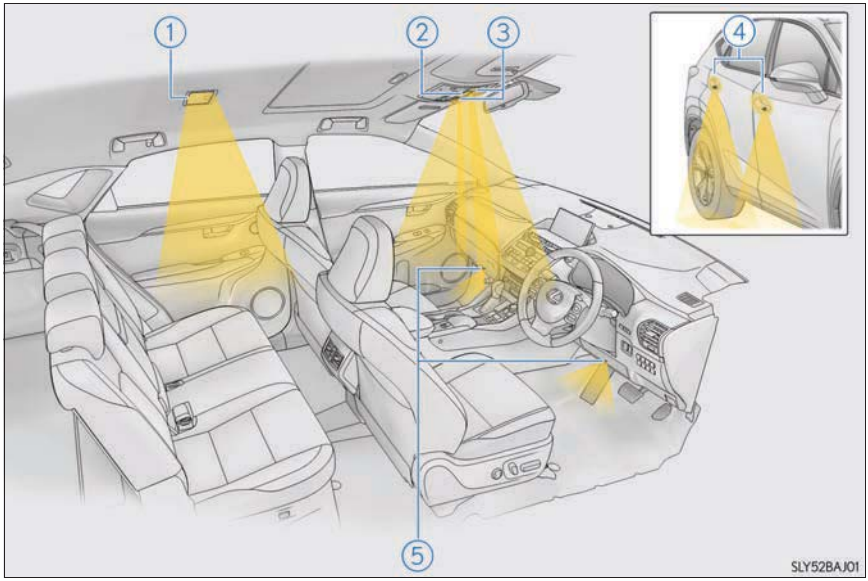
作動中は、スイッチ上のインジケーター（緑）と、レベルインジケーター（緑）が点灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モード

室内灯一覧



① リヤインテリアランプ（→ P. 309）

② フロントインテリアランプ（→ P. 308）

③ パーソナルランプ（→ P. 308）

④ アウトサイドドアハンドル照明

⑤ 足元照明※ 1, 2

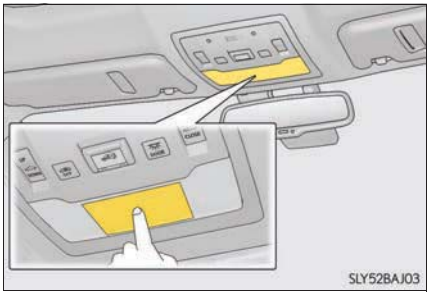
※ 1 パワースイッチが ON モードのとき、足元照明が常時点灯します。ただし、インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、足元照明が消灯します。（→ P. 92）

※ 2 シフトレバーが P 以外のとき、足元照明の明るさが暗くなります。

フロントインテリアランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

リヤインテリアランプが連動して点灯・消灯します。
ただし、リヤインテリアランプスイッチが押されている状態で、フロントインテリアランプを操作しても連動しません。

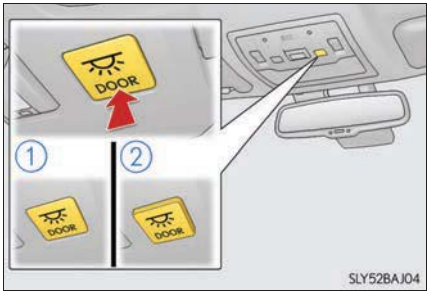


ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

① ドア連動 ON

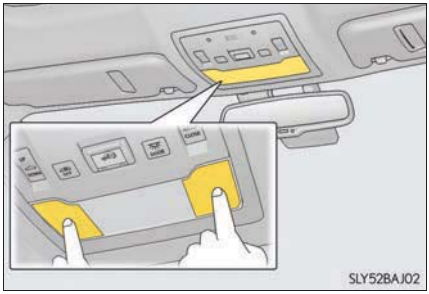
リヤインテリアランプもドアの開閉に連動して点灯・消灯します。

② ドア連動 OFF



パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



リヤインテリアランプ

ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動してリヤインテリアランプが点灯・消灯します。
フロントインテリアランプに連動して点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。

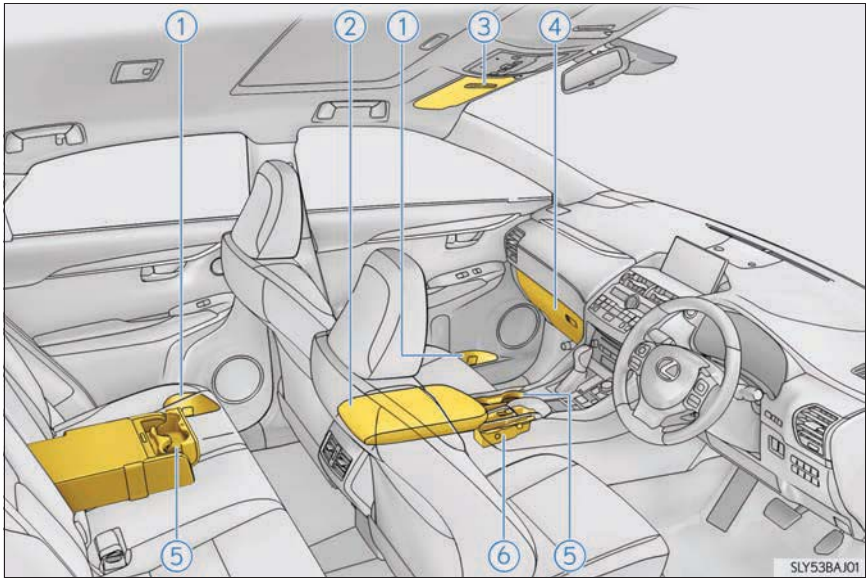
知識

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。
- 次の場合は、フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しないおそれがあります。
  - ・レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
  - ・濡れた手で操作したとき
  - ・手袋などを装着しているとき
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
  （カスタマイズ一覧：→ P. 466）

注意

- フロントインテリアランプとパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① ボトルホルダー（→ P. 312）
② コンソールボックス（→ P. 311）
③ カードホルダー（→ P. 314）
④ グローブボックス（→ P. 311）
⑤ カップホルダー（→ P. 312）
⑥ サングラスホルダー（→ P. 313）

警告

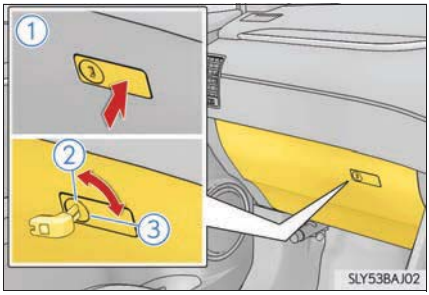
- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- グローブボックスまたはコンソールボックスを使わないときは、必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

① 開ける

② メカニカルキーで解錠

③ メカニカルキーで施錠

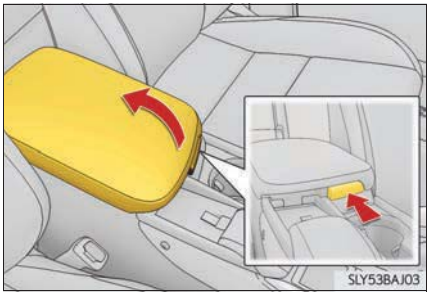


知識

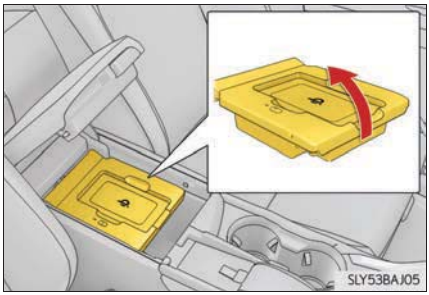
車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックス

1 ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

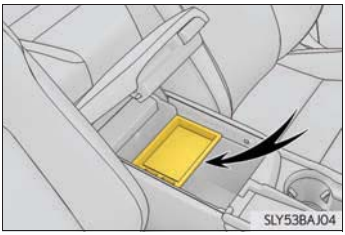


2 おくだけ充電（ワイヤレス充電器）装着車は、ワイヤレス充電器を持ち上げる



知識

●おくだけ充電（ワイヤレス充電器）非装着車：コンソールボックス内のトレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。

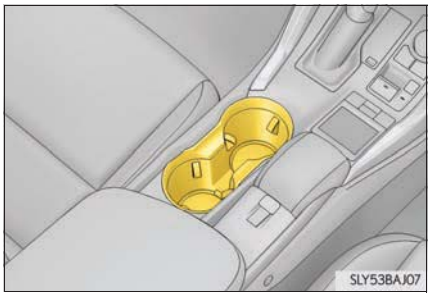


●車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

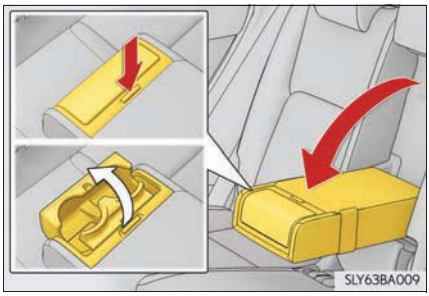
カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

▶ フロント



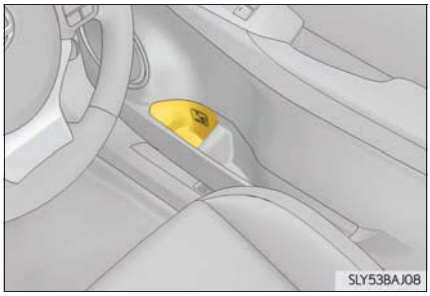
▶ リヤ



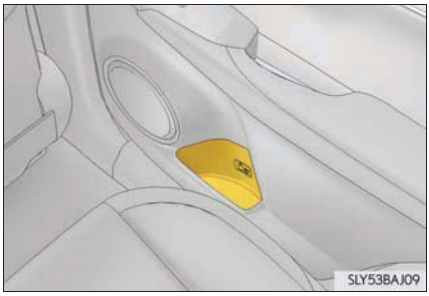
リヤアームレストを手前に倒し、ボタンを押す

■ ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

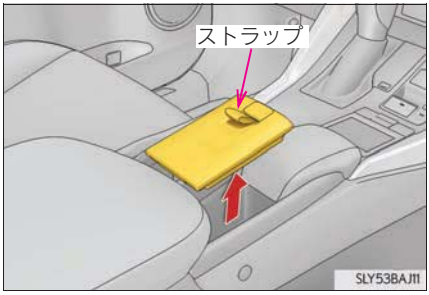
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

注意

- カップホルダーの破損を防ぐために、リヤシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

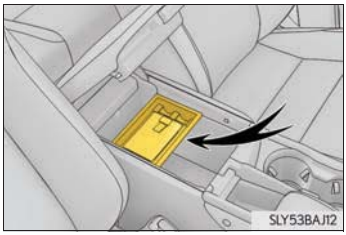
サングラスホルダー

ストラップを持ってフタを取りはずす



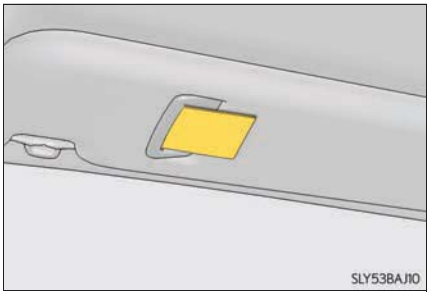
知識

●取りはずしたフタをコンソールボックス内のトレイに収納することができます。



●サングラスホルダーのフタの裏側をバニティミラーとして使用することができます。（→ P. 321）

カードホルダー

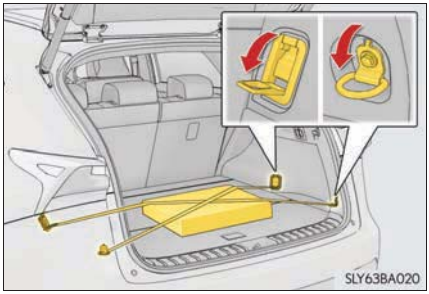


ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



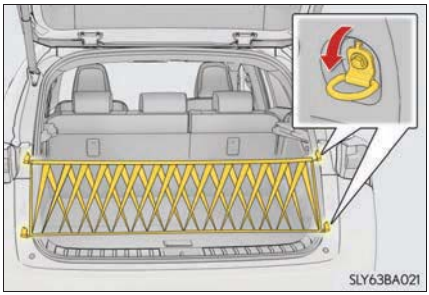
警告

フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフック

フックを起こして使用する

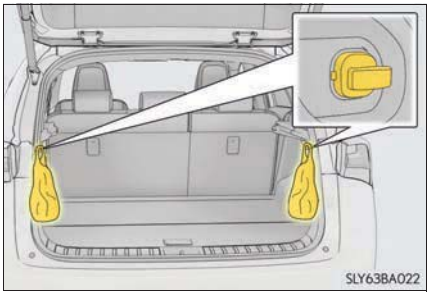
フックを使って積荷ネットをかけることができます。



警告

フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック



⚠ 注意

買い物フックの破損を防ぐために、5kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

デッキアンダートレイ

デッキボードを持ち上げてフックを固定し（→ P. 317）、以下のものを収納することができます。

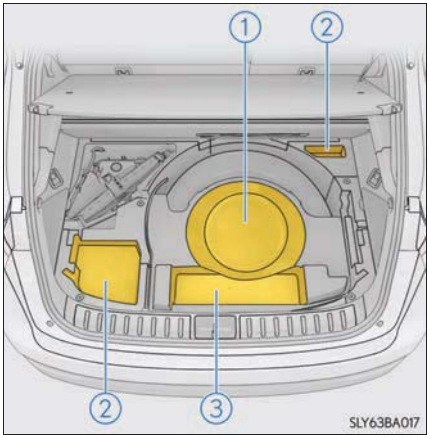
▶ 応急用タイヤ装着車

① 救急箱や小物など

② 小物など

③ 停止表示板※

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

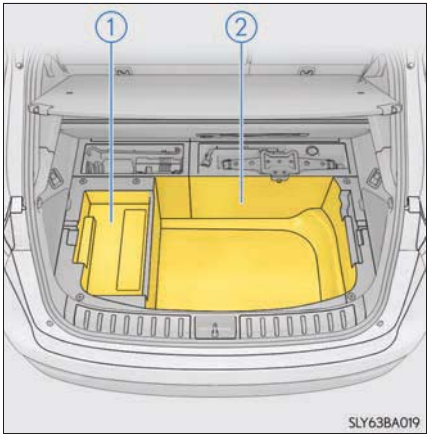


▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

① 停止表示板※や小物など

② 救急箱や小物など

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

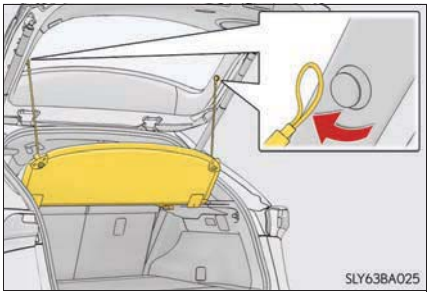


知識

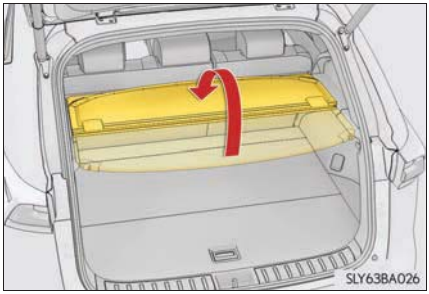
停止表示板等のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

デッキボード

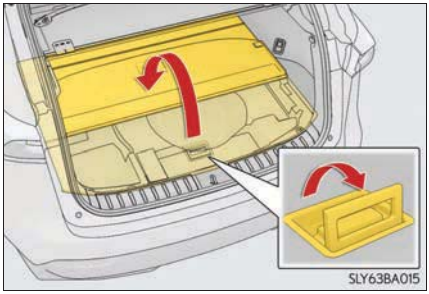
1 トノボードを装着しているとき:留めひもを左右のフックからはずす



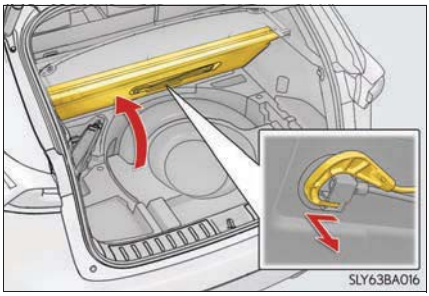
2 トノボードを装着しているとき:トノボードを折りたたむ



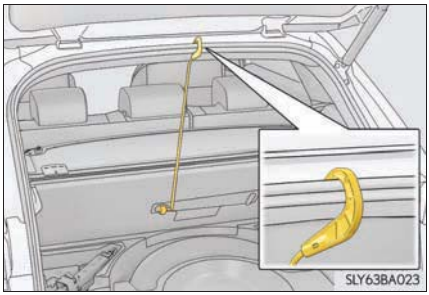
3 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ



4 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす

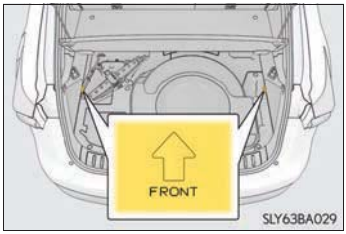


5 フックをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する



知識

サイドデッキボードを取り付けるときは、“↑ FRONT”マークが車両前側を指すように取り付けてください。

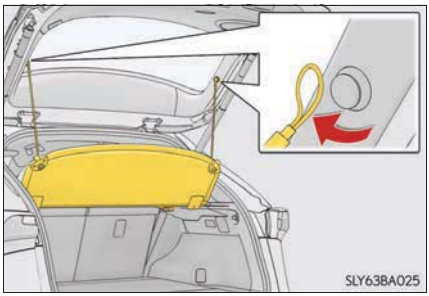


警告

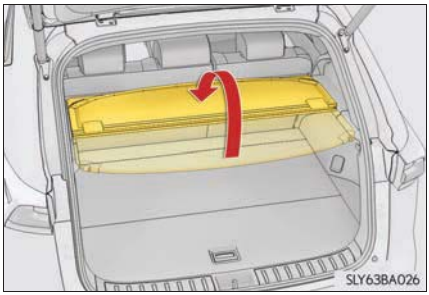
デッキボードを開けたり取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トノボードの収納

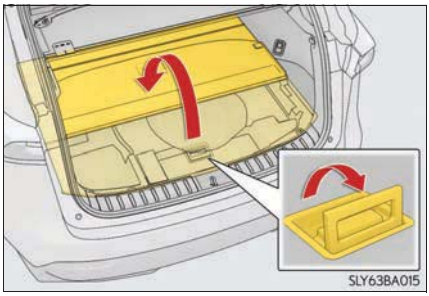
1 留めひもを左右のフックからはずす



2 トノボードを折りたたむ

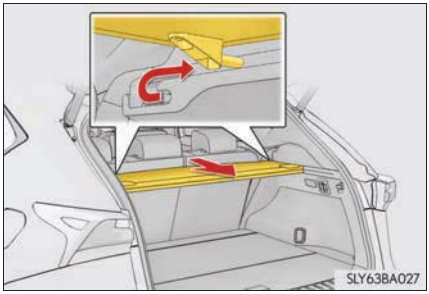


3 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ

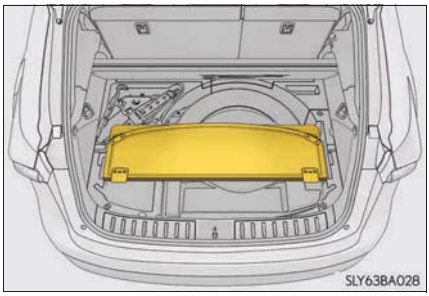


4 トノボードを取りはずす

リヤシートの背もたれをうしろに倒しているときは、背もたれを起こしてから取りはずしてください。(→ P. 144)



5 デッキボードを持ち上げながら、デッキアンダートレイに収納する



警告

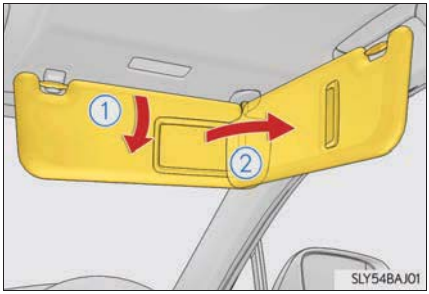
- トノボードの上には、荷物を積まないでください。急ブレーキや旋回時に、荷物が飛び出して乗員にあたるなどして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノボードの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノボードが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

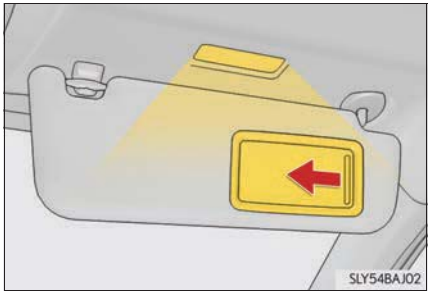
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

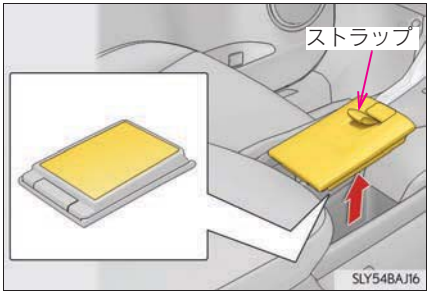
▶ サンバイザー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。

▶ サングラスホルダー



ストラップを持ってサングラスホルダーのフタを取りはずす

サングラスホルダーのフタの裏面にバニティミラーがあります。

知識

自動消灯：パワースイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

⚠注意

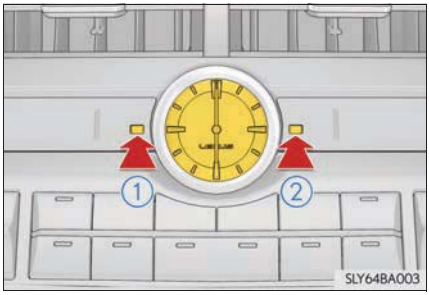
- バニティミラーの破損を防ぐために、サングラスホルダーのフタを取りはずしたときは、強い衝撃を与えたり、重いものなどを乗せないでください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

① 針をもどす

② 針を進める

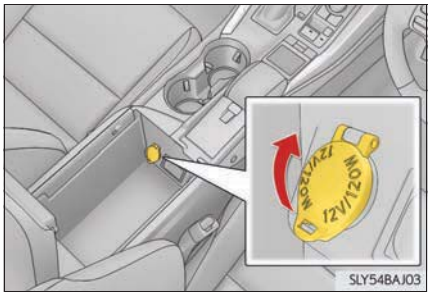


アクセサリーソケット

DC12 V ／ 10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

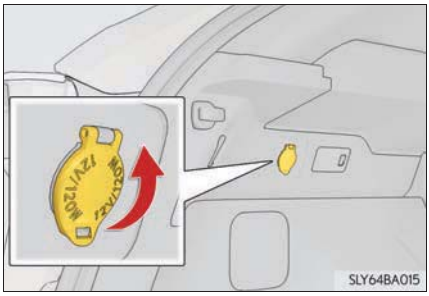
電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120 W 未満にしてください。

▶ コンソールボックス内



フタを開けて使用する

▶ ラゲージルーム内

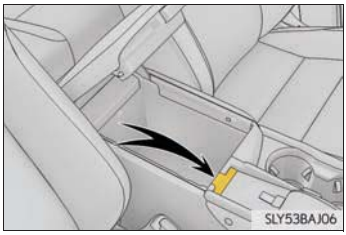


フタを開けて使用する

知識

●使用条件：パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

●コンソールボックスの溝に配線を通すことで、コンソールボックスを閉じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。



注意

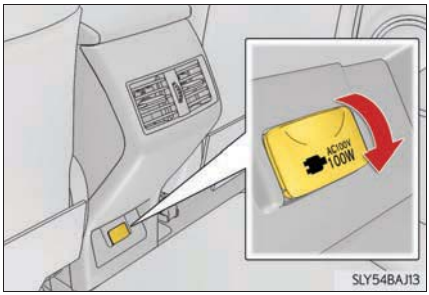
●ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント（100W タイプ）★

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■使用条件

パワースイッチが ON モードのとき

■正常に使用できないおそれのある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）のある機器

注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。
- ヒューズが切れるのを防ぐために、AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

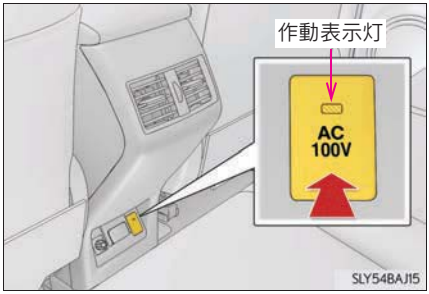
アクセサリーコンセント（1500W タイプ）★

AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

1 メインスイッチを押す

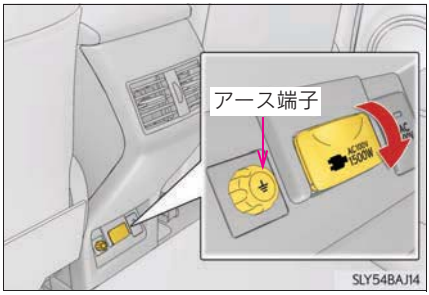
スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

スイッチを押すたびに電源の ON ／ OFF が切りかわります。



2 フタを開けて使用する

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線を接続してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するときは

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■使用しないときは

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

●AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。

●メインスイッチを ON にした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。

●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

●アクセサリーコンセントを使用中、ラゲージルームから冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時のピーク電力が高い電気製品

●精密なデータを処理する計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器や医療機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

●電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。

●電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 108）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。

●炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するときは

外気温が－ 15 ℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、レクサス販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

警告

■**駐車中または停車中に使用するときは**

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●必ずシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

●車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 67）

●状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近づいたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近づけないでください。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

●アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。
また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■**接続する電気製品について**

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
なお、次のような機器は使用しないでください。

●医療用機器
車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。

●計量器・計測器など
AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

注意

■ショートや故障を防ぐために

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

●AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。

●お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。

●アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。

●アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」、「Qi」マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

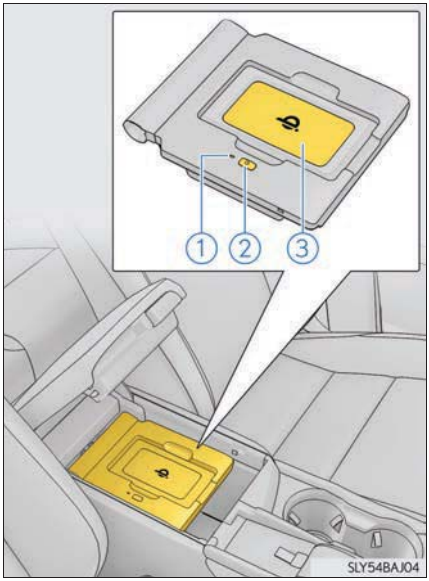
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 各部の名称

① 作動表示灯

② 電源スイッチ

③ 充電エリア



■ 充電する

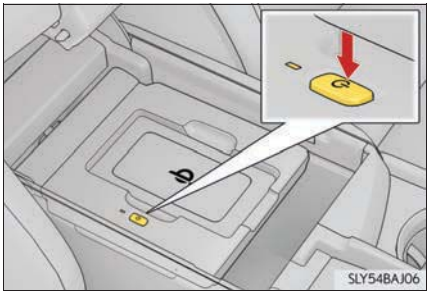
1 コンソールボックスのフタを開ける（→ P. 311）

2 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）は、ハイブリッドシステムのパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

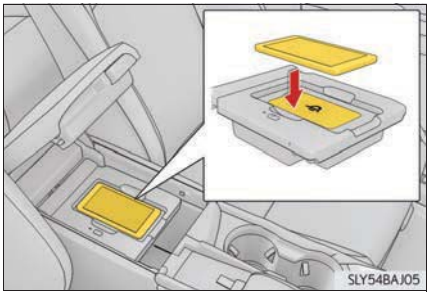


3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。



充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

・ 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
・ 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**車両とワイヤレス充電器の通信不良**	レクサス販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■使用条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電についての留意事項

●車室内で電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

警告

■**運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■**電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■**故障ややけどを防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

●充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない

●充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

●布などをかぶせて充電しない

●指定された携帯機器以外は充電しない

●分解や改造、取りはずしをしない

●強い力や衝撃をかけない

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電

●充電エリアと携帯機器の間に異物がある

●充電により、携帯機器の温度が高温になっている

●携帯機器の充電面を上にして置いた

●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレスト

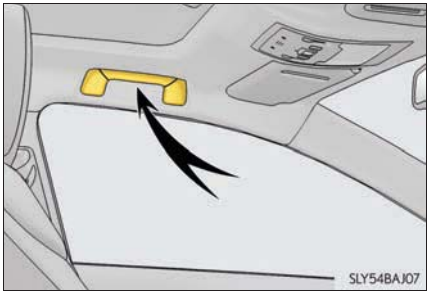
手前に倒して使用します。

注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

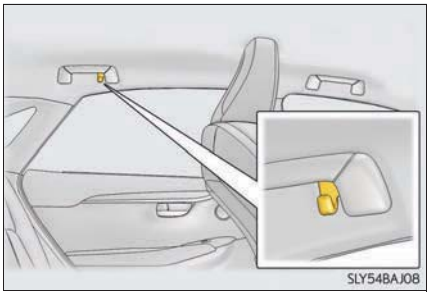
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しなでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 340
内装の手入れ 344

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 347
ガレージジャッキ 350
エンジンルームカバー.....352
ウォッシャー液の補充.....353
タイヤについて 354
タイヤ空気圧について.....363
エアコンフィルターの交換.....365
電子キーの電池交換.....367
ヒューズの点検、交換.....369
電球（バルブ）の交換.....373

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
  ・ドアミラーを格納する
  ・パワーバックドアを停止する

  走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 139）

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
・よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

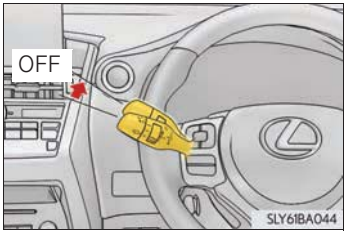
警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するときは**

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しくよごれたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→ P. 220）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5 % の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかなよごれを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてからよごれを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 74）駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 35）
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは
（LDA［レーンディパーチャーアラート］装着車）

白線認識用カメラ（→ P. 247）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、LDA の誤作動や故障につながるおそれがあります。

■フロントウインドウガラス・リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

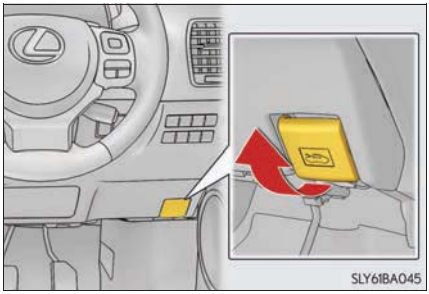
ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

ボンネット

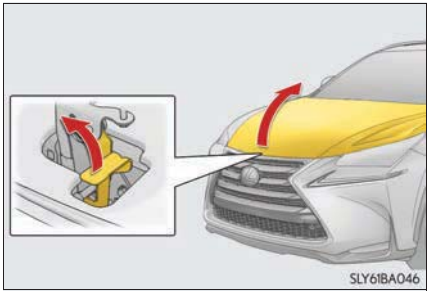
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げてボンネットを開ける

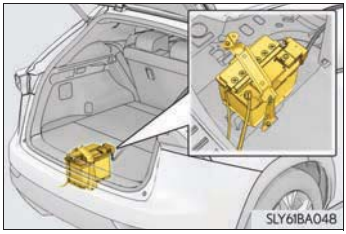


知識

■ **補機バッテリーについて**

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 445）



警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**修理・車検・整備点検をする場合は**

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ボンネットを開けるときは**

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

→ P. 449

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

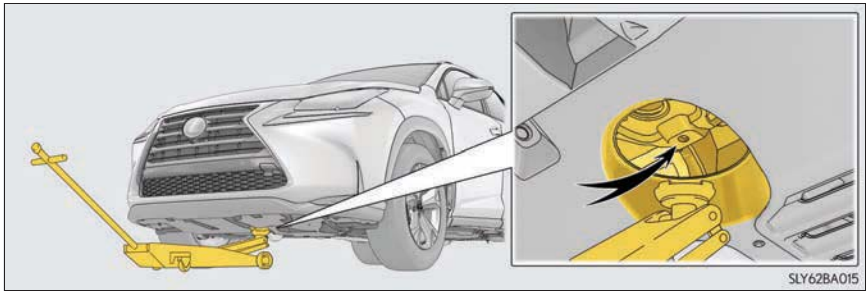
●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側

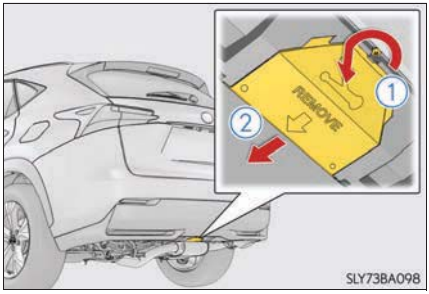


◆ リヤ側

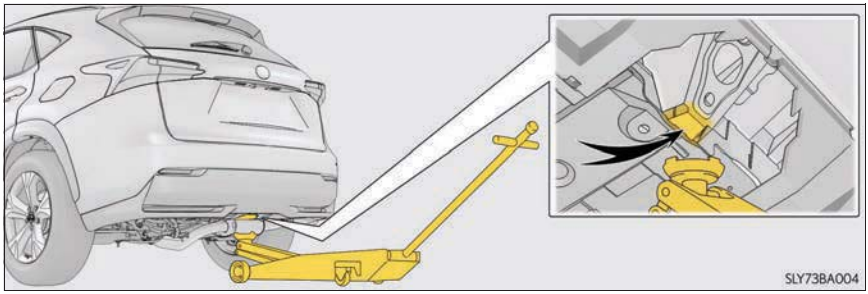
1 ガレージジャッキを使用する前に：カバーを取りはずす

① ネジをはずす

② カバーを取りはずす



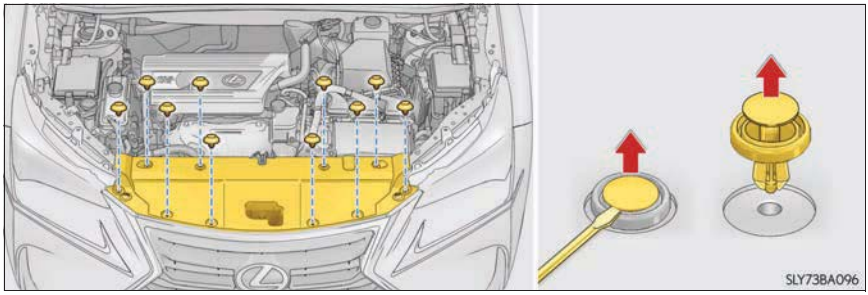
2 ガレージジャッキで車両を持ち上げる



エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

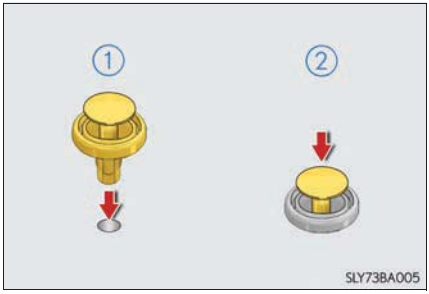
エンジンルームカバーの取りはずし方



クリップの取り付け方

① 挿し込む

② クリップ中央部分を押す



警告

■**けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

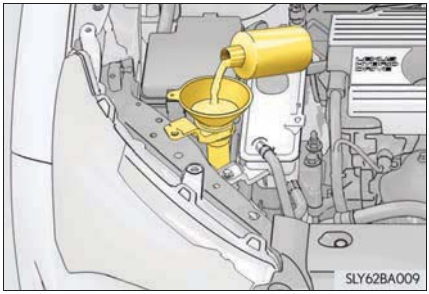
■**エンジンルームカバー取り付け後の確認**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■**ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

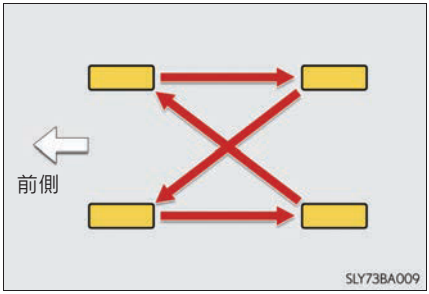
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、警告灯で警報します。（→ P. 403）

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。★

◆ 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。バルブ／送信機を装着するには、次の 3 つの方法があります。

● もとのホイールからバルブ／送信機をはずし、新しいホイールに付けかえる

● ホイールはバルブ／送信機が付いたままもとのものを使い、タイヤだけを交換する

● ホイールとバルブ／送信機共に新しいものにかける

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。（→ P. 357）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

次のときは初期化操作を行ってください。

- タイヤローテーションを実施したとき
- タイヤ空気圧を調整したとき
- バルブ／送信機を交換したとき
- タイヤを交換したとき

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、ハイブリッドシステムを停止する

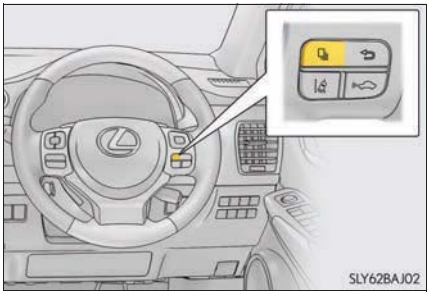
車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 358, 461）

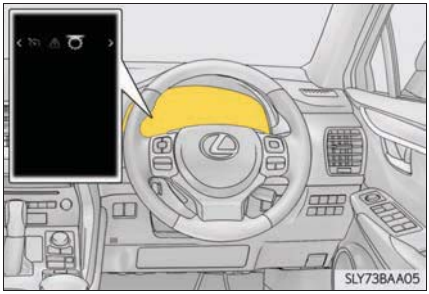
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 パワースイッチを ON モードにする

4 メーター操作スイッチの を押す

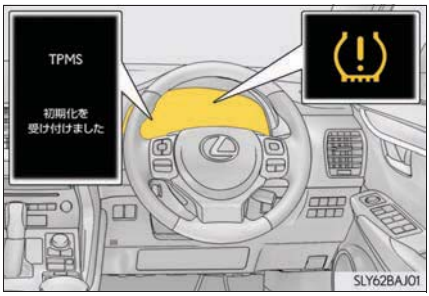


5 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択し、 を押す



6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、TPMS 画面を選択し を長押しする

7 ディスプレイにインジケーターとメッセージが表示され初期化が完了します



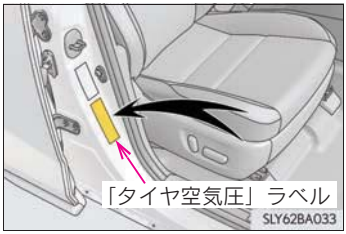
◆ ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。
ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



▶225/65R17 102H

前輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※
後輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

▶225/60R18 100H

前輪：220kPa（2.2kg/cm^2）※
後輪：220kPa（2.2kg/cm^2）※

▶235/55R18 100V

前輪：220kPa（2.2kg/cm^2）※
後輪：220kPa（2.2kg/cm^2）※

▶応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 20 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤローテーションを行うとき（タイヤ空気圧表示機能装着車）

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。
誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ/送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

●スイッチ操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）

●初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。
ID コードの切りかえについては、レクサス販売店にご相談ください。

⚠警告

■点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マット＆スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- ●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

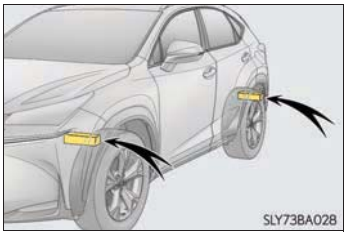
亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

警告

■**電波がおよぼす影響についての警告**
（タイヤ空気圧表示機能装着車）



●植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約 45 ㎝ 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型徐細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。**（→ P. 461）**

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

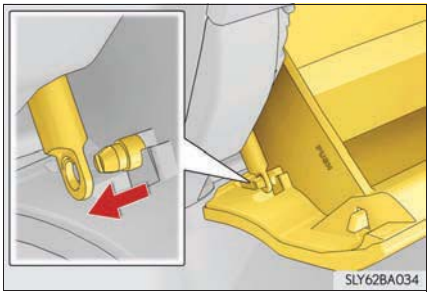
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

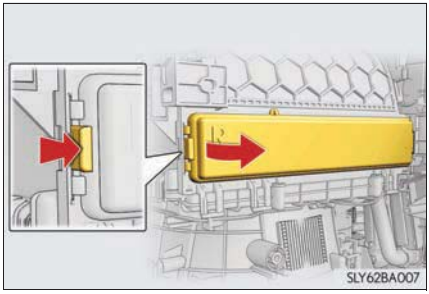
1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



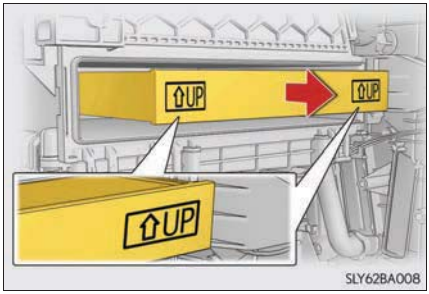
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

4 フィルターカバーを取りはずす



5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。
15,000km [7,500km ※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

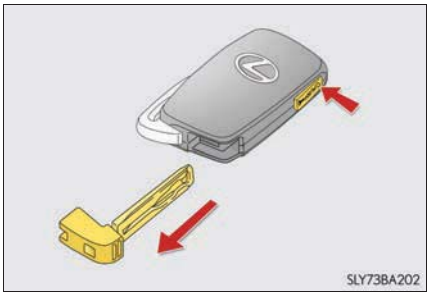
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

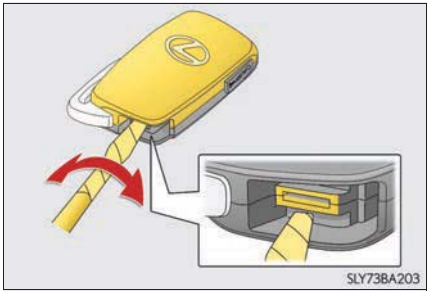
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



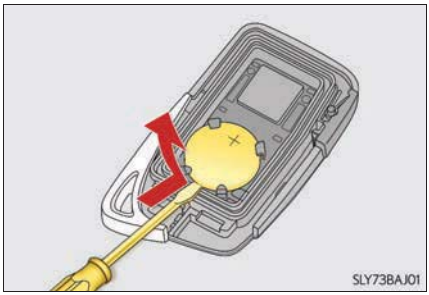
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



知識

■リチウム CR2032 電池の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

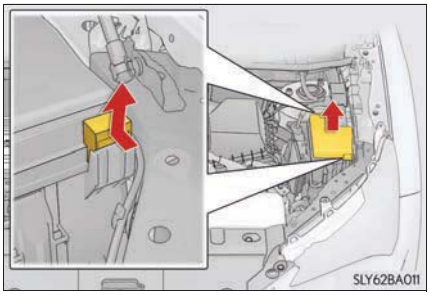
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

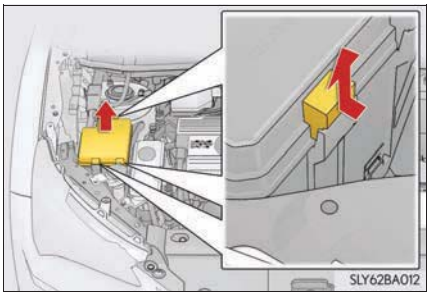
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

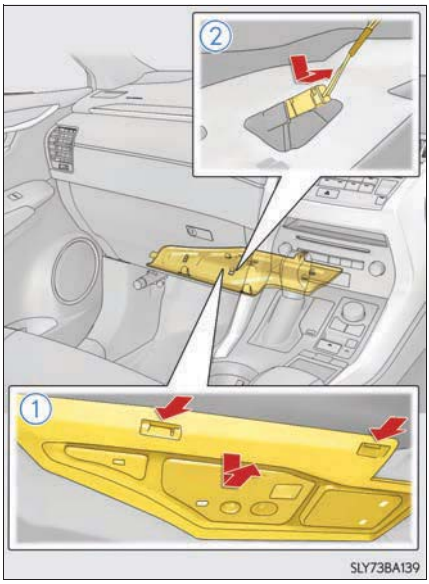
ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる



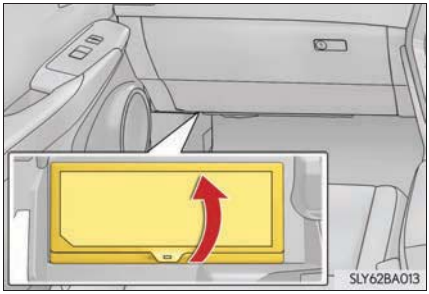
▶ 助手席足元

① 足元のカバーをはずす

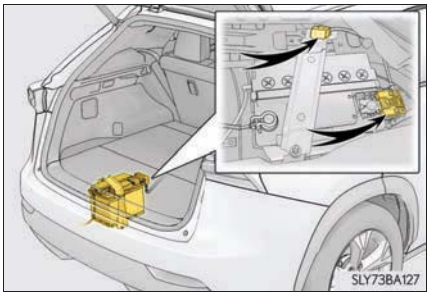
② 足元照明のコネクターをはずす



ヒューズボックスカバーを取りはずす

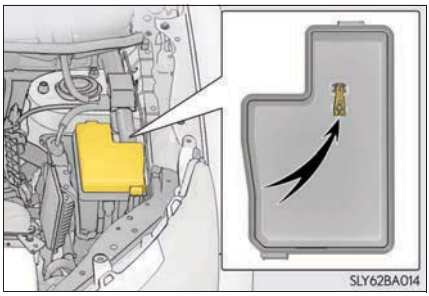


▶ ラゲージルーム



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

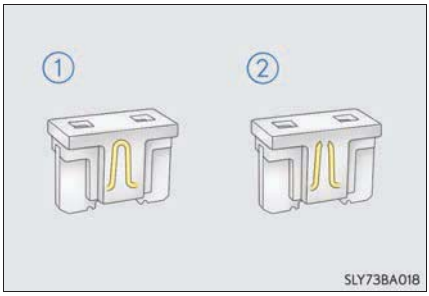


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ **ヒューズを交換したあと**

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 373)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると**

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ **バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は**

パワーウインドウの初期化が必要です。(→ P. 167)

■ **電球（バルブ）を交換するときは**

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→ P. 461）

エンジンルームカバーの取りはずし

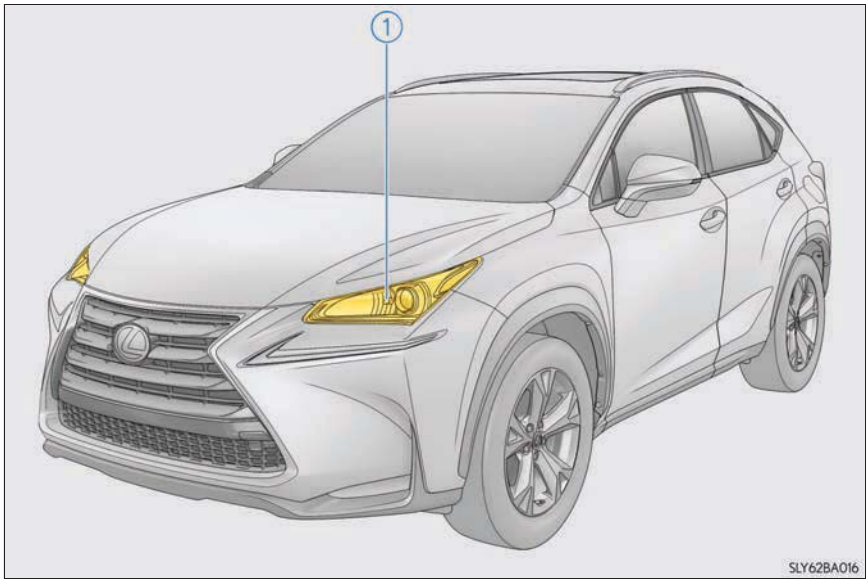
→ P. 352

パワーバックドア★の作動停止

→ P. 128

バルブ位置

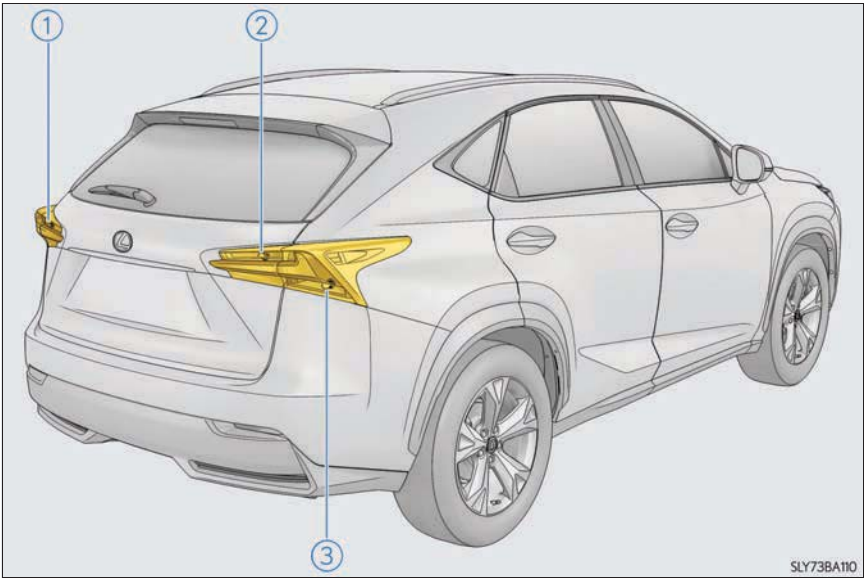
■ フロント



① ヘッドランプハイビーム（三眼フルLEDヘッドランプ非装着車）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤ



① 後退灯

② 後退灯★

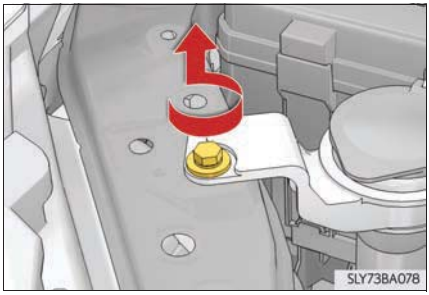
③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

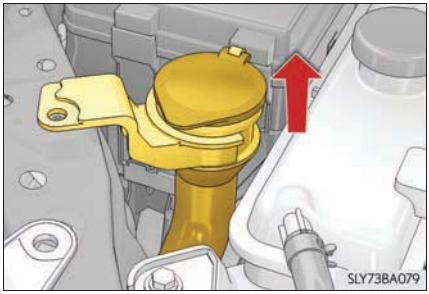
電球交換のしかた

■ ヘッドランプハイビーム（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

1 運転席側：
電球を交換する前にボルトをはずし、ウォッシャー液補給口をずらします。

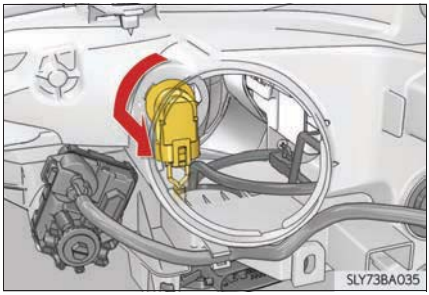


作業が難しい場合、ウォッシャー液補給口を取りはずす

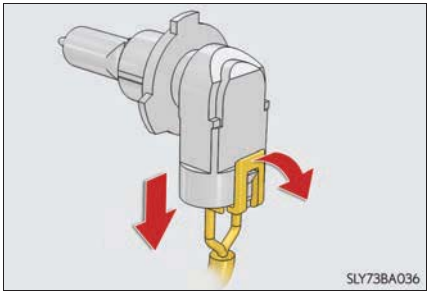


2 カバーを回して取りはずす

3 電球を取りはずす

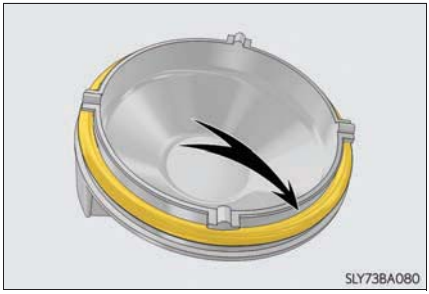


4 コネクターを取りはずす

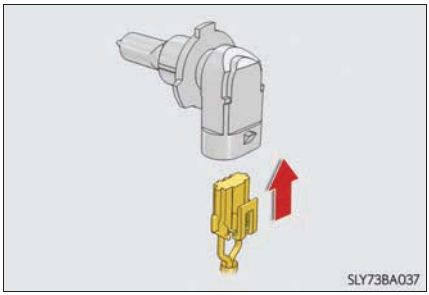


5 カバーの O リングがはずれていないことを確認する

O リングがはずれている場合は、正しい位置に取り付ける。

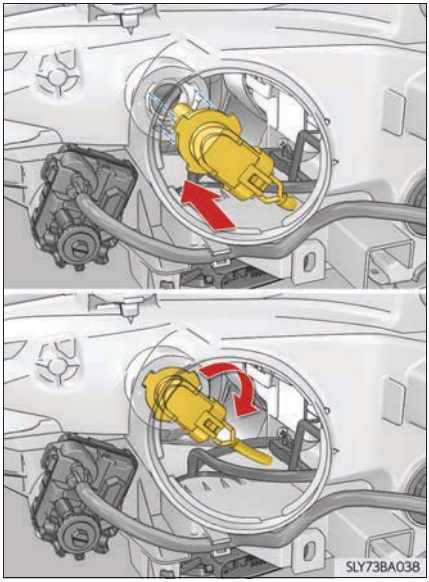


6 電球を交換し、コネクターを取り付ける



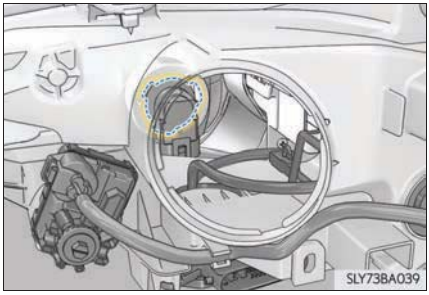
7 ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込み、右に回して固定する。



8 取り付けを確認する

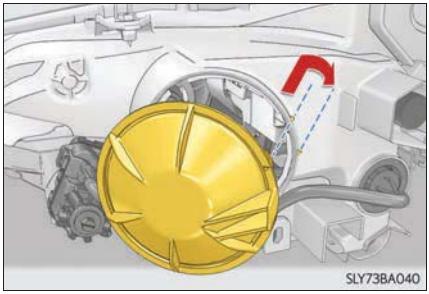
コネクターを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光が漏れていないことを目視確認してください。



9 カバーを回して取り付ける

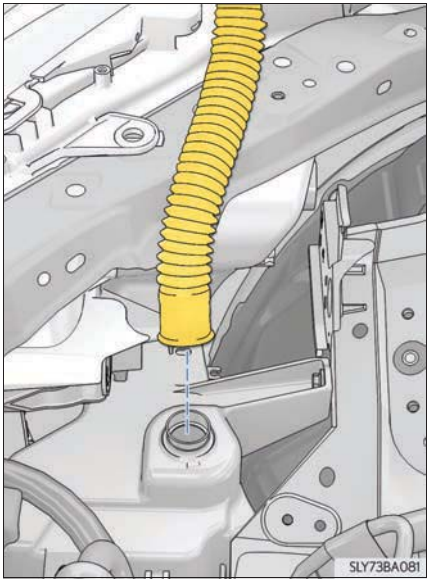
カバーとランプ本体のマークを合わせて、挿し込み回します。

取り付けマークはランプ本体の外側にあります。



10 運転席側：ウォッシャー液補給口を取りはずしたとき
ウォッシャー液補給口を取り付ける

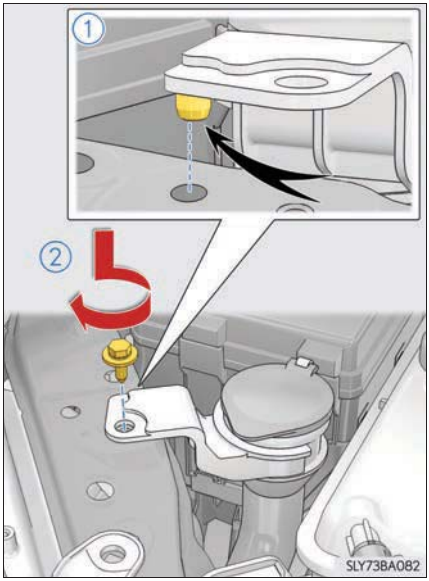
ウォッシャータンクとウォッシャー液補給口の位置を合わせる。



11 ウォッシャー液補給口を固定する

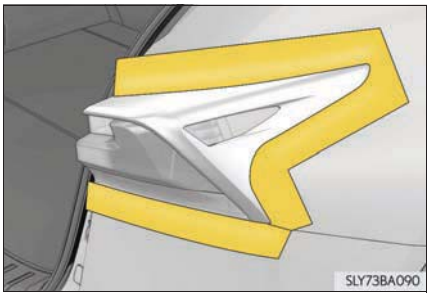
① ツメの位置を合わせてウォッシャー液補給口を取り付ける

② ボルトで固定する



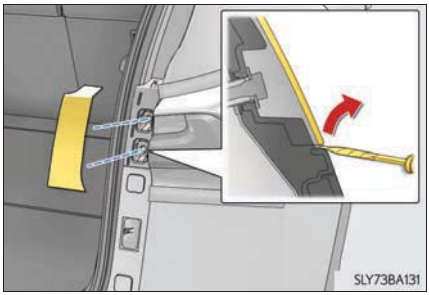
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

1 バックドアを開け、ランプ本体の周りに保護テープを貼る

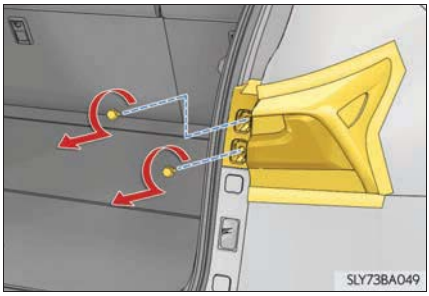


2 カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護することをおすすめします。



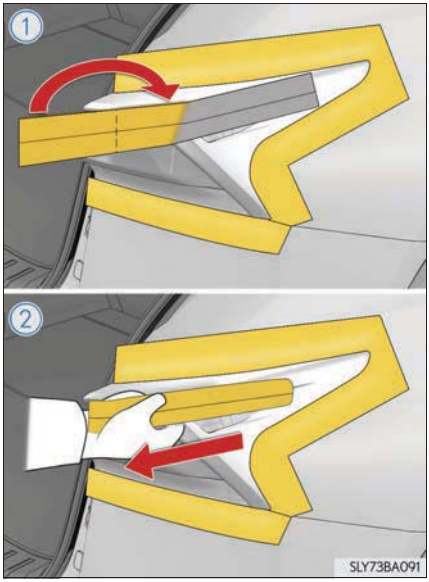
3 ボルト（2 本）を取りはずす



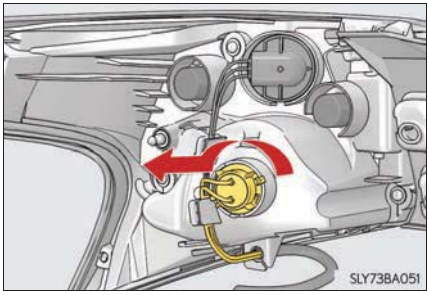
4 ランプ本体を取りはずす

① 長めのガムテープを2本貼り、はみ出した部分を半分に折る

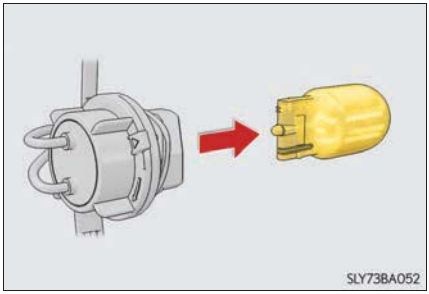
② 半分に折った部分を持ち、レンズを後方に引いて取りはずす



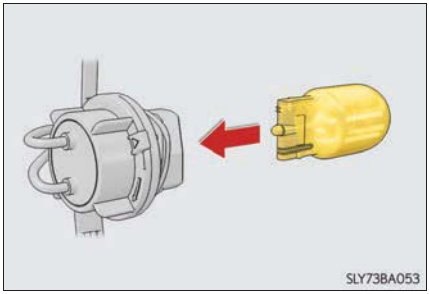
5 ソケットを取りはずす



6 電球を取りはずす

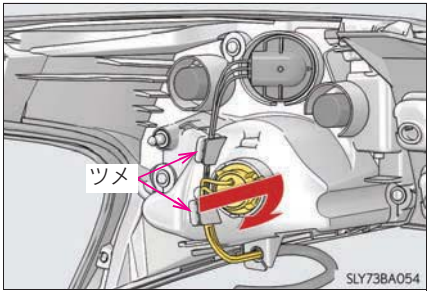


7 電球を交換する



8 ソケットを取り付ける

コードがツメに固定されていることを確認する。

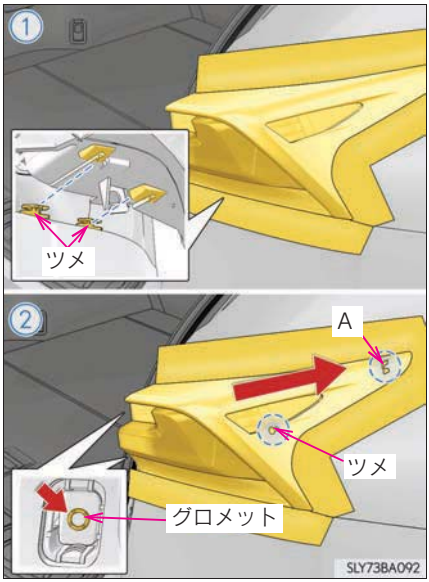


9 ランプ本体を取り付ける

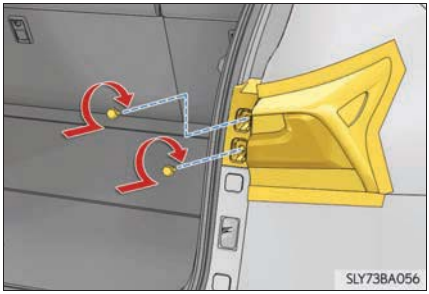
① ランプ本体とリヤバンパーのツメを合わせる

② A 部を押しながらランプ本体を前方に押し込む

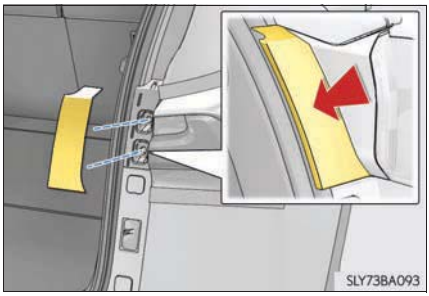
ランプ本体のボルト取り付け穴にグロメットが収まっていることを確認する。



10 ボルト（2 本）を取り付ける



11 カバーを取り付ける



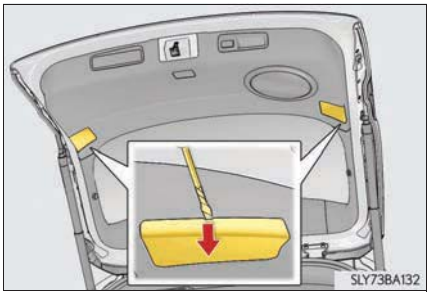
12 保護テープを取りはずす

■ 後退灯

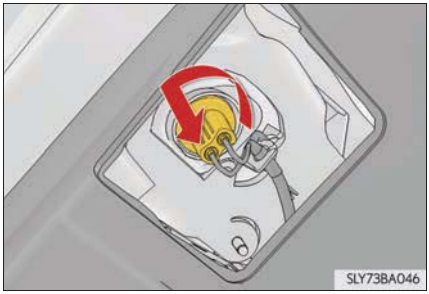
1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

カバーの切り欠きを下に押し下げてカバーを取りはずす。

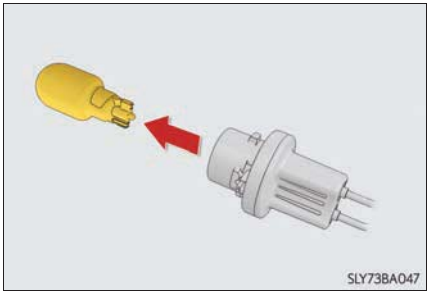
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護することをおすすめします。



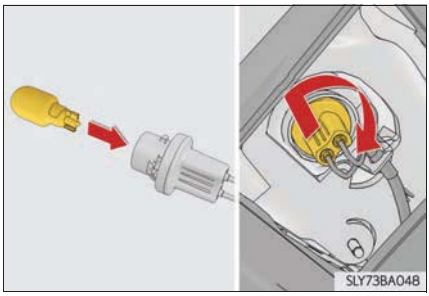
2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす

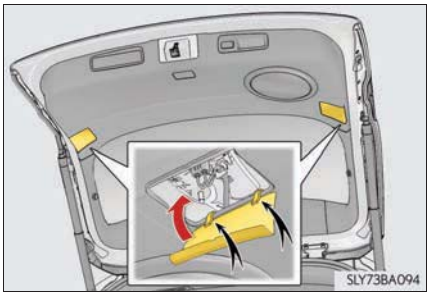


4 電球を交換しソケットを取り付ける



5 バックドアのカバーを取り付ける

カバーのツメ（2ヶ所）を合わせて取り付ける。



■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム
- ヘッドランプハイビーム（三眼フル LED ヘッドランプ装着車）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ／コーナーリングランプ
- リヤフォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- アウトサイドドアハンドル照明

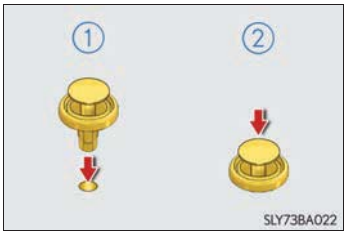
知識

■電球を交換したあとは

エンジンルームカバーを取りはずした場合は、カバーをクリップでもとどおりに取り付けてください。

① 入れる

② 押す



■LED ランプについて

ヘッドランプロービーム・ヘッドランプハイビーム（三眼フル LED ヘッドランプ装着車）・車幅灯／ LED デイライト・フロント方向指示灯／非常点滅灯・フロントフォグランプ／コーナーリングランプ・リヤフォグランプ・サイド方向指示灯／非常点滅灯・尾灯・制動灯／ハイマウントストップランプ／番号灯／アウトサイドドアハンドル照明は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するときは

→ P. 371

警告

■電球を交換するときは

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 388

非常点滅灯
（ハザードランプ）.....389

発炎筒 390

車両を緊急停止するには.....392

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 393

警告灯がついたときは.....401

警告メッセージが表示された
ときは.....406

パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....411

パンクしたときは（タイヤパンク
応急修理キット装着車）.....423

ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....438

シフトレバーが
シフトできないときは.....440

電子キーが正常に
働かないときは 441

補機バッテリーが
あがったときは 445

オーバーヒートしたときは.....451

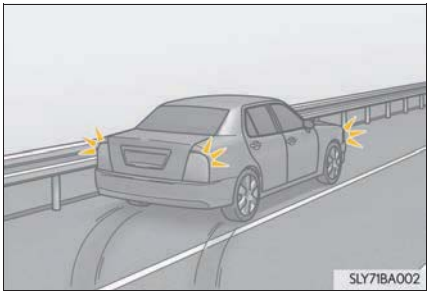
スタックしたときは.....455

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 389）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



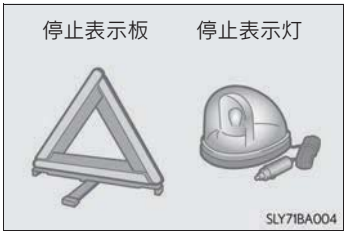
高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 390）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■**停止表示板・停止表示灯について**

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板･停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

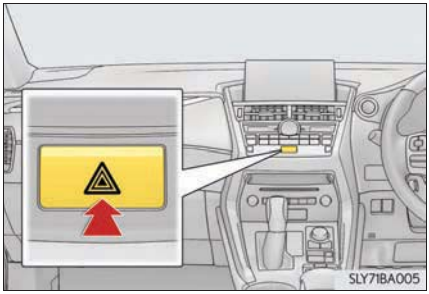


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

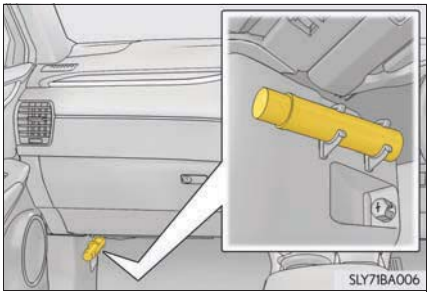
■ **非常点滅灯について**

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

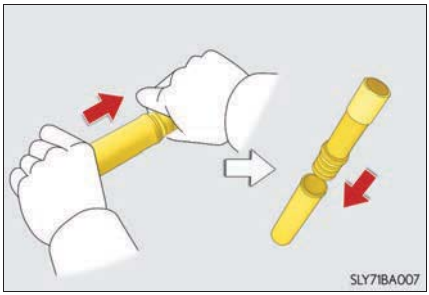
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

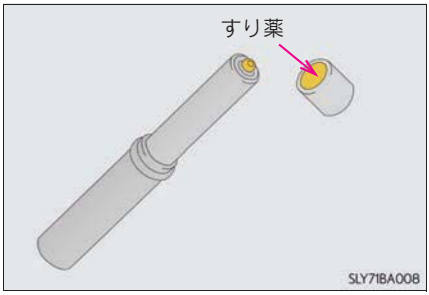


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ **走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

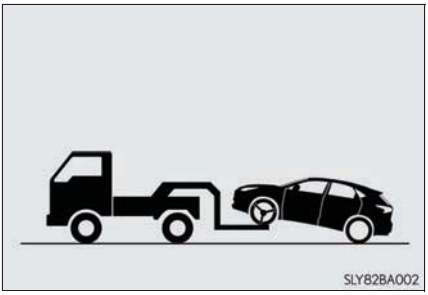
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステム警告メッセージが表示され、車が動かない（→ P. 398）
- 異常な音がする（→ P. 398）

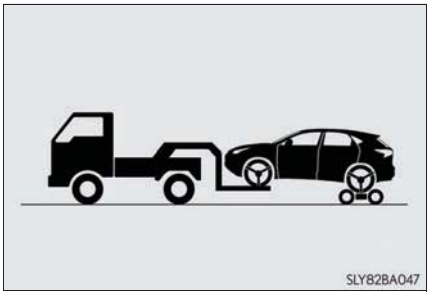
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは
FF（前輪駆動）



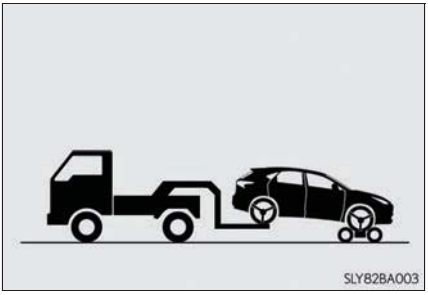
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは
AWD（4 輪駆動）



台車を使用して後輪を持ち上げる

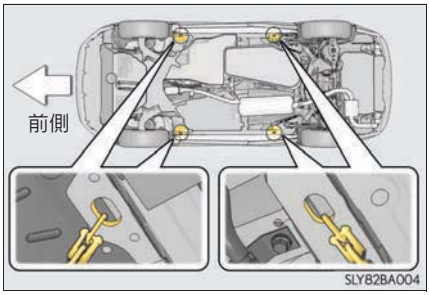
▶ うしろ向きにけん引するときは



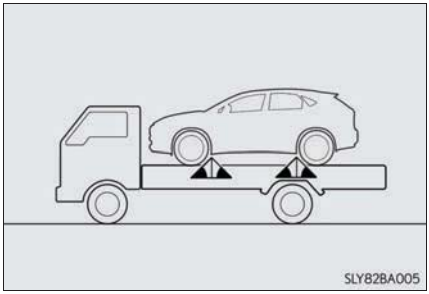
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

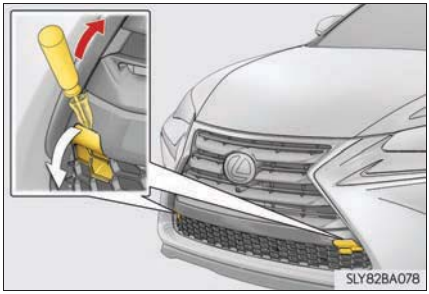


他車にけん引してもらうとき

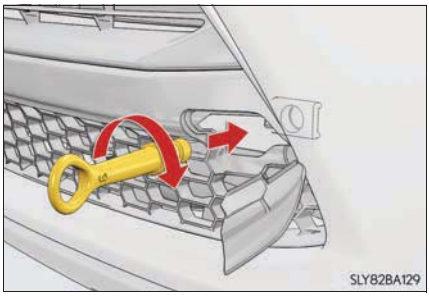
1 けん引フックを取り出す（→ P. 412, 424）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

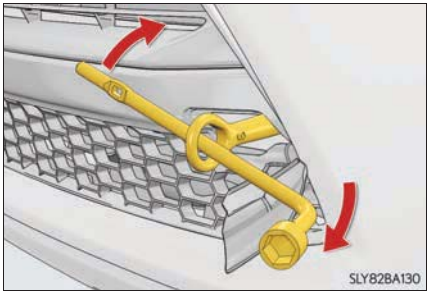
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

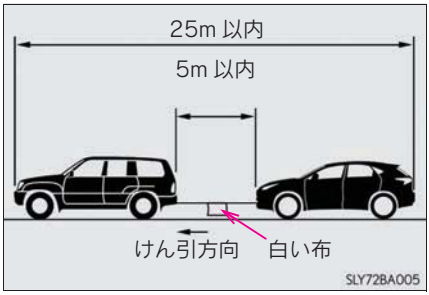


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 440

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうとき

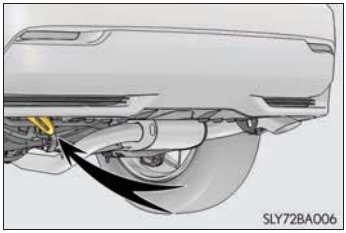
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→ P. 412, 424)

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



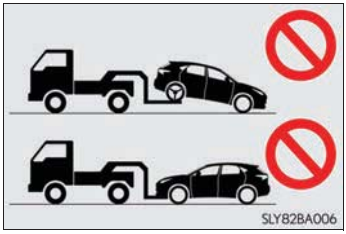
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **レッカー車でけん引するとき**

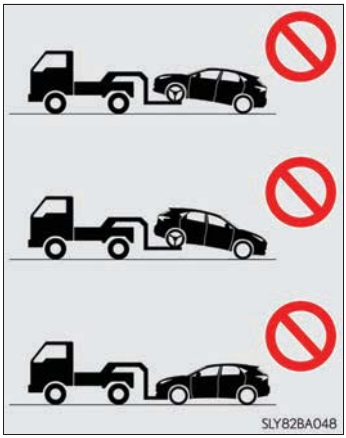
▶ FF（前輪駆動）

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ AWD（4 輪駆動）

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



警告

■**他車にけん引してもらうときの運転について**

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パワースイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがおります。

■**けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■**レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

■**車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■**駆動系部品の損傷を防ぐために**

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 5km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF［前輪駆動］）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯 ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
※1 	**充電警告灯** 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
※1 	**油圧警告灯（警告ブザー）** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
※1 	**高水温警告灯（警告ブザー）** エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法（→ P. 451）**
	ブレーキ警告灯 ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
（点滅）	**PCS 警告灯★** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・ TRC と VSC システムを OFF にすると点灯します。（→ P. 272） ・ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にすると点灯します。（→ P. 278） ・ システムが一時的に使用できないときに点滅します。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ABS・VSC・TRC システム作動時は点滅します。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
（点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯** ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
（点滅）	**パーキングブレーキ表示灯** パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 8.4L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 406
	タイヤ空気圧警告灯 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・ 自然要因（→ P. 404） ・ タイヤのパンク（→ P. 411, 423） **→ 指定された空気圧に調整してください。 調整して数分後に警告灯が消灯します。 空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。**
※1 	**ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯** ・ ブレーキオーバーライドシステム作動時 ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常（警報ブザー） ・ ドライブスタートコントロール作動時（警報ブザー） ・ ドライブスタートコントロールの異常（警報ブザー） **→ 表示された画面の指示に従ってください。**

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 359

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はスペアタイヤに交換するかタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

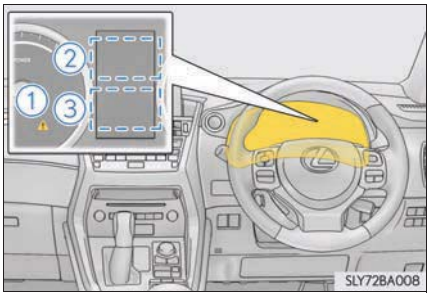
●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→ P. 356）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	―	あり	**走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。**
―	点灯または点滅	あり	**表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。**
点滅	―	あり	**車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。**
点灯	―	なし	**電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。**
点滅	―	なし	**車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。**

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●ABS の異常
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 402）

●充電系統の異常
充電警告灯が点灯します。（→ P. 401）

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。
対処方法 → P. 451

■「ハイブリッドバッテリ冷却性能低下」が表示されたときは

フィルターの目づまり、冷却用の吸入口またはダクトがふさがれているなどが考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリ（始動用）充電不足」が表示されたときは

●数秒後※に表示が消えたときは
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは
「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 445）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「ハイブリッド充電量低下 N レンジ以外にすると充電されます」が表示されたとき

駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。
シフトレバーが N では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■「ハイブリッド充電量低下のためシステム停止 P レンジにして再始動」が表示されたとき

長時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。
車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。
駐車時は P にしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください」が表示されたとき

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。
アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。
そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。
アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
・「エンジン冷却水高温」（→ P. 451）
・「補機バッテリ（始動用）充電不足」（→ P. 408）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリ系故障」
・「アクセル系故障」
・「故障のためブレーキ力が低下」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障」

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・「エンジン油圧不足」
・「充電システム故障」

■警告ブザーについて

→ P. 404

注意

■「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中」がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリ（始動用）充電不足」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 354 を参照してください）

警告

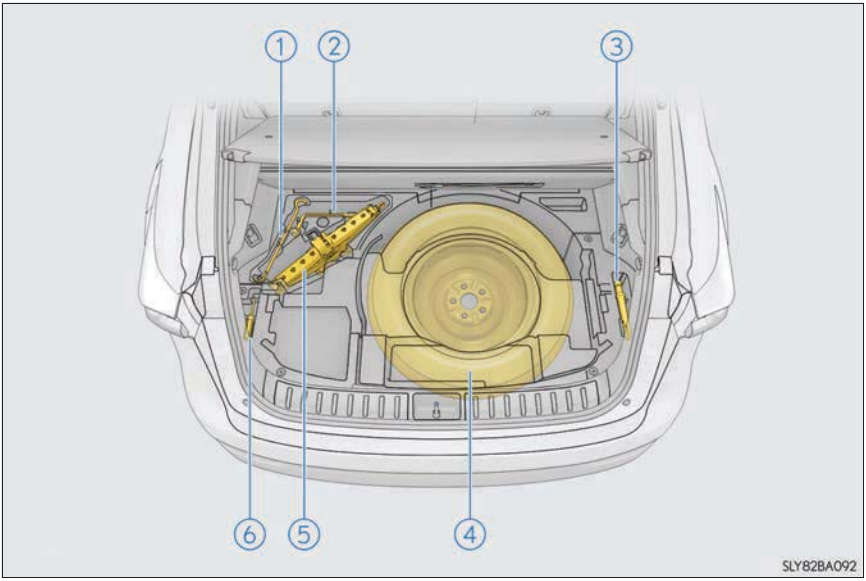
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 389）

工具とジャッキ位置



① ジャッキハンドル
② ホイールナットレンチ
③ けん引フック
④ 応急用タイヤ
⑤ ジャッキ
⑥ ドライバー

警告

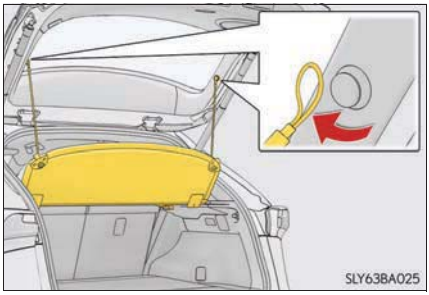
■ **ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

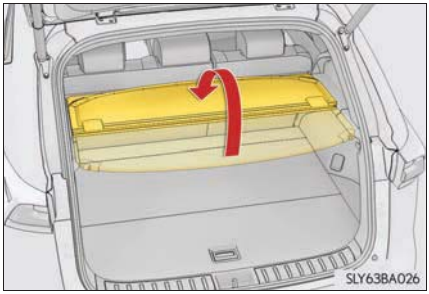
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

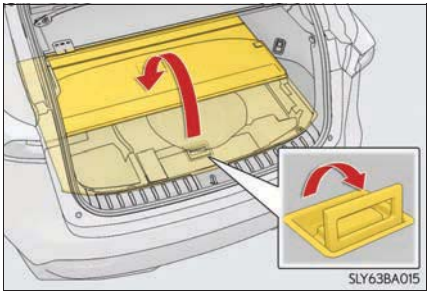
1 トノボードを装着しているとき：留めひもを左右のフックからはずす



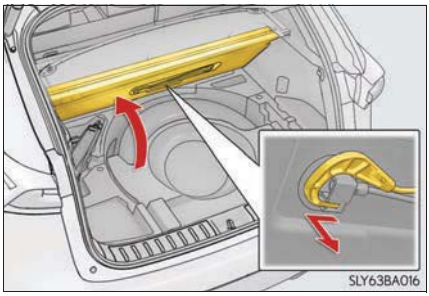
2 トノボードを装着しているとき：トノボードを折りたたむ



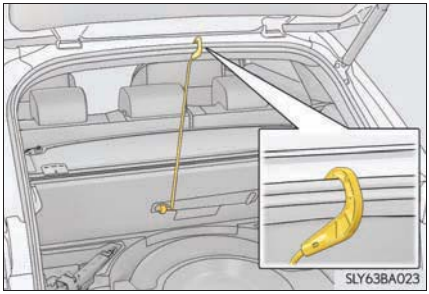
3 レバーを持ち上げデッキボードを半分に折りたたむ



4 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



5 フックをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する

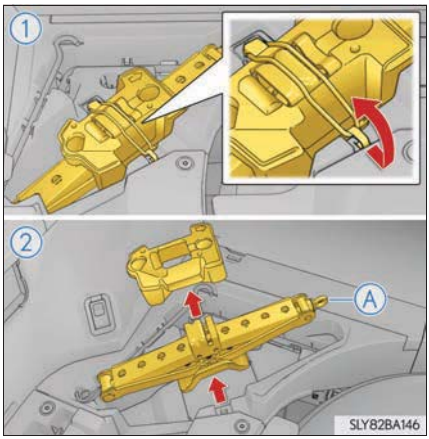


6 ジャッキを取りはずす

① ゴムバンドをはずす

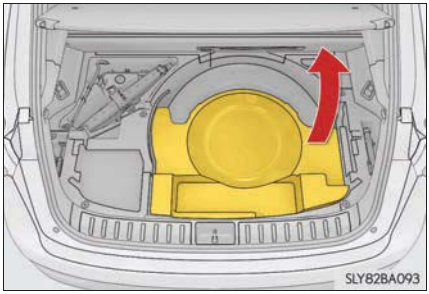
② カバーを取りはずし、ジャッキを取り出す

ジャッキを収納するときは、ジャッキのⒶ部を回して動かなくなるまで縮めたあと、カバーを押し込んでからゴムバンドで固定する。

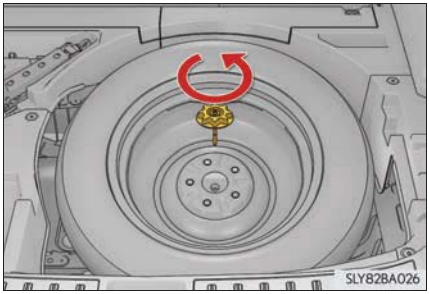


応急用タイヤの取り出し方

1 デッキアンダーボックスを取りはずす



2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



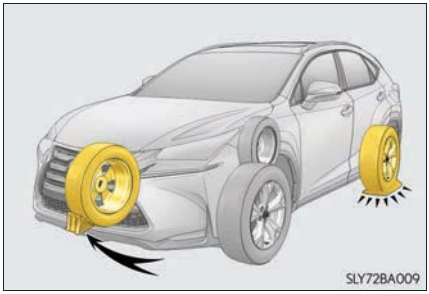
警告

■**応急用タイヤを収納するとき**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

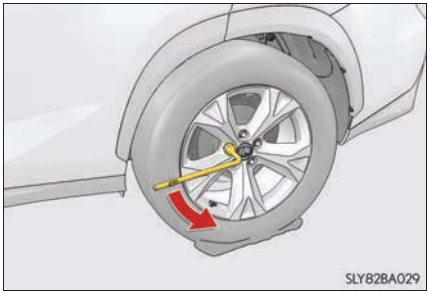
1 輪止め※をする



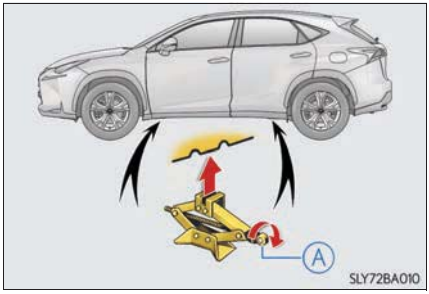
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

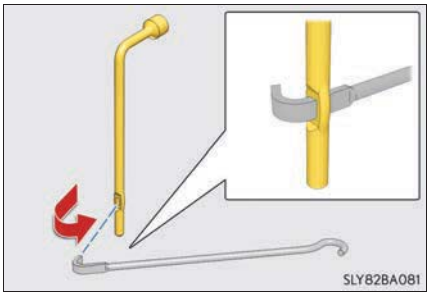
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



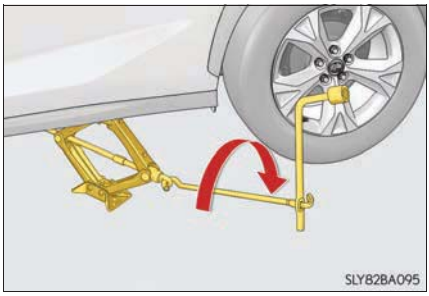
3 ジャッキのⒶ部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける

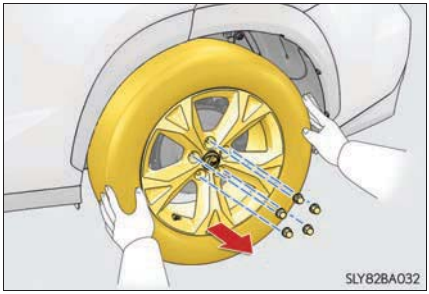


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

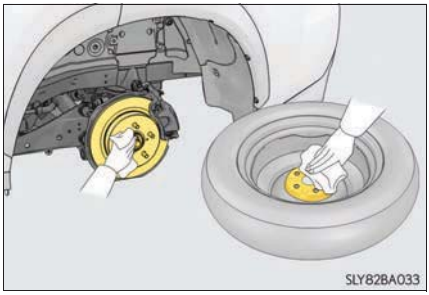
■**パワーバックドア装着車のタイヤ交換について**

タイヤ交換などをする際は、バックドアの作動（→ P. 128）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤの取り付け

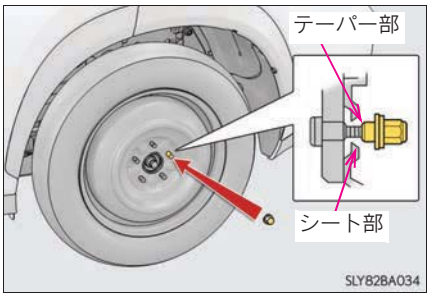
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

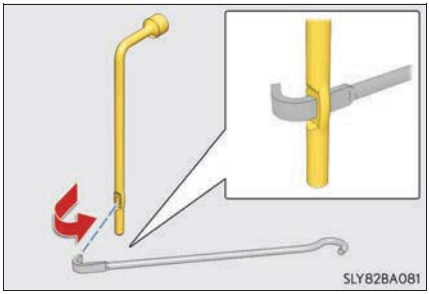


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

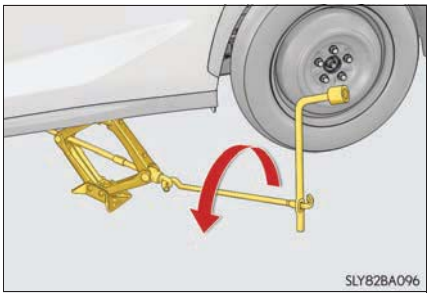
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



3 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける

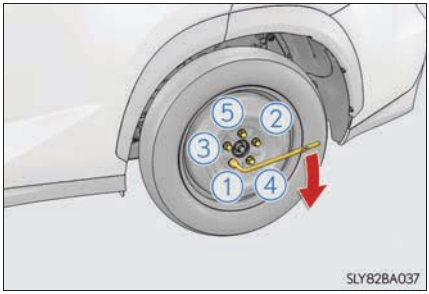


4 車体を下げる



5 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■**応急用タイヤについて**

●タイヤの側面にTEMPORARY USE ONLYと書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 461）

■**応急用タイヤを装着しているとき**

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■**雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは（225/60R18 タイヤ装着車を除く）**

1 後輪を応急用タイヤと交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速、急ハンドル、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■**応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・クルーズコントロール
・NAVI・AI-AVS★
・レーダークルーズコントロール★
・プリクラッシュセーフティシステム★
・EPS
・LDA（ステアリング制御付）★
・バックガイドモニター＆サイドモニター★
・クリアランスソナー★
・ナビゲーションシステム
・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★
・BSM（ブラインドスポットモニター）
・オートマチックハイビーム★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
・E-Four（電気式 4WD システム）

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■**応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

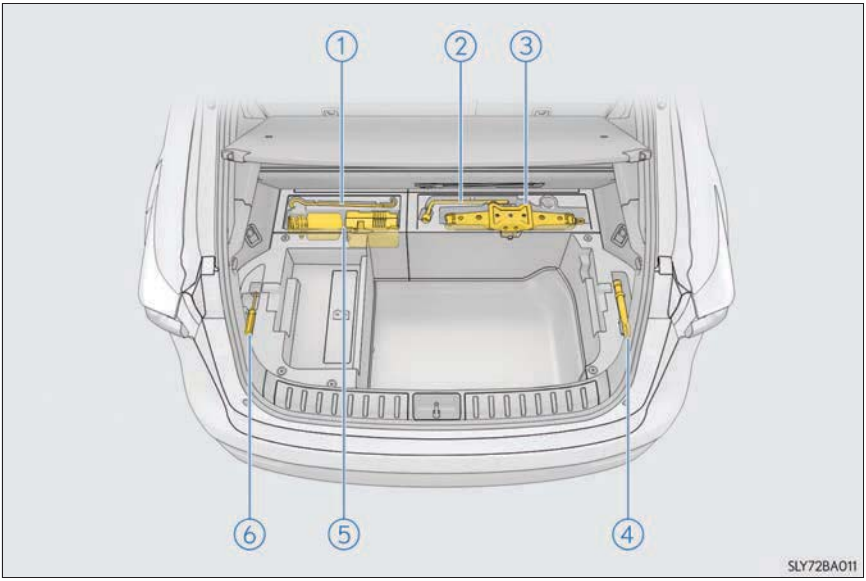
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 389）

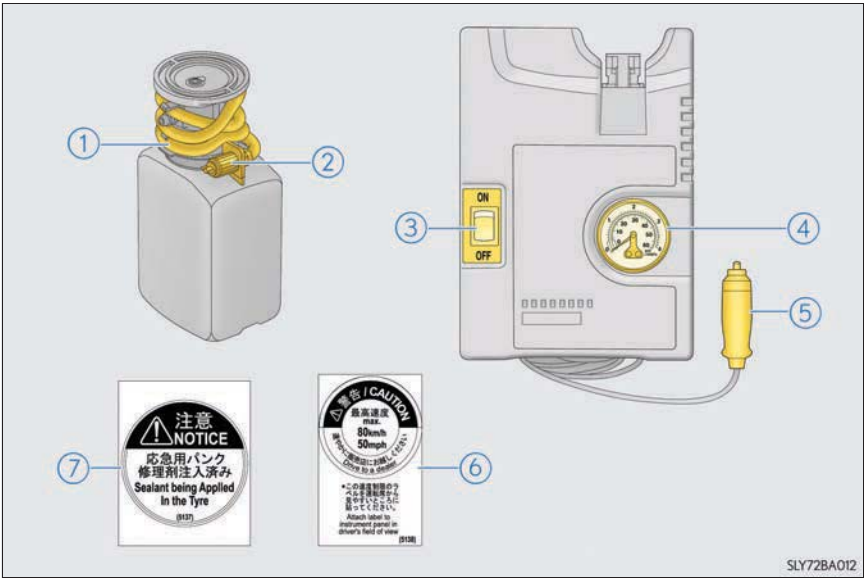
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① ジャッキハンドル
② ハブナットレンチ
③ ジャッキ※
④ けん引フック
⑤ タイヤパンク修理キット
⑥ ドライバー

※ ジャッキの使い方（→ P. 416）

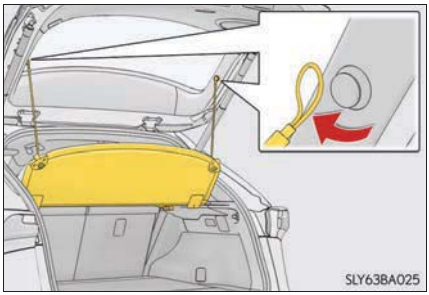
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



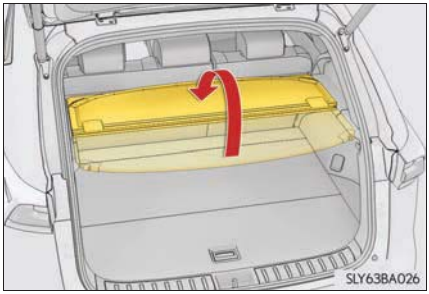
① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 電源スイッチ
④ 空気圧計
⑤ 電源プラグ
⑥ 速度制限ラベル
⑦ パンク補修液注入済ラベル

応急修理キットの取り出し方

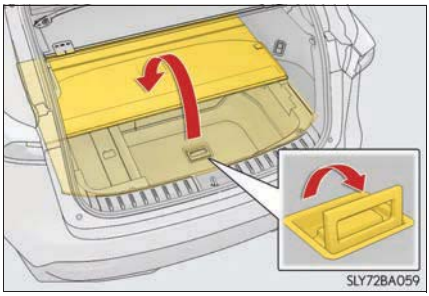
1 トノボードを装着しているとき：留めひもを左右のフックからはずす



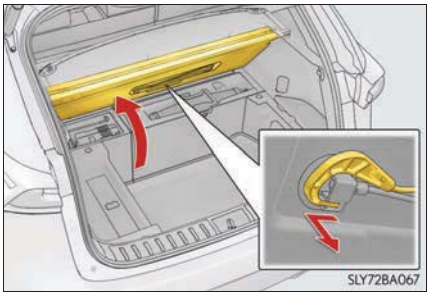
2 トノボードを装着しているとき：トノボードを折りたたむ



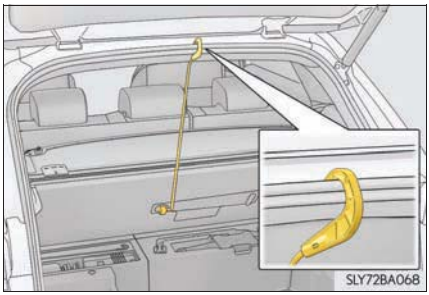
3 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ



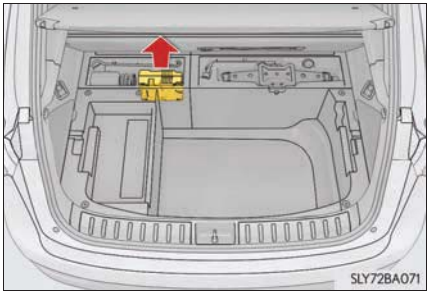
4 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



5 フックをバックドア開口部の上端に引っかけて固定する



6 応急修理キットを取り出す



ジャッキの取り出し方

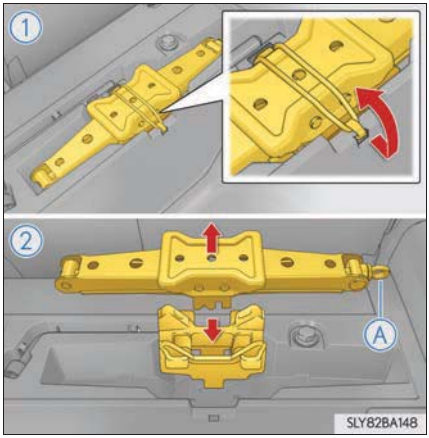
① ゴムバンドをはずす

② ジャッキを取り出し、カバーを取りはずす

ジャッキの使い方（→ P. 416）

ジャッキを収納するときは：

1. カバーをトレイに入れる
2. ジャッキのⒶ部を回して動かなくなるまで縮める
3. ジャッキを押し込んでからゴムバンドで固定する



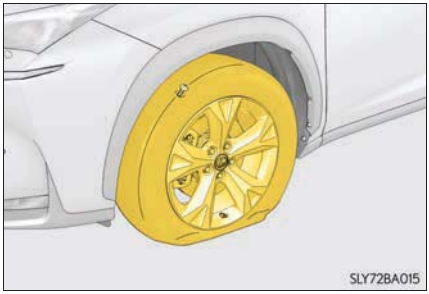
応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

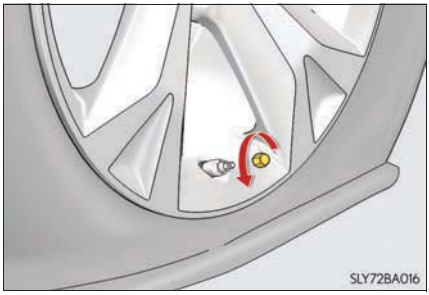
・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



応急修理するときは

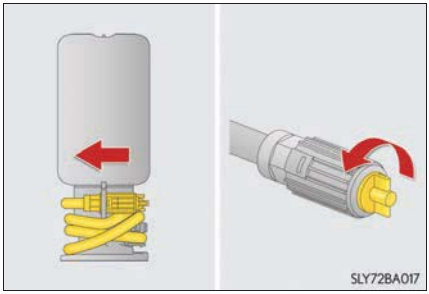
1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



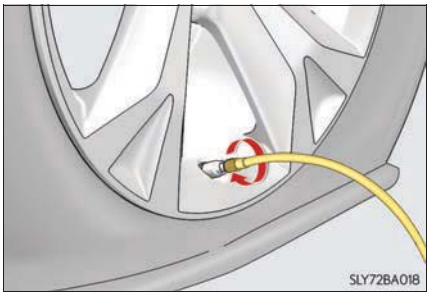
3 ホースをのばし、空気逃しキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

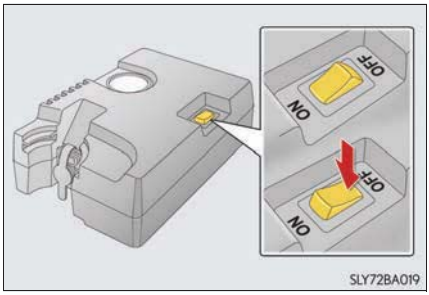


4 ホースをバルブに接続する

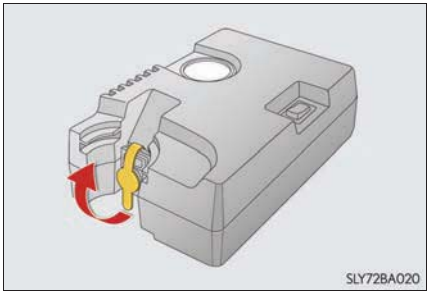
ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。



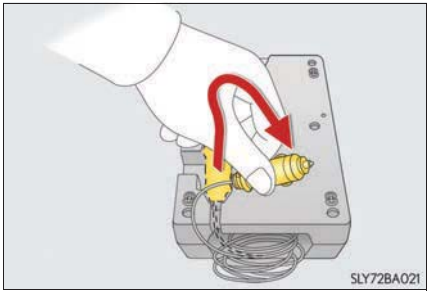
5 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



6 コンプレッサーのゴム栓をはずす



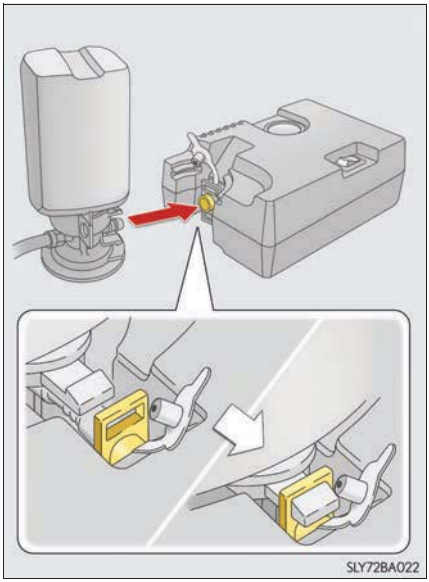
7 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす



8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む (→ P. 322)

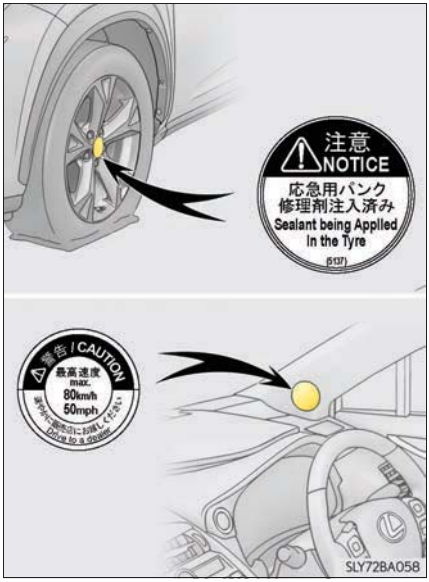
9 ボトルをコンプレッサーに接続する

しっかり接続されているか確認してください。



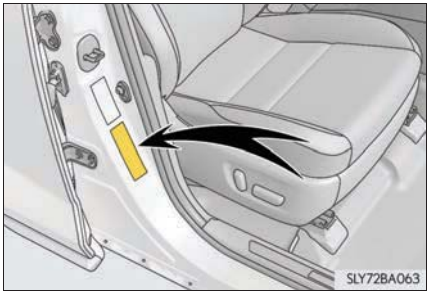
10 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



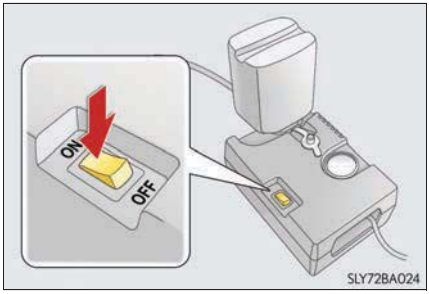
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 358）



12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

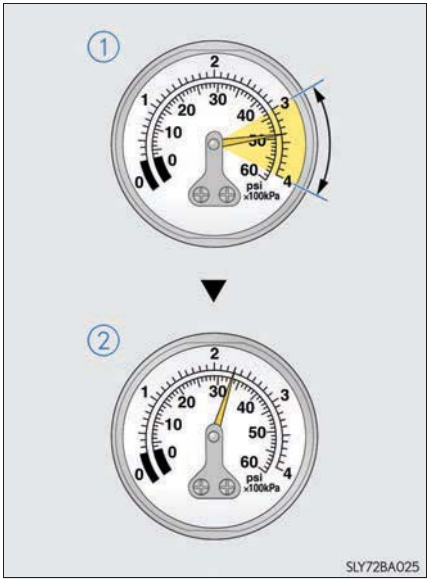


14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① 一時的に空気圧計が300～400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから 1 分程度 (低温の場合は 15 分程度) で実際の空気圧になります。

コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。



10 分以上（低温の場合は 35 分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてレクサス販売店にご連絡ください。
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→ P. 358, 461）

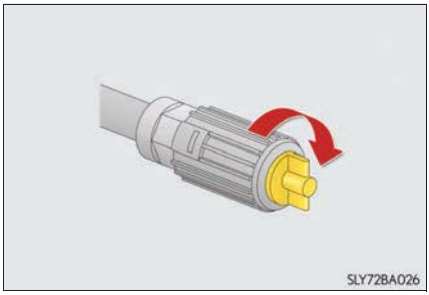
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

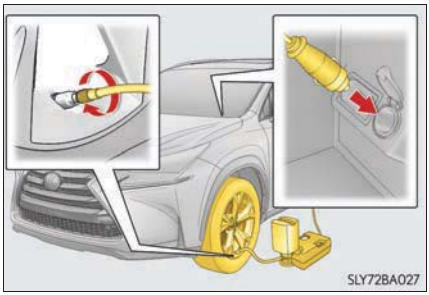
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約 5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行する

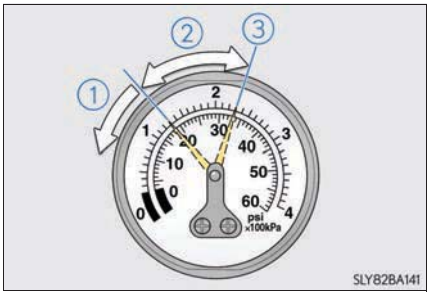
20 走行後、平坦な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する



21 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

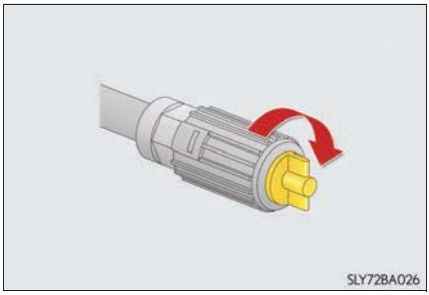


③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 358, 461）の場合：手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転する

知識

■ **次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。**

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■ **応急 (パンク) 修理キットを使用したとき**

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ / 送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ **応急修理キットの点検について**

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しなでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。
使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。
コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－ 40 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

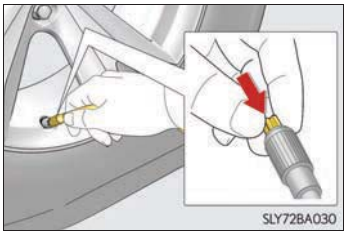
●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったときは

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

警告

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■**補修液を均等に広げるための運転について**

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130 kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 189）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 441）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。（→ P. 75）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 78）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 439）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 445）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 445）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーがＰの位置にあることを確認する
3. パワースイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

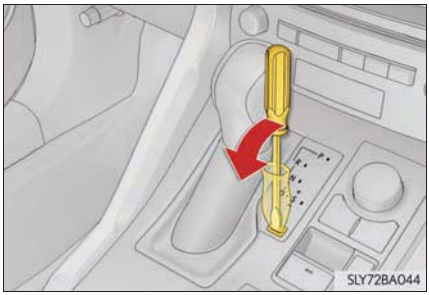
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 パワースイッチをアクセサリーモードにする

3 ブレーキペダルを踏む

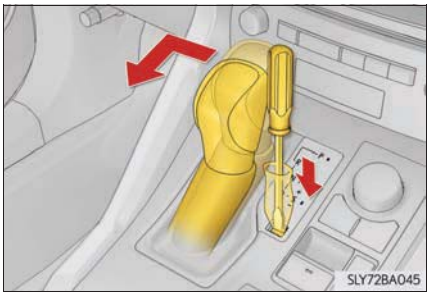
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



電子キーが正常に働かないときは

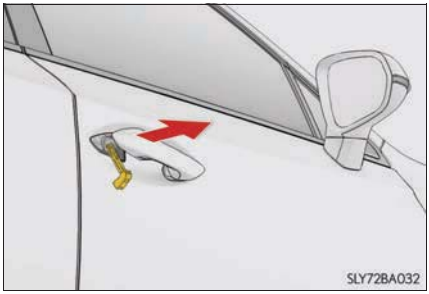
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 139）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作

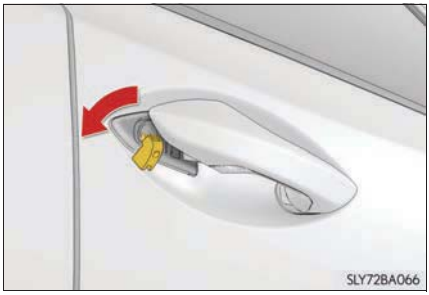
■ ドアの解錠

メカニカルキー（→ P. 115）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



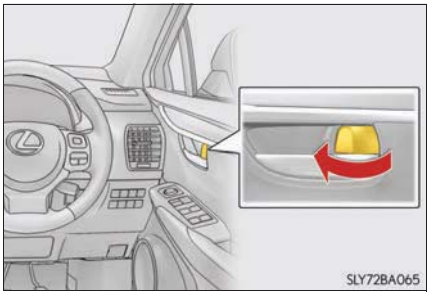
2 ドアの解錠



3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアの施錠

1 ロックレバーを施錠側にする



2 ドアを閉める

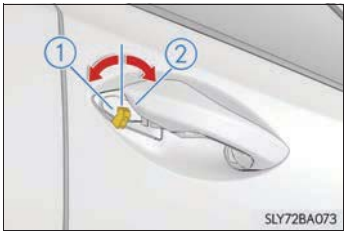
知識

■キーの連動機能

① ドアガラスとムーンルーフが開く（まわし続ける）※

② ドアガラスとムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

※ レクサス販売店での設定が必要です。



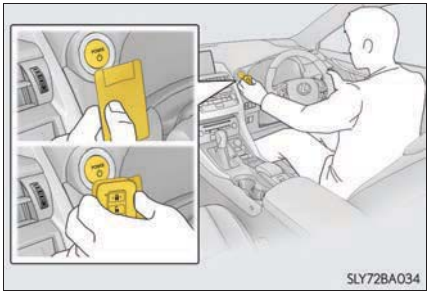
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーを P にする

2 ブレーキペダルを踏む

3 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



4 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認する。

5 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 367）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 4 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 190）

■電子キーが正常に働かない場合

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→ P. 464）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→ P. 139）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

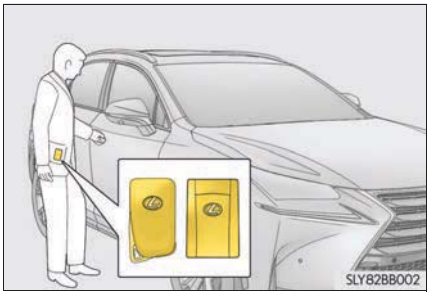
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

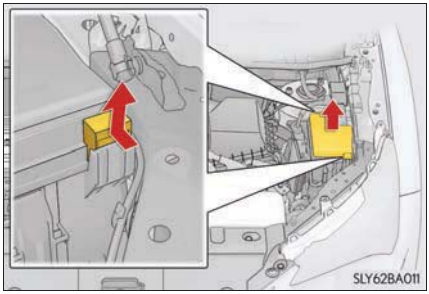
ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 81)

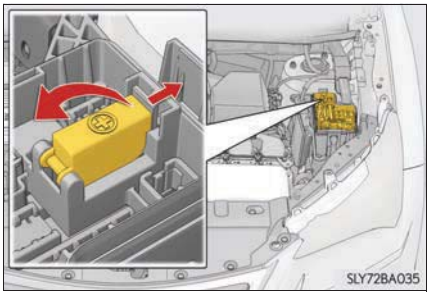


2 ボンネットを開けて（→P. 347）、ヒューズボックスのカバーをはずす

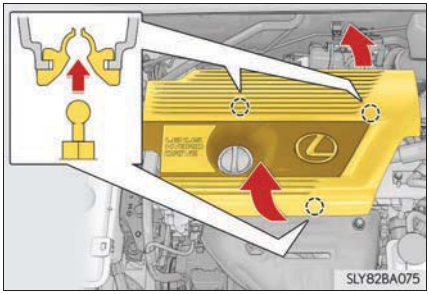


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

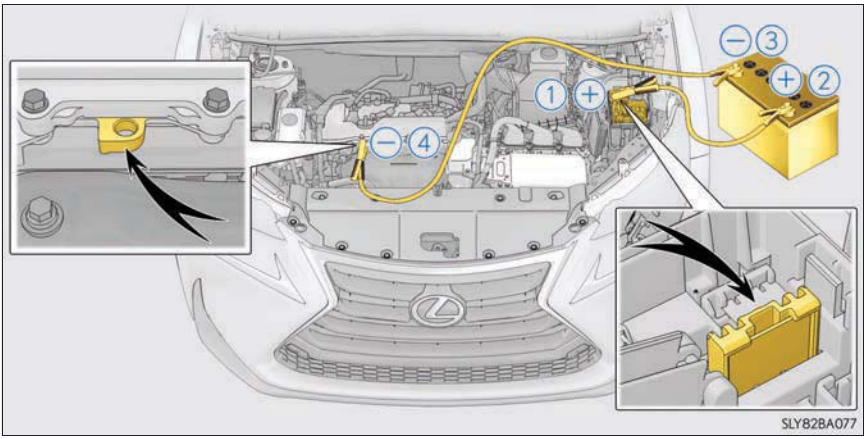
ツメを軽く引きながら、カバーを開けます



4 エンジンルーム中央のカバーをはずす



5 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

7 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

8 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

9 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

10 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

11 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ **補機バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ **補機バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は**

パワースイッチを OFF にしてすぐに補機バッテリーのターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ **補機バッテリーについて**

→ P. 347

■ **補機バッテリーの充電について**

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

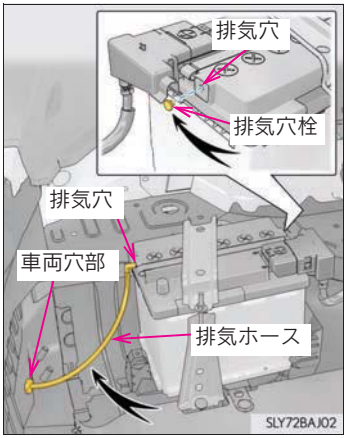
●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●パワーバックドアシステムの初期化を行ってください。（→ P. 131）

■補機バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。また、交換前と同一のケースサイズ、かつ 20 時間率容量（20HR）が同等以上の補機バッテリーを使用してください。
・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。）



詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■**補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

警告

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

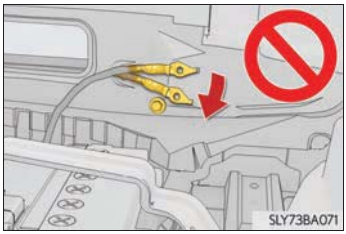
早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 90）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」または「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

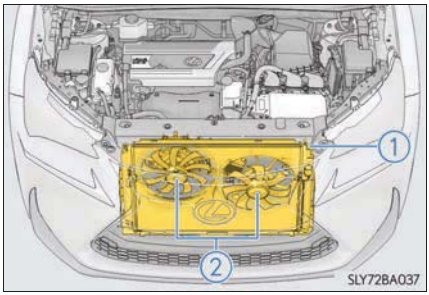
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

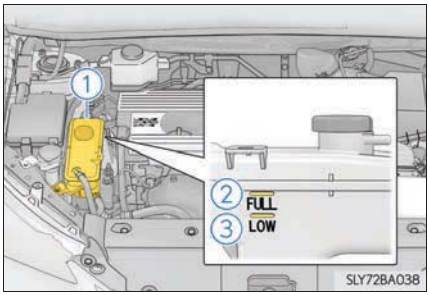


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

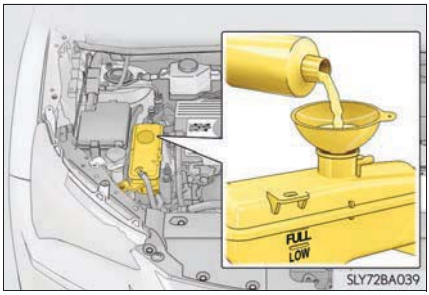
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温」表示を確認する

表示が消えていない場合：
　すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する

表示が消えてる場合：
　最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

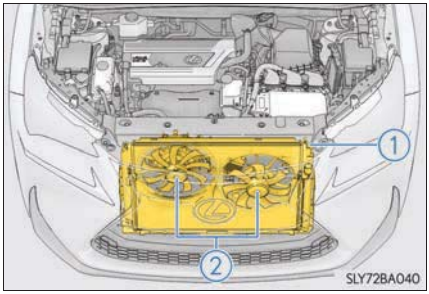
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

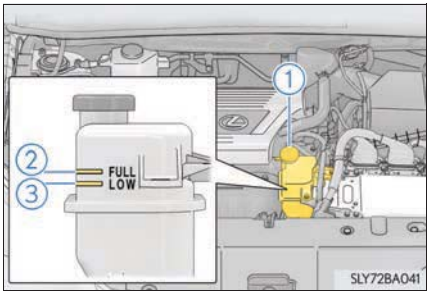


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

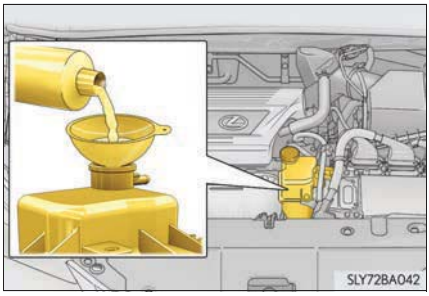
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

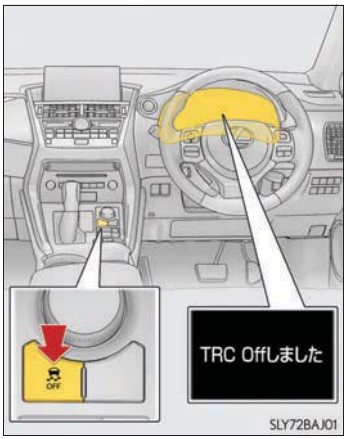
ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪を取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■ **脱出しにくいとき**

を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■**脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**ハイブリッドトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（指定燃料・オイル量など）....458

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 462

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....472

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	56

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20 ※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	4.0	4.4

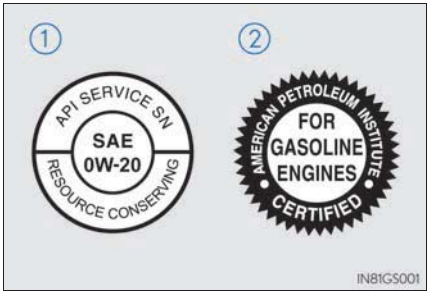
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

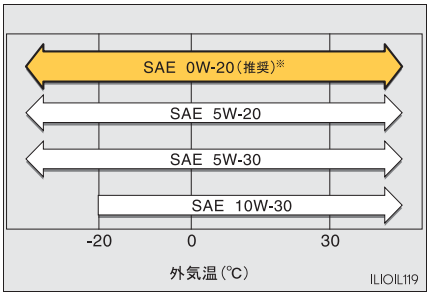
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：
・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　−12 ℃ 濃度 50%　−35 ℃	6.7	3.1

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
弊社純正オートフルード　WS ※	3.8

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター「AWD」）

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
弊社純正オートフルード　WS ※	1.8

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	100

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、490N（50 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/65R17 102H	17 × 7 J	240（2.4）	240（2.4）
	225/60R18 100H	18 × 7 1/2 J	220（2.2）	220（2.2）
	235/55R18 100V	18 × 7 1/2 J	220（2.2）	220（2.2）
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4 T	420（4.2）	

電球（バルブ）※1

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：HB3）※2	60
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
車内	バニティランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※1 表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2 三眼フル LED ヘッドランプ非装着車

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
NX300h	AYZ10	2AR-FXE（2.5L ガソリン）	フロント：2JM リヤ：2FM	FF（前輪駆動）
	AYZ15			AWD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。
G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。
遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけます。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 リモートタッチの“MENU”ボタンを押し、「設定・編集」を選択する

2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して を選択し、 スイッチを押す

2 ∧または∨を押して変更する項目を選択し、 スイッチを押す

3 ∧または∨をを押して設定したい項目を選択し、 スイッチを押す

設定を終了する場合は、⮌スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
③ レクサス販売店で設定変更可能
④ 車両側のスイッチなどで設定変更可能

■ ドアロック（→ P. 119, 441）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○	—
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○	—
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○	—
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○	—
運転席を開けたときの全ドア自動解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○	—

■ パワーバックドア★（→ P. 125）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
▶ お好みの位置（高さ）で設定※ バックドア自動開停止位置	初期状態の位置	お好みの位置（高さ）で停止	―	―	―	○
▶ 5 段階設定 バックドア自動開停止位置（パワーバックドア開度調整）	開度 5	開度 1 ～ 5	○	―	○	―
バックドアの作動	あり	なし	―	○	―	―

※ バックドア下部の スイッチ操作で設定します。（→ P. 128）

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 119, 137）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅（施錠・解錠時非常点滅灯応答）	あり	なし	○	―	○	―
半ドア警告ブザー	あり	なし	―	―	○	―
ドアを施錠・解錠したときの作動確認ブザー音量（施錠・解錠時ブザー音量調節）	レベル 5	OFF ～ レベル 7	○	―	○	―
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	○	―
		120 秒				

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 119, 137）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
解錠ドアの選択（スマートドアアンロック）	全席	運転席	○	―	○	○
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	―	○	―
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	―	―	○	―

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 119）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ワイヤレス機能	あり	なし	―	―	○	―
ワイヤレスリモコンのドア解除ボタン操作 （ボタン 2 回操作アンロック）	1 回で全ドア解錠 （しない）	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠 （する）	○	―	○	―
ドア施錠時にワイヤレスリモコンの［ ］スイッチを有効にする機能（→ P. 125）★	ドア解除時	ドア施錠時	―	―	○	―

■ ドライビングポジションメモリー★（→ P. 152）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
降車時の運転席シート移動量調節 （降車時運転席シート移動量調整）	標準	OFF	○	―	○	―
		少なめ				
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	―	―	○	―

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 210）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ライトセンサーの感度調整 （コンライト感度調整）	標準	-2 ～ 2	○	―	○	―
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	―	○	―

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 307）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間（室内照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	○	—	○	—
		7.5 秒				
		30 秒				
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○	—
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○	—
電子キーを携帯して車両に近づいたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○	—
アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間（室外照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	○	—	○	—
		7.5 秒				
		30 秒				
アウトサイドドアハンドル照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	—	○	—
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
電子キーを携帯して車両に近づいたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
解錠時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
ドアを開けたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—

■ メーター（→ P. 90, 95）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
スポーツモード選択時のタコメーターへの切替え（タコメーターの表示）	自動切替	常時タコメーター	—	○	—	—
		常時ハイブリッドシステムインジケーター				
言語	日本語	英語	—	○	—	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—	—
EV インジケーターの点灯・消灯	ON	OFF	—	○	—	—
スイッチを押したときに表示される画面の設定	ドライブインフォ 1	お好みの項目※1	—	○	—	—
1 画面目に表示される i ドライブインフォメーション画面（ドライブインフォ 1）	瞬間燃費	※ 2	—	○	—	—
	平均燃費（リセット間）					
2 画面目に表示される i ドライブインフォメーション画面（ドライブインフォ 2）	航続可能距離	※ 2	—	○	—	—
	平均車速（リセット間）					
各割込み表示の ON/OFF 切替※3（割込み表示）	する	しない	—	○	—	—
テーマカラーの切替（アクセントカラー）	カラー 1	カラー 2	○	○	—	—

※1 登録できない項目もあります

※2 瞬間燃費・平均燃費（リセット間）・平均燃費（給油後）・平均燃費（始動後）・平均車速（リセット間）・平均車速（始動後）・距離（航続可能）・距離（始動後走行）・走行時間（リセット間）・走行時間（始動後）・ブランク（非表示）から 2 項目を選択

※3 交差点案内・電話着信・照度調整

■ エアコン（→ P. 294）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる（内外気切替 AUTO スイッチ連動）	する	しない	○	―	○	―
AUTOスイッチをONにしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる（エアコン AUTO スイッチ連動）	する	しない	○	―	○	―

■ オートアラーム（→ P. 79）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	する	しない	―	―	○	―

■ クリアランスソナー（→ P. 258）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
クリアランスソナー作動時のブザー音量（ブザー音量設定）	3（中）	1 ～ 5（小～大）	○	―	○	―
フロントセンターセンサーの検知可能距離（画面表示ブザータイミング）	遠い	近い	○	―	○	―
リヤセンターセンサーの検知可能距離（画面表示ブザータイミング）	遠い	近い	○	―	○	―
ナビゲーション画面へのクリアランスソナー表示（ソナー表示）	表示	非表示	○	―	○	―

■ エコドライブモード（→ P. 267）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
エコドライブモード時に暖房・冷房の作動を抑える空調制御機能	する	しない	―	―	○	―

■ LDA（ステアリング制御付）★（→ P. 247）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
操舵力支援	有	無	―	○	―	―
車線逸脱時の警報ブザーが吹鳴する感度（警報感度）	普通	高	―	○	―	―

■ パワーウインドウ（→ P. 166）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	―	―	○	―
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	―	―	○	―

■ ムーンルーフ★（→ P. 170）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキー連動開閉機能※	なし	あり	―	―	○	―
ワイヤレスリモコン連動開閉機能※	なし	あり	―	―	○	―

※ ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでパワーウインドウの開閉が可能なときのみ設定できます。

■ ドアミラー（→ P. 163）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	―	―	○	―
		パワースイッチと連動				
リバース連動作動	あり	なし	―	―	○	―

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車両接近通報装置（→ P. 69）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
音圧調整	レベル 1	レベル 2	—	—	○	—
		停止				

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式自動ドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
・シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

■セッティング画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイのセッティング画面は自動的に終了します。

●セッティング画面表示後に警告メッセージが表示された

●パワースイッチが OFF になった

●セッティング画面表示中に走行し始めた

警告

■カスタマイズを行うときの警告

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤローテーションを実施したとき ・タイヤ空気圧を調整したとき ・バルブ・送信機を交換したとき ・タイヤを交換したとき	P. 356
バックガイドモニター＆サイドモニター★	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
パノラミックビューモニター★		
パワーバックドア★		P. 131
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 167
ムーンルーフ★		P. 173

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....474
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....477
アルファベット順さくいん.....479
五十音順さくいん 481

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・GPS ボイスナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ETC システム／ ITS スポットサービス（DSRC）
・ハンズフリー
・G-Link

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 116）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 118）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 367）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 190）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 139）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
  （→ P. 122）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 189）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 192）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 137）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 192）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 443）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 445）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON モードになっていますか？

  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 440）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 192）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 166）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたは ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 191）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 477）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 401、406 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 411）
- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 423）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 455）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 79
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 406
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 168, 173
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 79
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 367
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 138
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 406

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 124
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 205
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 403
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 200
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 182
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 235
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 277
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用している	P. 247

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 294
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 270, 402
ASC
（アクティブサウンドコントロール）. 209
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）. 267, 271
AWD
（オールホイールドライブ）. 461
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 283
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）. 270
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
E-Four
（電気式 4WD システム）. 271
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 270, 402
EV
（エレクトリックビークル）. 195
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 461
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 459
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 44
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）. 247
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 277, 402
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. . . 270, 402
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 35, 402

TRC
（トラクションコントロール）. 270, 402
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 270, 402

五十音順さくいん

あ

アースポイント
（バッテリーあがりの処置）..... 445
アームレスト..... 337
アウターミラー（ドアミラー）
格納のしかた 163
操作 163
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 283
ミラーヒーター 298
リバース連動機能..... 164
アウトサイドドアハンドル照明..... 307
電球（バルブ）の交換..... 384
アクセサリーコンセント
（100W タイプ）..... 323
アクセサリーコンセント
（1500W タイプ）..... 325
アクセサリーソケット 322
アクセサリーモード 190
アクティブサウンドコントロール
（ASC）..... 209
足元照明..... 307
アラーム
オートアラーム 79
音さくいん 477
警告ブザー 401, 406
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..... 270
アンテナ
スマートエントリー＆
スタートシステム 137

い

EV ドライブモード 195
イージークローザーバックドア..... 130
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ）..... 189
位置交換
（タイヤローテーション）..... 354
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 78
イルミネーテッドエントリー
システム 309
インジケーター（表示灯）..... 87
ハイブリッドシステム
インジケーター 93
表示灯 87
READY 189
インストルメントパネル照度調整
スイッチ 92
インテリアランプ 308, 309
インナーミラー 161

う

ウインカー（方向指示灯）..... 202
電球（バルブ）の交換..... 373
方向指示レバー 202
ワット数 461
ウインドウ
ウォッシャー 220, 223
パワーウインドウ..... 166
フロントワイパーデアイサー ... 298
リヤウインドウデフォッガー ... 298
ウインドウロックスイッチ 166
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 86, 401
ウォッシャー..... 220, 223
液の補充 353
スイッチ 220, 223
タンク容量 461
冬の前の準備・点検..... 290
動けなくなったときは
（スタック）..... 455
雨滴感知式ワイパー 220
運転 178
雨の日の運転 179
運転を補助する装置..... 270
寒冷時の運転 290
正しい運転姿勢 26
手順 178
ハイブリッド車運転の
アドバイス 288
運転席シートベルト
非着用警告灯..... 403
運転席シートポジション
メモリー 152

え

エアコン
オートエアコン..... 294
曇り取り（フロントガラス）..... 297
フィルターの清掃..... 365
「ナノイー」..... 301
エアコン・デフォッガー 297
エアバッグ..... 35
SRS エアバッグ警告灯 402
お子さまのための注意 36
改造・廃棄 38
作動条件 39
正しい姿勢 26
配置 35
エネルギーモニター 106
LED デイライト 211
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）
機能 270
パワーステアリング警告灯 402
エンジン
イモビライザーシステム 78
エンジン警告灯..... 401
エンジンスイッチ..... 189
エンジンルームカバー 352
オーバーヒート..... 451
ハイブリッドシステムが
始動できない 438
ハイブリッドシステムの
始動方法 189
パワースイッチ
（イグニッションスイッチ）.... 189
ボンネット 347

エンジンオイル..... 458
冬の前の準備・点検..... 290
メンテナンスデータ..... 458
油圧警告灯 401
容量 458
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 189
エンジンフード（ボンネット）..... 347
エンジンルーム..... 352
エンジンルームカバー..... 352
エンジンルームから
蒸気が出ている 451

お

オイル（エンジンオイル）..... 458
応急用タイヤ..... 411
空気圧 461
交換方法 411
オートアラーム..... 79
オートエアコン..... 294
オートドアロック・
アンロック機能..... 122
オートマチックハイビーム 213
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 211
オープナー
給油扉 227
バックドア 126
ボンネット 347
おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）..... 331
お子さまを乗せるとき 43
ウインドウロックスイッチ 166
エアバッグ 36
お子さまの安全のために 43
キーの電池 368
チャイルドシート..... 44
シートベルトの着用..... 32
ステアリングヒーター／
シートヒーターに関する
警告..... 304
チャイルドシートの取り付け 44
チャイルドプロテクター 122
電動サンシェードに
関する警告 176
発炎筒の取り扱いに関する
警告..... 391
バックドアに関する警告 132
バッテリーに関する警告 449
パワーウインドウに関する
警告..... 169
ムーンルーフに関する警告 174
オドメーター
機能 91
表示の切りかえ・リセット
ボタン 92

か

カーテンシールドエアバッグ 35
カードキー..... 114
カードホルダー..... 314
カーペット..... 345
　洗浄 345
　フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示..... 91
回生ブレーキ..... 70
外装の電球（バルブ）
　交換要領 373
　ワット数 461
買い物フック..... 316
ガス欠になったとき 75
カスタマイズ機能 462
ガソリンスタンドでの情報 500
型式 461
カップホルダー..... 312
カラーヘッドアップ
　ディスプレイ..... 100
ガラスの曇り取り（リヤウインドウ
　デフォッガー）..... 298
ガレージジャッキ 350
冠水路走行..... 186
寒冷時の運転..... 290

き

キー 114
　カードキー 114
　キーナンバープレート 114
　キーの構成 114
　キーレスエントリー..... 114, 137
　キーをなくした..... 116, 118
　正常に働かない..... 441
　施錠・解錠ができない..... 441
　電子キー 114
　電池が切れた 367, 441
　ハイブリッドシステムが
　　始動できない 438
　メカニカルキー..... 115
　ワイヤレスリモコン..... 114
キーレスエントリー
　スマートエントリー＆スタート
　　システム 137
　ワイヤレスドアロック..... 114
きしみやひっかき音が聞こえる
　（ブレーキパッドウェア
　インジケーター）..... 182
給油
　給油扉が開けられない..... 228
　給油のしかた 225
　メンテナンスデータ..... 458
緊急時シートベルト固定機構..... 32
緊急始動機能
　（ハイブリッドシステム）..... 439

緊急時の対処
オーバーヒートした..... 451
キーの電池が切れた..... 367, 441
キーをなくした 116, 118
警告灯がついた 401
警告メッセージが表示された ... 406
けん引 393
故障したときは 388
車両を緊急停止する..... 392
スタックした 455
電子キーが正常に働かない..... 441
ハイブリッドシステムが
始動できない 438
発炎筒 390
パンクした 411, 423
補機バッテリーがあがった..... 445
緊急停止システム 74
緊急ブレーキシグナル 271

く

空気圧（タイヤ)..... 461
クーラー..... 294
区間距離計（トリップメーター）
機能 91
切りかえ・リセットボタン 92
駆動用電池..... 73
充電について 70
搭載位置 73
冷却用吸入口 74
曇り取り
フロントガラス..... 297
ミラーヒーター..... 298
リヤウインドウデフォッガー ... 298
クラクション（ホーン)..... 159
クリアランスソナー 258
警告メッセージ..... 264
操作 258
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 210
電球（バルブ）の交換..... 384
クリップ
エンジンルームカバー 352
フロアマット 24
クルーズコントロール
クルーズコントロール..... 243
レーダークルーズ
コントロール 230
グローブボックス 311

け

警音器（ホーン）..... 159
計器類（メーター）..... 90
照度調整 92
ヘッドアップディスプレイ 100
マルチインフォメーション
ディスプレイ 95
メーター 90
警告灯 86
ABS ＆ブレーキアシスト 402
SRS エアバッグ..... 402
エンジン 401
高水温 401
シートベルト非着用..... 403
充電 401
スリップ表示灯 402
タイヤ空気圧 403
ドライブスタート
コントロール 403
燃料残量 403
パーキングブレーキ表示灯 402
パワーステアリング..... 402
PCS 402
プリテンショナー..... 402
ブレーキ 401
ブレーキオーバー
ライドシステム 403
ブレーキホールド作動表示灯 ... 402
マスターウォーニング..... 403
油圧 401
警告ブザー
高水温 401
シートベルト非着用..... 403
シフトダウン制限..... 200
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 235
パーキングブレーキ
未解除走行時 205
パワーステアリング..... 402
半ドア 120, 138
半ドア走行 124
窓開 168
ムーンルーフ開..... 173
油圧 401
リバース 201
警告メッセージ..... 406
化粧ミラー（バニティミラー）..... 321
けん引
けん引のしかた..... 393
フック 395

こ

交換
キーの電池 367
タイヤ 411
電球（バルブ）..... 373
ヒューズ 369
工具（ツール）..... 412, 424
航続可能距離 97, 110
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換..... 382
ワット数 461
高電圧部位..... 73
コーナーリングランプ 211
子供専用シート 44
選択方法 46
取り付け方 48
コンソールボックス 311
コンライト
（自動点灯・消灯装置）..... 210

さ

サービスプラグ..... 73
サイドエアバッグ 35
サイド方向指示灯 202
電球（バルブ）の交換..... 384
方向指示レバー 202
ワット数 461
サイドミラー（ドアミラー）
格納のしかた 163
操作 163
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 283
ミラーヒーター 298
リバース連動機能..... 164
サングラスホルダー 313
サンバイザー 321

し

シート..... 143, 144
シートクッションエアバッグ 35
正しい運転姿勢..... 26
チャイルドシート..... 44
調整 143, 144
手入れ 344
ドライビングポジション
メモリー 152
ヘッドレスト 157
メモリーコール機能..... 155
シートヒーター 304
シートベルト 28
お子さまの着用..... 44
緊急時シートベルト固定機構 32
シートベルト非着用警告灯 403
高さ調節 31
正しく着用するには..... 28
着け方、はずし方..... 28
手入れ 345
妊娠中の方の着用..... 33
シートベルト非着用警告灯 403
シートベルトプリテンショナー..... 31
機能 31
プリテンショナー警告灯 402
シートベンチレーター 304
シートポジションメモリー 152
事故が発生したとき（ハイブリッド
システムの注意）..... 76
室内灯..... 307
始動のしかた 189
シフトポジション 197

シフトレバー 197
シフトポジションの切りかえ ... 197
シフトレンジの
切りかえ 198, 199
リバース警告ブザー 201
締め付けトルク（ホイール）..... 420
ジャッキ
ガレージジャッキ 350
車載ジャッキ 412, 424
ジャッキハンドル 412, 424
車幅灯 210
電球（バルブ）の交換 384
ランプスイッチ 210
車両型式 461
車両仕様（スペック）..... 458
車両接近通報装置 69
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 392
収納装備 310
瞬間燃費 97
仕様（車両仕様）..... 461
衝撃感知ドアロック
解除システム 123
助手席シートベルト
非着用警告灯 403
侵入センサー（オートアラーム）..... 82

す

スイッチ
EV ドライブモード 195
イグニッション 189
ウインドウロック 166
ウォッシャー 220, 223
ASC 音量調整ダイヤル 209
LDA 247
オートマチックハイビーム
スイッチ 213
クリアランスソナー 258
クルーズコントロール 243
シート調整 143, 144
シートヒーター 304
シートベンチレーター 304
シートポジションメモリー 152
車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）..... 230
車両接近通報一時停止 69
侵入センサー OFF 82
ステアリングヒーター 304
電話※
ドアミラー 163
ドアロック 121
トークスイッチ※
ドライビングポジション
メモリー 152
ドライブモードセレクト 267
パーキングブレーキスイッチ ... 203
ハザードランプ 389
パドルシフト 198, 199

パワーウインドウ..... 166
パワースイッチ 189
PCS 278
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 389
VSC OFF 272
フォグランプ 218
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 283
ブレーキホールドスイッチ 207
ヘッドアップディスプレイ 100
ヘッドランプクリーナー..... 220
方向指示レバー 202
ホーン（警音器）..... 159
ムーンルーフ 170
メーター操作スイッチ..... 96
メーター表示切りかえ..... 92
ランプ 210
リヤウインドウデフォッガー ... 298
レーダークルーズ
コントロール 230
ワイパー 220, 223
スタック..... 455
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）..... 270
ステアリングヒーター 304
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 159
位置調整 159
ステアリングヒーター..... 304
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 271
電球（バルブ）の交換..... 384
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 290
スピードメーター 91
スペアタイヤ（応急用タイヤ）..... 411
空気圧 358, 461
交換方法 411
スペック（車両仕様）..... 461
スマートエントリー＆スタート
システム 137
アンテナの位置..... 137
カスタマイズ設定..... 462
緊急始動機能 439
警告ブザー 138
警告メッセージ..... 138
作動範囲 138
節電機能 139
電波がおよぼす影響について ... 142
ドアの解錠・施錠..... 119, 125
ハイブリッドシステムの始動 ... 189
バックドアの施錠・解錠..... 125
スモールランプ（車幅灯）..... 210
電球（バルブ）の交換..... 384
ランプスイッチ..... 210

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

せ

清掃 340, 344
アルミホイール 341
外装 340
シートベルト 345
内装 344
レーダー
センサー 242, 281, 287
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 271
電球（バルブ）の交換..... 384
積算距離計（オドメーター）
機能 91
表示の切りかえ・
リセットボタン 92
セキュリティインジケーター ... 78, 79
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 235
センサー
インナーミラー 162
雨滴感知センサー..... 221
侵入センサー 82
ライトセンサー 211
レーダー
センサー 238, 279, 283
洗車 340
前照灯（ヘッドランプ）..... 210
ヘッドランプオート
レベリングシステム 211
電球（バルブ）の交換.... 375, 384
ライトセンサー 211
ランプ消し忘れ防止機能..... 211
ランプスイッチ 210
ワット数 461

そ

走行モード（ドライブモード）..... 267
速度計（スピードメーター）..... 91

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 202
電球（バルブ）の交換.... 379, 384
方向指示レバー..... 202
ワット数 461
タイヤ..... 354
応急用タイヤ 411
空気圧 363, 461
交換 411
締め付けトルク..... 420
チェーン 290
点検 354
パンク応急修理キット 423
パンクしたときは..... 411, 423
冬用タイヤ 290
ホイールサイズ..... 461
ローテーション（位置交換）..... 354
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 455
タイヤチェーン 290
タコメーター（エンジン回転計）..... 91

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 290
チャイルドシート 44
ISOFIX バーでの取り付け..... 57
シートベルトでの固定..... 52
選択方法 46
チャイルドプロテクター 122
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 203

つ

ツール（工具）..... 412, 424

て

手入れ 340, 344
アルミホイール 341
外装 340
シートベルト 345
内装 344
レーダー
センサー 242, 281, 287
テールランプ（尾灯）..... 210
電球（バルブ）の交換..... 384
ランプスイッチ 210
デッキアンダートレイ 316
デッキフック
（荷物固定用フック）..... 315
デッキボード 317
デフォッガー（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 298
電気式 4WD システム
（E-Four）..... 271
電気モーター 68, 73
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 373
ワット数 461
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 458
電子キー..... 114
作動範囲 138
正常に働かないとき..... 441
節電機能 139
電池が切れた 367, 441
電子制御ブレーキシステム
（ECB）..... 270
電池交換（キー）..... 367
電動サンシェード
操作 175
挟み込み防止機能..... 175
電動パーキングブレーキ 203
電話スイッチ※

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

と

ドア 119
オートドアロック・
アンロック機能 122
衝撃感知ドアロック
解除システム 123
スマートエントリー＆
スタートシステム 137
チャイルドプロテクター 122
ドアガラス 166
ドアロックスイッチ 121
バックドア 125
ロックレバー 121
ワイヤレスリモコン 114
ドアミラー
格納のしかた 163
操作 163
ブラインドスポットモニター
（BSM） 283
ミラーヒーター 298
リバース連動機能 164
盗難防止装置
イモビライザーシステム 78
オートアラーム 79
トークスイッチ※
時計 322
トップテザーアンカー 65
トノボード 319
ドライビング
ポジションメモリー 152
ポジションメモリー 153
メモリーコール機能 155
ドライブインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ） 97
ドライブインフォメーション 97
メーター操作スイッチ 96
ドライブスタート
コントロール 179, 200
トラクションコントロール
（TRC） 270
トランスミッション 197
シフトダウン制限警告ブザー ... 200
操作 197
パドルシフトスイッチ 198, 199
メンテナンスデータ 460
トリップメーター 91
機能 91
切りかえ・リセットボタン 92

な

内装
収納装備 310
手入れ 344
「ナノイー」..... 301
ナビゲーションシステム※

に

ニーエアバッグ 35
荷物
積むときの注意 187
荷室内装備 315

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）... 455

ね

燃費
エネルギーモニター 106
燃費情報 97, 110
燃料 458
ガソリンスタンドでの情報 500
給油 225
種類 458
燃料残量警告灯 403
容量 458
燃料計 91
ネットフック 315

は

パーキングブレーキ 203
操作 203
パーキングブレーキ表示灯 402
ブレーキ警告灯 401
未解除走行時警告ブザー 205
パーソナルランプ 308
Harmonious Driving Navi. 画面.... 106
排気ガス 67
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 210
オートマチックハイビーム 213
電球（バルブ）の交換.... 375, 384
ランプスイッチ 210
ワット数 461
ハイブリッドシステム 68
EV ドライブモード 195
運転のアドバイス 288
オーバーヒート 451
回生ブレーキ 70
ガス欠になったとき 75
緊急始動機能 439
緊急時の停止方法 392
緊急停止システム 74
駆動用電池冷却用吸入口 74
高電圧部位 73
サービスプラグ 73
事故が発生したとき 76
始動できないときは 438
始動方法 189
車両接近通報装置 69

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

充電 70
注意 73
特徴 68
特有の音と振動 71
パワー（イグニッション）
スイッチ 189
補機バッテリーがあがった 445
メンテナンス・修理・
廃車するとき 72
ハイブリッドシステム
インジケーター..... 93
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 384
ハザードランプ（非常点滅灯）
スイッチ 389
電球（バルブ）の交換.... 379, 384
ワット数 461
挟み込み防止機能
電動サンシェード..... 175
パワーウインドウ..... 167
パワーバックドア..... 131
ムーンルーフ 171
発炎筒 390
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 382
ワット数 461
バックドア..... 125
イージークローザー..... 130
バックドアハンドル..... 126
バッテリー（駆動用電池）
充電について 70
搭載位置 73
冷却用吸入口 74
バッテリー（補機バッテリー）
搭載位置 347
バッテリーがあがった..... 445
パドルシフトスイッチ 198, 199
バニティ（化粧用）ミラー 321
バニティミラーランプ
装備について 321
ワット数 461
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 373
ワット数 461
パワーイージーアクセス
システム 152
パワーウインドウ 166
ウインドウロックスイッチ 166
閉めることができないときは ... 167
操作 166
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 168
挟み込み防止機能..... 167
パワーコントロールユニット..... 73
パワースイッチ 189
パワーステアリング 270
パワーステアリング警告灯 402
パンクした
応急用タイヤ装着車..... 411
タイヤパンク応急修理キット
装着車 423

番号灯
（ライセンスプレートランプ）..... 210
電球（バルブ）の交換..... 384
ランプスイッチ 210
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 159
ステアリングヒーター..... 304

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 270
ヒーター
オートエアコン 294
シートヒーター 304
ステアリングヒーター..... 304
ミラーヒーター 298
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ 389
電球（バルブ）の交換.... 379, 384
ワット数 461
尾灯（テールランプ）..... 210
電球（バルブ）の交換..... 384
ランプスイッチ 210
ヒューズ..... 369
表示灯 87
日よけ（サンバイザー）..... 321
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 270

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方..... 445
フォグランプ
スイッチ 218
電球（バルブ）の交換..... 384
ワット数 461
ブザー
高水温 401
シートベルト非着用..... 403
シフトダウン制限..... 200
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 235
パーキングブレーキ
未解除走行時 205
パワーステアリング..... 402
半ドア 120, 138
半ドア走行 124
窓開 168
ムーンルーフ開..... 173
油圧 401
リバース 201
フック
買い物フック 316
けん引フック 395
コートフック 338
デッキフック 315
ネットフック 315
フロアマット固定フック 24
フューエルメーター（燃料計）..... 91
フューエルリッド（給油口）
給油扉が開かない..... 228
給油のしかた 225
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 290
冬用タイヤ..... 290
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 283

プリクラッシュ
セーフティシステム（PCS）
機能 277
PCS 警告灯 402
PCS スイッチ..... 278
ブレーキ
回生ブレーキ 70
緊急ブレーキシグナル..... 271
パーキングブレーキ..... 203
ブレーキ警告灯 401
ブレーキホールド..... 207
メンテナンスデータ..... 460
ブレーキアシスト 270
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 402
機能 270
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる 182
ブレーキフルード 460
ブレーキホールド 207
フロアマット 24
フロントシート 143
シートヒーター..... 304
シートベンチレーター 304
シートポジションメモリー 152
正しい運転姿勢..... 26
調整 143
手入れ 344
ドライビングポジション
メモリー 152
パワーイージーアクセス
システム 152
ヘッドレスト 157
フロントフォグランプ
スイッチ 218
電球（バルブ）の交換..... 384
フロント方向指示灯 202
電球（バルブ）の交換..... 384
方向指示レバー..... 202

へ

平均車速..... 97, 110
平均燃費..... 97, 110
ヘッドアップディスプレイ 100
ヘッドランプ..... 210
　クリーナー 220
　電球（バルブ）の交換.... 375, 384
　ライトセンサー 211
　ランプ消し忘れ防止機能..... 211
　ランプスイッチ 210
ヘッドランプオートレベリング
　システム 211
ヘッドレスト..... 157
ヘルプネットスイッチパネル※
ベンチレーター（シートベンチ
　レーター）..... 304

ほ

ホイール
　交換（タイヤ）..... 411
　メンテナンスデータ..... 461
ホイールナットレンチ 412, 424
方向指示灯..... 202
　電球（バルブ）の交換.... 379, 384
　方向指示レバー 202
　ワット数 461
ホーン（警音器）..... 159
補機バッテリー
　搭載位置 347
　バッテリーがあがった..... 445
保証 9
ボトルホルダー..... 312
ボンネット（エンジンフード）..... 347

ま

マスターウォーニング 403
マルチインフォメーション
　ディスプレイ..... 95
　警告メッセージ..... 406
　ドライブインフォメーション 97
　メーター操作スイッチ 96

み

ミラー
　インナーミラー..... 161
　ドアミラー 163
　バニティミラー..... 321
　ミラーヒーター..... 298

む

ムーンルーフ
　操作 170
　挟み込み防止機能..... 171

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

め

メーター（計器類）..... 90
警告灯 401
照度調整 92
表示切りかえボタン..... 92
表示灯 87
ヘッドアップディスプレイ 100
マルチインフォメーション
ディスプレイ 95
メーター 90
メカニカルキー..... 115
メモリーコール機能 155
メンテナンスデータ 458

も

モーター（電気モーター）..... 73
モーターでの走行
（EV ドライブモード）..... 195

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 462
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 455
油脂類 458

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 210
電球（バルブ）の交換 384
ランプスイッチ..... 210
ラゲージフック 315
ラジエーター
オーバーヒート..... 451
メンテナンスデータ..... 460
ランプ
インテリアランプ..... 307
オートマチックハイビーム 213
コーナーリングランプ..... 211
室内灯 307
電球（バルブ）の交換 373
パーソナルランプ..... 308
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 389
フロントフォグランプ..... 218
ヘッドランプ（前照灯）..... 210
方向指示灯
（ターンシグナルランプ／
ウインカー）..... 202
ライトセンサー..... 211
ランプ消し忘れ防止機能 211
リヤフォグランプ..... 218
ワット数 461
ランプ消し忘れ防止機能 211

り

リモートタッチ..... 106, 294
リヤアームレスト 337
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 298
リヤシート..... 144
リヤフォグランプ
スイッチ 218
電球（バルブ）の交換..... 384
リヤ方向指示灯 202
電球（バルブ）の交換..... 379
方向指示レバー 202
ワット数 461

る

ルームミラー（インナーミラー）... 161
ルームランプ..... 307

れ

冷却水 460
冬の前の準備 290
メンテナンスデータ..... 460
冷却装置（ラジエーター）..... 460
オーバーヒート 451
メンテナンスデータ..... 460
レーダークルーズコントロール..... 230
接近警報 235
レーダーセンサー..... 238
レーンディパーチャーアラート
（LDA）..... 247
レバー
シフト 197
方向指示 202
ボンネット解除 347
ロック（ドア）..... 121

ろ

ロック
ウインドウロック..... 166
スマートエントリー＆
スタートシステム 137
チャイルドプロテクター 122
ドア 119
バックドア 125
ワイヤレスリモコン..... 114

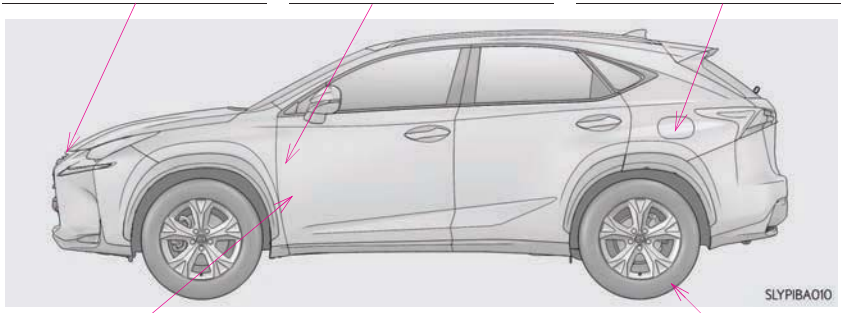
わ

ワイパー＆ウォッシャー
ウォッシャー液の補充..... 353
フロント 220
フロントワイパーデアイサー ... 298
リヤ 223
ワイヤレスリモコン 114
作動の合図 120
操作 114
電池の交換 367
半ドア警告ブザー..... 120
ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）..... 331
ワックス..... 340
ワット数..... 461

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	バックドアスイッチ★	給油口
P. 347	P. 126	P. 227



ボンネット解除レバー	タイヤ空気圧
P. 347	P. 461

燃料の容量（参考値）	56L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン P. 458 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 461
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時： 4.0L オイルとフィルター交換時：4.4L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・SN 10W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30） P. 458

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「個人情報保護方針」については、http://lexus.jp にて掲載しております。

ム-71

M78142
01999-78142
ZS-2015年9月 7日
2015年9月14日初版

NX300h